

大 学 院 履 修 案 内

平成 16 年度

(2004 年度)

慶 應 義 塾 大 学

文 学 研 究 科

本案内は、大学院文学研究科における履修の方法、手続きと講義内容を記載したものです。学生諸君は本案内を熟読したうえで、履修する授業科目を申告してください。

履修申告を期日に行わない者は、退学の処置にすることがあります。(学則 161 条)

申告後の履修科目変更、追加、取消は認めません。又、履修届の閲覧も認めませんので「履修届」の本人用控え（コピー）を手許に残し、後日送付する確認表と合わせて確認の上、年度末まで必ず保管して下さい。この確認を怠った為に生じた不利益（申告漏れ、科目間違い等）については学校側は一切責任を持ちません。確認期間は送付後約一週間（詳しくは提示により指示します）で、この期間経過後は、確認を終了したものと見做します。

申告をしていない授業科目を受験しても一切無効であり、単位は取得できません。

目 次

学事関連スケジュール	3
一般注意事項	4
履修申告方法	13
履 修 要 項	23
講 義 要 綱	27
修士課程設置 哲学・倫理学専攻	28
美学美術史学専攻	36
史 学 専 攻	41
国 文 学 専 攻	53
中国文学専攻	61
英米文学専攻	64
独 文 学 専 攻	76
仏 文 学 専 攻	81
図書館・情報学専攻	86
博士課程設置 哲学・倫理学専攻	98
美学美術史学専攻	100
史 学 専 攻	103
国 文 学 専 攻	107
中国文学専攻	108
英米文学専攻	111
独 文 学 専 攻	113
仏 文 学 専 攻	117
図書館・情報学専攻	119
全研究科共通（修士・博士課程共通）	123
他大学大学院との相互科目履修に関する協定	159
関係規程抜粋	161
学位請求論文製本表紙見本	168

平成16年度 (2004年度) 学事関連スケジュール (三田)

春 学 期	4月1日(木)	成績証明書発行開始(12時30分~)
	2日(金)	情報処理教育室設置講座ガイダンス(10時45分~) 513番教室
	5日(月)	外国語教育研究センターガイダンス(12時20分~) 533番教室 教育実習事前指導(大学院2年以上の今年度実習予定者対象) (15時~) 533番教室 国際センター夏季講座ガイダンス(14時~) 133番教室
	7日(水)	大学院入学式(9時~)〈西校舎ホール〉 履修案内等資料配布(12時~13時20分) 110番教室 文学研究科全体ガイダンス(13時30分~) 教室は掲示します 教職課程ガイダンス(16時~) 517番教室
	8日(木)	春学期授業開始
	15日(木)10時~17日(土)11時	Webによる履修申告期間
	16日(金)	用紙による履修申告日(9時~15時)
	17日(土)	Webによる履修申告登録用紙提出締切日(~16時) 学事センター
	23日(金)	開校記念日(休日)
	28日(水)9時~	学事Webシステム履修科目確認画面稼働開始
	30日(金)	授業料納入期限(春学期・通年)
	5月上旬	履修申告科目確認表送付(本人宛) 履修申告修正期間(期間は履修申告科目確認表に記載)
	6日(木)	修士課程2年生修了見込証明書発行開始 博士課程3年生単位取得退学見込証明書発行開始
	上・中旬	健康診断
	7月14日(水)	春学期授業終了
	15日(木)・16日(金)	春学期補講日
	17日(土)~27日(火)	春学期末定期試験(学部)
	28日(水)~9月21日(火)	夏季休業(8月上旬~中旬 三田キャンパス一斉休業予定)
秋 学 期	9月22日(水)~24日(金)	秋学期ガイダンス 文学研究科のガイダンスはありません
	25日(土)	秋学期授業開始
	29日(水)	9月学位授与式
	10月30日(土)	授業料納入期限(秋学期)
	11月18日(木)1・2時限	秋学期補講日
	11月18日(木)3時限~24日(水)	三田祭期間(準備,本祭,後片付けを含む) 休講
	30日(火)18時10分	休学願提出期限
	12月23日(木)~1月5日(水)	冬季休業(12月下旬~1月上旬 三田キャンパス一斉休業予定)
	1月6日(木)	秋学期授業開始
	10日(月)	福澤先生誕生記念日(休日)
	11日(火)	秋学期月曜代替講義日
	20日(木)・21日(金)	秋学期補講日
	22日(土)~2月4日(金)	秋学期末定期試験(学部)
	下旬	修士論文提出
	31日(月)	修士学位論文提出 10時~14時(11時30分~12時30分を除く)
	2月5日(土)~3月下旬	春季休業
	下旬	博士3年生 在学期間延長申請
	2月下旬もしくは3月上旬	修士論文面接
3月10日(木)	修士修了者発表	
中旬	学業成績表送付(本人宛)	
29日(火)	学位授与式	

注意事項

諸般の事情により、日程・教室等の変更が発生することがあります。変更があった場合は、学内掲示板にてお知らせします。掲示に注意しなかった為に自身が不利益をこうむることがありますので必ず注意してください。

代替講義日について

月曜日と土曜日は、休祭日増や振替休日、早慶野球戦等のため、授業回数が減少する傾向にあります。

授業回数の確保と平準化を図る為に代替講義日が設けられています。

三田キャンパス一斉休業期間など学事センター窓口業務および証明書発行を行わない期間があります。詳しい期日は決定次第掲示によってお知らせします。

一 般 注 意 事 項

学 生 証 (身 分 証 明 書)

1. 学生証は、諸君が慶應義塾大学大学院生であることを証明する身分証明書です。同時に慶應義塾大学学生健康保険互助組合員証、および本塾図書館入館票を兼ねています。
2. 学生証は次のような場合に必要となるので登校の際常に携帯しなければなりません。
 - (1) 本塾教職員の請求があった場合
 - (2) 各種証明書および学割証の交付を受ける場合
 - (3) 各種試験を受験する場合
 - (4) 通学定期券または学生割引乗車券を購入の際、およびそれを利用して乗車船し係員の請求があった場合
3. 再交付手続
学生証を紛失したり、汚損した場合は、写真（縦4 cm，横3 cm カラー光沢仕上げ）1枚を添えて学事センターで再交付を受けてください。新しい学生証は原則、当日発行いたします。ただし、機械のメンテナンス、故障等により当日発行できないこともありますのでご了承ください。
学生証の紛失、裏面シールの紛失については、手数料として2,000円が必要です。
4. 返 却
再交付を受けた後、前の学生証が見つかった場合、退学・修了などで離籍した場合はただちに学事センターへ返却しなければなりません。

掲 示 板

1. 学生諸君への通達事項は、すべて大学院校舎1階の掲示板に掲示されます。毎日機会あるごとに、掲示板に注意してください。掲示に注意しなかったために、諸君自身が非常な不利益を被ることもあります。
なお、他研究科・学部設置科目を履修した場合は、その科目を設置している研究科・学部の掲示板に注意してください。諸研究所、各センター設置科目・講座等については、共通掲示板に注意してください。
2. 主な掲示事項
授業の休講・補講、時間割の変更、教室の変更等毎日の授業に直接関係ある緊急通達、各試験の実施要領、学事日程、呼出し等です。休講・補講、呼出しについては、インターネットに繋がるパソコンまたは携帯電話（i-modeのみ）学事 Web システム（<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>）においても確認できます。また、試験の実施要領、各種発表・通達の一部については塾生ページ（<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>）において確認できます。

試験・レポート・成績

1. 試験

随時授業時間内に行われます。別途指示がある場合には掲示されることがありますので、掲示板にも留意してください。

2. レポート

レポート提出は、教室および研究室で直接教員に提出する場合と、学事センターに提出する場合があります。学事センター窓口への提出を指示された場合は、学事センター指定のレポート提出用紙（2枚複写）に必要事項を記入し、添付してください（2枚とも）。レポート提出用紙は学事センター窓口および西校舎1階学部掲示板前に備えてあります。

3. 学位請求論文（修士論文・博士論文）

各研究科により手続等が異なりますので、履修要項を参照してください。

4. 成績通知

修士課程・博士課程とも学業成績表は3月中旬に本人宛に発送します。

諸 届

下記事項はすべて学事センターで取り扱います。

1. 休学願・退学届・就学届

本年度休学する場合は、11月末日までに指導教授の許可を得たうえで休学願を学事センターに提出してください。病気を理由に休学する場合は、医師の診断書を添付してください。休学期間は当該年度末（3月31日）までとします。休学が次の年度に及ぶ時は、改めて許可を得なければなりません。

休学および留学の期間が終了した場合は、速やかに就学届を提出しなければなりません。

なお、病気を理由に休学をしていた場合には併せて医師の診断書を提出してください。

退学予定者は、退学届に学生証を添えて学事センター窓口に出しつけなければなりません。

2. 留 学

「研究科委員会が教育上有益と認めるときは、休学することなく外国の大学の大学院に留学することを許可することがある。」（学則第124条）

詳しくは学事センター各研究科担当に問い合せてください。

3. 住所変更届（本人・保証人）、保証人変更届、改姓（名）届

各届とも学事センター所定の用紙に記入のうえ速やかに学事センターへ届け出てください。学生証の記載事項変更も同時に行ってください。郵送および電話による届け出は受け付けません。

必要書類

・住所変更届：在学カード

・保証人変更届：変更届、在学カード、誓約書（本人・保証人押印）、保証人住民票

・改姓（名）届：改姓（名）届、在学カード、誓約書（本人・保証人押印）、戸籍抄本、学生証再交付願

なお、履修上の連絡、あるいはその他の重要な事柄の処理に際し、これらの変更届が出されない場合は、極めて重要な支障をきたすことがありますので、十分に注意してください。

各種証明書

証明書の発行、申し込み、受け取りいずれの場合でも学生証が必要です。

授業料が未納の場合、すべての証明書が発行できません。

1. 証明書自動発行機で即時発行する証明書（和文）

証 明 書 種 類	金 額
在学証明書（4月1日 12時30分～）	1通 200円
成績証明書（4月1日 12時30分～）	
修了見込証明書（5月6日～）	
履修科目証明書（6月1日～）	1通 400円
修士課程修了見込証明書付成績証明書（5月6日～）	
学割証（JR各社共通）	無料
健康診断証明書（6月中旬～年度内）	1通 200円

1) 稼働時間

学事センター事務室内発行機：学事センター事務取扱い時間内

南校舎1階設置発行機：9時～20時 [休日および大学休業日は除く]

- 2) 学割証は1人1年間10枚まで発行。有効期限は発行日から3か月以内（有効期間内でも学籍を失った場合は無効）。各種学生団体の課外活動に必要な学割証は学事センター窓口で申し出てください。
- 3) 各種証明書等で厳封を必要とする場合には、学事センター窓口で申し出てください。（自動発行機で発行した証明書は厳封できません。）
- 4) 修了見込証明書は5月6日以降、また履修科目証明書は6月2日以降、発行が可能となります。
- 5) 健康診断証明書は6月以降、定期診断受診者を対象に発行されます。なお、奨学金申請等で6月中旬以前に発行が必要な者は保健管理センター三田分室受付で相談してください。

2. 学事センター窓口で即時発行する証明書（英文）

証 明 書 種 類	金 額
英文在学証明書（4月1日 12時30分～）	1通 200円
英文成績証明書（4月1日 12時30分～）	
英文修了見込証明書（5月6日～）	

3. 学事センター窓口で日数を要して発行する証明書

前記以外の証明書・文書等（例：司法試験用単位取得証明書、公認会計士用証明書、英文履修科目証明書、他大学院受験等のための形式指定の調査書等）の発行に関しては、あらかじめ学事センター窓口で相談してください。なお、作成のための日数がかかりますので、余裕をもって学事センター窓口にお持ちください。

和文書類（受理後標準3日）英文書類（受理後標準1週間）

学事センターの窓口

1. 学事センター事務取り扱い時間

(1) 授業期間中は次のとおり取り扱います。

平日…… 8時30分～18時10分

〔なお、各学部・研究科に関する相談・問い合わせは、次の時間帯でお願いします。〕
8時30分～16時30分

土曜日…… 8時30分～11時30分、12時30分～14時

(2) 休業期間中は次のとおり取り扱います。

平日…… 8時30分～11時30分、12時30分～16時

土曜日…… 8時30分～11時30分、12時30分～14時

事務取り扱い時間を変更する場合、および事務室の閉室については、掲示等でお知らせします。

2. 学事センター窓口業務

学籍・成績・履修に関すること

授業・試験・レポート等に関すること

時間割に関すること

休講・補講に関すること

追加試験の申し込み（一部の修士課程基礎科目）

休学願・国外留学申請・退学届・住所変更届・保証人変更届・改姓（名）届等

学生証の発行

成績証明書・在学証明書等各種証明書の発行（和文はおもに証明書自動発行機）

教室に関すること

通学証明書の発行

落し物は学生総合センター学生課が取り扱います。

修了後および単位取得退学後の成績証明書等の申込・発行は、塾員センター（北館3階）で行います。

教員を訪ねる場合

授業のある日に研究室または教員室を訪ねてください。

専門科目（三田）担当専任教員（教授・助教授・専任講師・助手）……研究室（三田新研究室棟）

他地区専任教員および塾外からの出講者（講師）……教員室（南校舎2階）

学生総合センター窓口

学生総合センターには、主に課外活動・課外授業を担当する学生課、奨学金および学生健康保険互助組合を担当する厚生課、就職進路指導を行う就職課があります。ここでは、学生生活を送るうえで何かと関係深い学生総合センターについて、窓口業務を中心に紹介します。

学 生 課

学生談話室 A・B の使用申し込み受付

授業・ゼミ以外の会合のために学生談話室 A・B を使用したい時は、使用希望日の 4 日前までに申し込んでください。休日の使用はできません。

山食・生協食堂・北館学生食堂の使用申し込み受付

公認学生団体・教職員・OB・研究会等が、山食・生協食堂・北館学生食堂をパーティー等で利用したい場合は、学生課に使用申し込みをし、予約してください。さらに、予約後 1 週間以内に学内集会届を提出し、許可を得る必要があります。学内集会届の提出を怠った場合、予約は取り消されますので注意してください。なお、日曜日・祝日は利用できません。

学外行事届の受付

公認学生団体等が、合宿、コンサート、パーティーなどの学外行事を行う場合には、その 4 日前までに届け出てください（学生教育研究災害傷害保険の項参照）。なお、団体割引、減税証明書等の必要があれば申し出てください。ゼミ合宿等で団体割引が必要な場合についても学生課で受け付けています。

学内における掲示・配布

学生団体で、ポスターやチラシ・パンフレット等を学内で掲示・配布する場合は、学生課に届け出て、場所等の指示を受けることが必要です。

備品使用申請の受付

学生団体で、ステッカー、ワイヤレスマイク、塾旗、水差、椅子、机等を借用したい場合は、使用希望日の 4 日前までに申請してください。

車両入構申請の受付

塾生の車両入構は認められていませんが、学生団体やゼミ等で、やむを得ず車両入構の必要がある場合は、入構希望日の 4 日前までに申請してください。

学生ラウンジの使用

南校舎 1 階の学生ラウンジは、個人での使用として自由に利用してください。開室時間は 8 : 00 ~ 21 : 00 です。室内での飲食はできません。

伝言板および「DENGON」の利用

学生ラウンジ横の黒板および、第一校舎南西角の伝言板「DENGON」は、塾生間の連絡用として自由に利用してください。A 4 用紙 1 枚のみ掲示可能ですが、必ず伝言者の研究科・学年・氏名・連絡先を明記してください。

そ の 他

学生総合センター「大学生生活懇談会」では見学会、講演会、討論会、映画会等の催物を随時行っていますので、積極的に参加してください。また、学生課の窓口には、財団法人大学セミナーハウス、各地合宿所のパンフレット、展覧会の招待券・割引券等も置いてあります。

遺失物は学生課の窓口で取り扱っています。

厚 生 課

奨 学 金

厚生課窓口において、概ね 4 月下旬から奨学金案内を配布し、出願受付を行います。

慶應義塾大学大学院奨学金 [給費]

5月に出願受付を行います。募集日程は西校舎ロビー学生総合センター掲示板に掲示します。
日本学生支援機構(旧日本育英会)奨学金

4月中旬に出願受付を行います。第1種(無利子)と、1999年度から設置された第2種(きぼう21プラン)(有利子)があります。その他に家計急変者を対象とした緊急採用(無利子)・応急採用(有利子)があります。

地方公共団体、社・財団法人等の各種奨学金

募集は大部分4・5月に行います。募集日程はそのつど西校舎ロビー学生総合センター掲示板に掲示します。

奨学融資制度 [奨学金付き学費ローン]

学生諸君の学費の調達の手助けになるよう配慮した制度で、学生本人に金融機関が低金利で学費を直接貸し出しする方式です。在学生であれば、誰でも応募することが可能です。在学中の借りに伴う利子は、規程に従い、慶應義塾が奨学金として給付します。

入学年度等により、適用制度が異なりますので、詳細は厚生課窓口までお問い合わせください。
学生健康保険互助組合

保険証を使用し、病院や診療所で受診した場合、健康保険が適用された自己負担分について、学生健保から医療費給付が受けられます。給付方法は銀行振込となりますので、口座の届出をください。受領口座が未登録の場合には、給付金は振り込まれません。給付を受けるための手続きは、医療機関によって異なりますので、以下に従って手続きしてください。

(1) 慶應病院で受診した場合

病院で診察を受ける際、保険証と学生証を提示してください。また「医療給付金振込口座届」を厚生課へ提出し、振込口座を登録してください。通院は受診月の翌月20日に、入院は翌々月20日に給付金が振り込まれます。

(2) 一般病院で受診した場合

厚生課に置いてある「医療費領収証明書」に、病院で1か月ごとの診療内容を記入してもらい、塾生記入欄を各自記入して、厚生課へ提出してください。ただし、「学生氏名」、「保険点数または保険適用金額」、「負担割合」の3点が明示された領収証が発行されている場合は領収証の添付でかまいませんが、必ず「医療費領収証明書」に保険者番号、傷病名等を記入して提出してください。受診月を含め、4か月以内に提出されない場合は無効になります。振込日は証明書を提出した月の翌月20日です。

組合ではこの他、契約旅館に対する宿泊補助や、海の家、スキーハウスの設置などを行っています。さらに、日吉塾生会館内にトレーニングルームも設置しています。詳しくは、入学時に配付された「健保の手引き」(学生総合センターに置いてあります)を参照してください。

就 職 課

就職課は、就職活動に関するさまざまな情報を収集して提供しています。企業からの求人票・説明会案内をはじめ、会社案内、OB・OG名簿などを、南校舎地下1階の就職課事務室、1階の就職資料室にて、自由な利用に供しています。就職課のホームページには求人企業一欄やさまざまな説明会案内などを掲載しています。

また就職活動支援の一環として、10月から12月にかけて多様な専門家等による講演会、就職ガイダンス、公務員志望者のための説明会、OB・OGや内定者によるディスカッションなどを開催しています。こうした催しはビデオテープに収録し、後日貸し出しも行っています。

就職課は就職活動の進め方を解説した『就職ガイドブック』を作成し、修士1年生全員に配布しています。また皆さんが就職活動をするなかでわからないこと、困ったことがあった場合など、いつでも個別相談に応じています。

就職課を、皆さんの進路決定や就職活動におおいに利用してください。

学生相談室（西校舎地下2階）

学生相談室は、学生生活の中で当面するさまざまな問題や悩みについての個別の相談に応じています。それと共に、小集団の中で自己をみつめることで自己成長を促す「サイコドラマ」や「エンカウンター・グループ」の行事も行っています（このスケジュールは相談室に問い合わせてください）。

相談内容に関しては、それがいかなる種類のものであっても個人の秘密を厳守しますし、すべては来訪者とカウンセラーの間のこととして扱われますので、気軽に相談に来てください。

各課窓口取り扱い時間

学生課・厚生課・就職課

平日…… 8時30分～16時20分

土曜日…… 8時30分～14時20分

都合により閉室することがあります。

学生相談室

平日…… 9時30分～16時

土曜日…… 9時30分～14時

昼休み……11時30分～12時30分

学生教育研究災害傷害保険について

諸君の教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために、大学で保険料の全額を負担し、日本国際教育支援協会センターの「学生教育研究災害傷害保険」に加入しています。

この保険の適用を受ける「教育研究活動中」とは次の場合をいいます。

(1) 正課を受けている間

講義、実験・実習、演習または実技による授業（総称して以下「授業」といいます）を受けている間をいい、次に掲げる間を含みます。

指導教員の指示に基づき、卒業論文研究または学位論文研究に従事している間。ただし、もっぱら被保険者の私的生活にかかわる場所において、これらに従事している間を除きます。

指導教員の指示に基づき、授業の準備もしくは後片付けを行っている間、または授業を行う場所、大学の図書館・資料室もしくは語学学習施設において研究活動を行っている間。

(2) 学校行事に参加している間

大学の主催する入学式、オリエンテーション、卒業式などの教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

(3) (1)(2)以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有、使用または管理している施設内にいる間。ただし、寄宿舍にいる

間、大学が禁じた時間もしくは場所にいる間、大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

(4) 学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間

大学の規則に則った所定の手続きにより、大学が認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動または体育活動を行っている間。ただし山岳登はんやハンググライダーなどの危険なスポーツを行っている間を除きます。

保険金は本人（被保険者）の申請に基づき支払われますので、上記活動中に万一事故にあった場合は、学生課で相談のうえ、所定の手続きを行ってください。また、本保険の適用が円滑に行われるため、ゼミ合宿を学外で行う場合、および学内学生団体が学外で活動する場合は、その都度「学外行事届」を提出してください。

その他この保険に関する詳細については、直接学生課窓口で尋ねてください。

任意加入の補償制度について

任意加入の補償制度としては、保険と共済の2つがあり、加入希望の場合は直接それぞれに申し込むかたちになっています。

「学生総合補償」保険は、(株)慶應学術事業会（慶應義塾関連会社）に、「学生総合共済」保険は慶應生活協同組合に、資料請求してください。

連絡先 (株)慶應学術事業会 ☎ 03-3453-6098

慶應生活協同組合 ☎ 045-563-8489

学生カード・大学に対する要望カードの提出について

学生カードの提出によって住所変更の届けをすることはできません。

次に従って提出してください。

1. 提出学年

全学年

2. 提出方法

提出日：4月末日まで

提出先：学生総合センター学生課窓口

3. 記入上の注意

学生カードは諸君の在学中に活用する資料ですので必ず提出してください（やむをえず提出日に提出できなかった場合でも、後日必ず学生課に提出してください）。

大学に対する要望カードは、大学における今後の研究・教育・学生生活において、改善のための参考に資するものです。諸君が今までの大学生活の中で、教育一般・カリキュラム・施設・その他感じたこと、思ったことで大学に対する要望がありましたら、学生カードに連なる同じカードに記入し、学生総合センター学生課に提出してください。

緊急時における授業の取り扱いについて

交通機関ストライキ、台風・大雨・大雪・地震などの各種自然災害により鉄道等交通機関の運行が停止した場合や、大規模地震対策特別措置法（大震法）に基づく警戒宣言が発せられた場合などの授業の取り扱いは次のとおりとします。

1. 鉄道等交通機関運行停止時の授業の取り扱い

【対象事由】

1. 交通機関のストライキ
2. 台風・大雨・大雪・地震などの各種自然災害によるもの

【対象路線】

・山手線 ・中央線（東京 高尾間） ・京浜東北線（大宮 大船間） ・東急（電車に限る）

【時間・対応策】

1. 午前6時30分までに運行を再開した場合は、平常どおり授業を行います。
2. 午前8時までに運行を再開した場合は、第2時限から授業を行います。
3. 午前10時30分までに運行を再開した場合は、第3時限から授業を行います。
4. 正午までに運行を再開した場合は、第4時限から授業を行います。
5. 正午を過ぎても運行が再開されない場合は、当日の授業を休講とします。

【その他】

授業開始後に運行停止となるような場合は、状況により授業の短縮や早退など別途措置を講じます。掲示や構内放送、下記のホームページによる大学からの指示に従ってください。

交通機関の運行状況に係わらず、大規模な災害や事故等が発生した場合の授業の取り扱いについては、状況によりその都度指示することとします。

2. 大震法に基づく警戒宣言が発せられた場合の授業の取り扱い

首都圏・東海地方を中心とする大規模な地震発生が予想され、大規模地震対策特別措置法（大震法）に基づく「警戒宣言」が発せられた場合の授業の取り扱いは下記のとおりとします。

[1] 「警戒宣言」が発せられた場合、ただちに全学休校とします。

[2] 地震が発生することなく「警戒宣言」が解除されたときの対応は、交通機関運行停止時の場合に準じます。

3. 早慶野球戦が行われた場合の授業について

試合が行われる場合、授業は第1時限のみとし、第2時限以降は応援のため休講とします。

ただし雨天等で中止になった場合は平常通り授業を行います。（第3戦以降もこれに準じます。）

試合の開催を確認する場合には、神宮テレフォンサービスへ直接お問い合わせください。

神宮テレフォンサービス (03-3236-8000)

履修申告方法

第1 履修申告について

履修申告は、指導教授の許可を得た上で指定された期日に必ず行うようにしてください。

1 履修申告方法について

履修申告は WEB もしくは申告用紙で行ってください。履修申告のしかたについては後述の「学事 WEB システムによる方法」および「履修申告用紙による方法」を参照してください。

2 学事 WEB システムによる方法

(1) はじめに

学事 WEB システムを使って履修するためには、新生はまず資料配布時に配られたパスワードを使って、インターネットにアクセスしてください。

(2) 学事 WEB システムによる履修申告の日程および URL

日程：4月15日（木）10時～4月17日（土）11時まで

WEB による履修申告システムの URL は、<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/> です。

(3) 学事 WEB システムによる履修申告すすめ

履修申告は学事 WEB システムによる申告か、履修申告用紙による申告のできる限りどちらか一方で行ってください。

学事 WEB システムによる履修申告の大きなメリット

- ・申告期間中であれば、いつでも、何回でも履修の修正が可能
- ・期間内であればエントリーされている科目を画面で確認が可能

(4) その他

操作方法については、<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/> の画面内にマニュアルを用意してあります。また、後述「学事 WEB システムマニュアル」を参照してください。

3 履修申告用紙による方法

履修申告用紙は、下記の期日に必ず提出してください。

提出日：4月16日（金）9時～15時 学事センター（修士・博士同日）

なお、履修申告用紙（マークシート）の記入については、後述の説明を参照してください。

履修申告用紙提出後の履修科目の変更・追加・取消は認められません。また履修申告用紙の閲覧、履修科目の照会にも応じませんので、各自提出する履修申告用紙の控え（コピー）を必ず手元に残すようにしてください。

（学事 WEB システムによる申告であれば、履修の修正と確認が可能です。）

4 注意事項

(1) 履修申告を期日に提出しない者は、退学の処置にすることがあります。（学則第 161 条）

(2) 履修申告用紙提出後の科目登録の確認を 5 月上旬頃行います。学事センターから履修申告科目確

認表を郵送しますので、手元に残した履修申告用紙の控えと科目名、担当者名、曜日、時限、分野等を必ず確認のうえ、年度末まで大切に保管してください。履修の確認は修正期間（5月中旬予定）までに行い、修正すべき点または疑問点があれば、修正期間に必ず申し出なければなりません。この確認を怠ったために生じた不利（申告漏れ、科目間違いなど）は各自の責任となります。

- (3) 時間割は変更することがありますので、掲示を確認のうえ提出日直前に記入してください。
- (4) 履修申告をしていない授業科目を受験しても一切無効ですので、単位は取得できません。
- (5) 留学（学則 124 条）が認められた者および予定の者の履修申告については、学事センター文学研究科係まで問い合わせてください。（P. 25 「留学について」参照）

第2 履修申告にあたっての注意事項

1 登録番号

1つの授業科目には1つの登録番号が付いています。

集中講義，語学視聴覚教育研究室設置の口語外国語および実験を伴う科目等で複数の曜日・時限にわたって開講している授業科目についても，必ず登録番号は1か所のみ付いていますので，その登録番号で申告することで，他の時限についても登録されます。この場合，番号の付いていない曜日・時限に別の科目を登録することはできませんので注意してください。

早稲田大学大学院，学習院大学大学院，および上智大学大学院設置の科目は，P. 22「他大学大学院との相互科目」を読んで，別途履修申告をしてください。(修士課程のみ)

2 A欄・B欄について

履修申告欄は，A・B欄によって構成されています。どちらの欄で申告するかは以下のとおりです。ただし，同一科目をA欄およびB欄の両方で申告する必要はありません。

〈A欄に記入する科目〉

所属課程・所属専攻設置の科目

〈B欄に記入する科目〉

上記以外の科目（認定科目，研究所等設置科目，自由科目として申告する科目）

なおB欄で申告する際は(3)系列表のB欄分野番号を指定の上，登録してください。

3 系列表

修士課程在籍者			
種類	分野番号	B欄分野番号	A欄・B欄の区別
文学研究科 修士課程所属専攻 設置科目 (履修案内 p. 19～参照)	01-01-01	—	A欄で申告すると自動的に01-01-01の分野で登録されます。
上記以外の認定科目 (指導教授の許可が必要です)	01-02-01	12	B欄でB欄分野番号を指定した上で登録してください。
自由科目	09-01-01	99	
他大学交流科目	01-03-01	—	他大学大学院設置科目履修申告用紙に記入してください。

博士課程在籍者			
種類	分野番号	B欄分野番号	A欄・B欄の区別
文学研究科 博士課程所属専攻 設置科目 (履修案内 p. 52～参照)	01-01-01	—	A欄で申告すると自動的に01-01-01の分野で登録されます。
上記以外の認定科目(指導教授の許可が必要です)	01-02-01	12	B欄でB欄分野番号を指定した上で登録してください。
自由科目	09-01-01	99	

〈認定科目〉(B欄分野番号12)

研究上適当と認められた場合に限り，大学院学則の修士は11条，博士は18条に定める以外の科目をこの系列で登録出来ます。課程修了に必要な単位として計算されますので，この登録には指導教

第3 学事 WEB システムマニュアル

校内のパソコンからは無論のこと、自宅や海外からでもインターネットに繋がるパソコンがあれば、学事 WEB システム（以下 WEB システム）を利用して履修申告をすることができます。

WEB システムを利用するための ID（学籍番号）とパスワードは、入学時に学生証と一緒に配布されます。このパスワードは途中変更は可能ですが、卒業するまでの間、使用することになります。全て個人管理になるので忘れないように十分注意してください。

WEB システムには以下の 5 つの機能があります。

- ・履修申告
- ・登録済科目確認
- ・休講補講情報
- ・パスワード変更
- ・メールアドレス変更

WEB システムを利用すれば、履修申告期間中に履修登録の修正を何度もすることが可能です。また、履修申告期間終了後は、ある一定の期間で自分の登録した科目を Web 上で確認することができます。さらに、全キャンパスの休講補講情報を、パソコンや携帯電話（i-mode のみ）を使って確認することができます。

...注 意...

もし学事 WEB システムのパスワードを忘れてしまった場合には、4月7日（水）16時までに学事センターでパスワード再発行の手続きを行ってください。（学事 WEB システムのパスワードを変更していない学生については、3月に送付した成績表右上に印字されています。）

また、校内のパソコンを利用するための「Windows パスワード」を忘れてしまった場合は、インフォメーションテクノロジーセンター（大学院校舎地階）で変更申請の手続きを行ってください。

校内のパソコン以外に、自宅などからでもインターネットに繋がるパソコンがあれば、学事 WEB システムは利用可能です。

1 履修の申告

WEB システムを利用しての履修申告日程と WEB システムの URL は以下の通りです。

日程：4月15日（木）10時～17日（土）11時まで

学事 WEB システムの URL：http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/

学事 WEB システムは、保守のため午前 4 時から 1 時間程度利用できません。

履修申告はブラウザのみです。（i-mode からは操作できません。）

(1) URL の入力

[ブラウザ用] を選択してください。

（学事 WEB システムの操作方法（特にログオンできない場合などの解説）や、よくある質問についての回答などは、このページに用意されています。）

(2) **[ログオン] ボタン**

[ログオン] ボタンを押してください。

この画面以降ブラウザの「進む」「戻る」ボタンは使用しないでください。

(3) **ログイン (ログイン画面)**

「ID (学籍番号)」と、配布された「学事 WEB システム初期パスワード」を入力し、[ログイン] ボタンを押してください。画面がうまく表示されない場合は、前述の「ログオンできない場合はこちら」を選択し、ブラウザの設定方法等を確認してください。

(4) **メールアドレスの変更 (トップメニュー画面)**

履修登録終了時に送信される「履修登録結果」の受信先メールアドレスの登録・変更ができます。「履修登録結果」が確認できる状態の電子メールアドレスを登録してください。

新入生には、学生証と一緒に配布された「電子メールアドレス」が既に登録されていますので、登録は不要です。

変更する場合には、新たに登録する電子メールアドレスを2箇所入力し(再入力欄にも同じものを入力する)、[登録] ボタンを押してください。

(5) **履修申告メイン画面へ進む (トップメニュー画面)**

[履修申告] ボタンを押して、[WEB による履修申告上の注意] を選択し、必ず注意文を熟読した後に、[履修申告メイン画面へ進む] ボタンを押してください。

(6) **科目を選択 (履修申告メイン画面)**

以下の2通りの方法で科目の選択ができます。

時間割から科目を選択したいとき

[時間割から選択] ボタンの右側で設置学部 / 研究科・学科・学年を選択してから、ボタンを押してください。(初期設定では自分の所属する研究科・学科および学年が指定されています)

科目選択画面(時間割選択)が表示されますので、曜日時限毎に科目および分野をプルダウンリストから選択し、最後に[選択を終了]を押してください。

登録番号から科目を選択するとき

[登録番号で選択] ボタンを押してください。科目選択画面(登録番号)が表示されますので、配布された時間割表記載の5桁の登録番号を入力してください。[科目名を確認] ボタンを押し、〈科目情報〉欄に表示される科目名、曜日時限などの情報を確認した上で、最後に[選択を終了]を押してください。

いずれの方法も、分野(A・B欄)の選択はマークシート用紙による記入と同様です。

(7) **科目の確認**

選択した科目が、一覧表示されますので確認してください。(選択直後は〈状態〉欄に「未登録」として表示されます。)

(8) **科目の取消 (履修申告メイン画面)**

取り消したい科目の登録 No. の左側にチェックをつけ、[選択の取消] ボタンを押してください。その後、一覧表から削除されたことを確認してください。

(9) **登録科目の確認 (履修申告メイン画面)**

選択されている科目を確認したら、画面一番下の [登録] ボタンを押してください。(6)(8)で行っ

た内容はこの [登録] ボタンを押すまで有効になりません。

選択した科目について、曜日時限の重複や不足科目等のエラーチェックが行われ、結果が表示されます。

エラーメッセージの詳細は、「履修申告メイン画面」の STEP 2 の横にある [エラーの詳細説明] を参照してください。

エラーがある場合には、状態 欄に「保留中」と表示される場合があります。

「保留中」で残っている科目は履修申告期間終了後に登録が取り消されます。

この画面を控えとしてプリントアウトしてください。

登録内容を変更したい場合は、[履修申告画面へ戻る] ボタンを押し、(6)からの手順を再び行ってください。

登録内容が良ければ、[履修申告を終了する] ボタンを押ししてください。

ここで Web ブラウザを終了しないでください。

(10) ログアウト (トップメニュー画面)

(4)で登録されているメールアドレス宛に、履修申告の受付番号と「履修登録結果」が送信されます。受付番号は各自で控えてください。

[ログアウト] ボタンを押し、ログアウトしてください。

2 新規履修申告科目が無い場合 修士2年生、博士3年生のみ使用可能

修士2年生、博士3年生で、前年度までに修了単位を満たしており、今年度履修申告する科目が1つもない場合のみ以下の操作を行ってください。なお、必ず履修申告画面で次の点を確認してから申告を行ってください。

- ・すでに当該年度において登録済の科目がないかどうか。

登録済みの科目がある場合には「新規履修申告科目なし」の申請は無効の扱いになります。

必ず登録科目を削除してから行ってください。

- ・1科目も登録しない状態で「登録する」ボタンを押し、エラーメッセージがないかどうか。

エラーが出た場合修了単位を満たしていないと考えられます。

(1) 前述1の(4) (トップメニュー画面) まで同様の操作をし、画面上の [新規履修申告科目なし] ボタンを押ししてください。

(2) [申請する] ボタンを押ししてください。

(3) 「今回の履修申告では、科目の申請を行いません。[新規履修申告科目なし] の申請を行いました。」と表示されます。この画面を控えとしてプリントアウトしてください。

(4) メニュー画面に戻ると、「[新規履修申告科目なし] の申請が行われました。」と赤字で表示されるので確認した後、ログアウトしてください。

申請を取り消す場合は(1)に戻り、(2)の画面で [申請を取り消す] ボタンを押ししてください。

メニュー画面に「[新規履修申告科目なし] の申請は取り消されました。履修申告を行うことができます。」と表示されたら前述1の履修申告を行ってください。

3 履修科目の確認

履修申告で正しく登録された科目は、ある一定の期間で WEB システムから再度確認することができます。

(確認できる日程や詳細などは学事部門ホームページで案内します。http://www.gakuji.keio.ac.jp/)

前述 1 の (4) (トップメニュー画面) の画面から, [登録済科目確認] ボタンを押して, 履修申告科目を確認してください。

4 休講・補講情報の確認 (ブラウザ編)

(1) 休講・補講情報検索条件設定画面

前述 1 の (4) (トップメニュー画面) の画面から [休講補講情報] ボタンを押してください。

(2) 検索条件設定

自分の履修中科目の休講情報, あるいは他キャンパス設置の科目など, 検索対象を選択してください。また, 検索期間の選択も同様に行ってください。選択が終了したら, [休講・補講情報を検索する] ボタンを押してください。

5 休講・補講情報の確認 (i-mode 編)

(1) URL の入力

学事 WEB システムの URL (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) を携帯電話の i-mode 画面から入力 (詳しくは携帯電話の説明書をお読みください) し, 前述 1. の 1. の画面上で [i-mode 用] を選択してください。以後, WEB 休講補講情報を繰り返して利用する場合には, 上記の学事 WEB システムの URL を i-mode のブックマーク等に登録しておくと便利です。(詳しくは携帯電話の説明書をお読みください。)

(2) サーバーの選択 (i-mode 用メニュー)

[サーバー 1] もしくは [サーバー 2] を選択してください。選択は任意です。

(3) ログイン

学籍番号と学事 WEB システムパスワード」を入力し, [ログイン] ボタンを押してください。

(4) 休講・補講情報の選択

この画面から [休講情報] ボタンを押してください。補講情報の確認やパスワードの変更もこの画面からできます。(後述の 5 を参照)

(5) 検索条件設定と休講情報の確認

自分の履修中科目の休講情報, あるいは他キャンパス設置の科目など, 検索対象を選択してください。検索期間は検索日から 1 週間後までの情報が表示されます。休講情報の確認が終了したら, [検索画面へ戻る] ボタンを押してください。

5 パスワードの変更

初期パスワードは紙面に印刷されているため, セキュリティ上パスワードを再設定することを推奨しています。以下の操作で行ってください。

(1) トップメニュー画面

前述 1 の (4) (トップメニュー画面) の画面から, [パスワード変更] ボタンを押してください。

(2) パスワードの変更

「現在のパスワード」を入力し, 「新パスワード」を 2 箇所入力後 (再入力欄にも同じものを入力する), [パスワード変更] ボタンを押してください。

第4 履修申告用紙（マークシート）の記入について

（記入にはHBかBの鉛筆を使用）

1 記入時の注意事項

研究科，専攻（分野），学年，氏名，学籍番号および提出日を記入して下さい。学籍番号は数字で記入するとともに，該当する数字をマークしてください。修士または博士どちらかに印をつけてください。なお，学科欄の記入は必要ありません。

- (1) 登録番号は，時間割に記載されている5桁の数です。科目名・教員名・番号が正しく書けていてもマークを間違えると登録されません。
- (2) 一度記入した科目の訂正・変更等は，消しゴムを使用せず，無効マーク欄を塗りつぶして改めて記入してください。
- (3) 提出期限外の受付は一切できません。
- (4) 提出前に必ずコピーを取ってください。

2 履修科目の記入方法

(1) A欄記入上の注意

- ア 時間割に記載されている曜日時限・科目名・教員名・登録番号を記入します。
複数の教員が担当する科目は時間割上段に記載されている教員名を記入します。
- イ 形態 [春・秋・通年] を で囲み，登録番号をマークします。

(2) B欄記入上の注意

- ア 時間割に記載されている曜日時限・科目名・教員名・登録番号を記入します。
複数の教員が担当する科目は時間割上段に記載されている教員名を記入します。
- イ 第4(3)系列表を参照しB欄分野番号を記入します。
- ウ 形態 [春・秋・通年] を で囲み，登録番号・B欄分野番号をマークします。

(3) A・B欄共通の注意

科目名・教員名・登録番号などを記入しても，マークの塗り忘れがあると科目は登録されませんので注意してください。

(4) 無効マーク

無効マークをマークすると，その枠内の登録内容について無効にすることができます。訂正は消しゴムを使用して修正することができますが，跡が残ったり，黒くこすれたりした場合は，無効マークを利用してください。

(5) 履修申告用紙の再交付について

履修申告用紙提出前の科目の訂正および変更等は，なるべくこの欄無効マークを使用して無効にした上で正しい科目を登録してください。それでも訂正し切れない場合は交換しますので，その履修申告用紙を持参の上，学事センターに申し出てください。

交付された履修申告用紙では記入欄が足りない場合も学事センターに申し出てください。

第5 他大学大学院との相互科目履修

修士課程在学中に、8単位を限度として早稲田大学大学院文学研究科・学習院大学大学院人文科学研究科・早稲田大学大学院教育学研究科および上智大学大学院哲学研究科（哲学・倫理学分野のみ）の設置科目を履修することができます。

また、この科目は課程修了に必要な単位とすることができます。

巻末（P. 159）に記載されている協定を参照してください。

大学院交流手続き方法について

1. 交流履修届（本塾学事センター窓口にあり）に必要な事項を記入して、指導教員の承認（サインをA・B・C三片にもらうこと）をうけてください。次に相手校へ赴き、講義担当者の当該授業に出席して承認をうけた後、（A・B・C三片にサインをもらうこと。ただし上智大学の場合は口頭で許可を得ればよいこととする。）早稲田大学・文学研究科事務室，早稲田大学・教育学研究科事務室，学習院大学・教務部，上智大学・学事部へ指示された期間中に提出してください。
2. 履修が許可された場合，本塾学事センター窓口にて，本人用交流履修届（A片）を手渡し交流学生証を発行します。
3. 相手校の学科目を履修する場合は，必ず予め指導教員の承認をうけてください。これは履修決定以前の聴講の場合でも同様です。
4. 万一，履修を途中でやめるようなときは，速やかに講義担当者，相手方教務部および指導教員，本塾学事センターに連絡してください。

履 修 要 項

第 1 課程修了にいたるまでの要件

課程修了の認定は、研究科委員会が行う。(学則第 109 条)

1. 修士課程

文学研究科修士課程に 2 年以上在籍し、32 単位以上の授業科目を修得し、かつ研究上必要な指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。(学則第 11 条・15 条・109 条参照)

2. 博士課程

文学研究科後期博士課程に 3 年以上在籍し、原則として各年度 2 科目 4 単位以上を 3 年にわたり履修、指導教授の担当する 2 科目を含め、合計 6 科目 12 単位以上の授業科目を修得した上、学位論文(博士論文)の審査及び最終試験に合格することとする。(学則第 18 条・19 条・109 条参照)

なお、上記要件のうち、学位論文の審査及び最終試験を除き、所定の教育課程を終えた段階で修了する場合「単位取得退学者」として扱われます。(第 5 単位取得退学及び在学期間延長について参照)

第 2 学位請求論文の提出について

1. 修士論文の提出と修士学位の授与

修士の学位は、大学院前期博士課程、大学院修士課程を修了した者に与えられる。(学位規程第 3 条)

第 3 条の規定に基づき修士学位を申請する者は、学位論文 3 部を指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。(同第 7 条)

・ 修士論文提出及び学位申請に関する手順は次のとおりです。

(1) 修士論文題目届

指導教授と相談の上、修士論文の提出が許可された場合は、所定用紙にて論文題目を届出てください。詳細については 10 月中旬に掲示板にて指示します。

なお、この届を提出した後に論文提出を辞退する場合は、必ず学事センターに申し出てください。

(2) 論文提出 (1 月下旬予定)

提出日、提出方法については掲示板上にて指示します。なお、論文題目については (1) で提出した題目(副題目も含む)と同じものとします。

(3) 修士論文面接 (3 月上旬予定)

提出された論文をもとに面接が行われます。面接時間等については論文提出時にお知らせします。

2. 博士論文の提出と博士学位の授与

(1) 課程による博士学位の授与（「課程博士」）

博士の学位は、大学院博士課程を修了したものに与えられる。（学位規定第4条）

第4条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部及び所定の書類を添え、指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。（同第7条）

なお課程による博士学位は原則として、修了に必要な単位を取得し、在学中に学位論文を提出し、かつ文学研究科委員会にて受理され、合格した場合に与えられますが、博士課程入学後6年以内に学位論文が文学研究科委員会にて受理されれば、課程博士として申請することができます。

これは、在学期間内の文学研究科委員会にて論文受理後、審査の途中で退学を希望する場合や、博士課程入学後6年の期間内に学位論文が提出され、同期間内の文学研究科委員会にて受理された場合などが該当します。

(2) 論文による博士学位の授与（「論文博士」）

博士の学位は、研究科委員会の承認を得て学位論文を提出して論文の審査に合格し、かつ大学院博士課程の修了者と同等以上の学識があることを確認（以下「学識の確認」という）された者に与えられる。（学位規程第5条）

第5条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部及び所定の書類を添え、その申請する学位の種類を指定して、学長に提出しなければならない。

（同第8条）

・博士論文を提出する場合は、学事センターで手続方法等について確認してください。

3. 論文体裁について

学位請求論文については三田メディアセンター（図書館）及び国立国会図書館（博士論文のみ）に所蔵しますので、なるべく下記の体裁に整えるよう協力をお願いします。なお、資料等の都合でどうしても規定の大きさに入らない場合は、これに従って表紙を付けて製本してください。

本文の縦書き・横書きにかかわらず、原則として縦A4版で製本してください。

（縦書きの場合は右綴じ、横書きの場合は左綴じとなります）

表書きは、本文が縦書きの場合は縦書き、横書きの場合は横書きとします。

表紙は黒を原則とし、白文字または金文字を使用してください。

製本の背文字は、本文の縦書き、横書きに係わらず縦書きとしてください。

表紙の見本をこの案内の巻末に示します。既に公刊されている書物等を学位請求論文とする場合についてはこの限りではありません。

4. 三田メディアセンターからの修士論文複写許諾協力依頼

三田メディアセンター（図書館）では修士論文を保存し利用に供しています。利用者が修士論文を学術目的のために「複写する」ことに対し、現行の著作権法下では、事前に著作権者からの許諾を必要としています。

修士論文を学事センターに提出する際に、「修士論文の複製に関する許諾書」をお渡ししますので、上記趣旨に賛同いただける方は必要事項を記入の上、三田メディアセンター（図書館）受付カウンター

に、学位授与式までに提出して下さい。なお、今年度の学位授与名簿に記載されなかった場合は、メディアセンターが責任をもって廃棄します。

第3 留学について

留学を希望する場合は、指導教授と相談の上、少なくとも出発の3週間前までには学内での手続きを終えておくようにしてください。手続きの手順は以下の通りです。

学事センターにて交付される留学申請書に必要事項を記入する。

留学申請書に記載されている必要書類を用意する。

と を合わせて学事センターに提出し検印を受け、これらの書類をもとに国際センターで留学の認定をしてもらう。

指導教授と面接し承認印を受けたのち、再度学事センターに提出する。

留学は1回の申請につき1年を限度としますので延長の場合は早目に延長の手続きをとるようにしてください。

第4 休学について

休学を希望する場合は、指導教授と面接の上、休学する年度の11月末までに休学届を学事センターに提出してください。

第5 単位取得退学及び在学期間延長について（後期博士課程のみ）

1. 単位取得退学

大学院後期博士課程修了に必要な単位を取得し、規定の在学年数（3年）を満たした場合、単位取得退学者として修了することができます。

年度の途中で単位取得退学を希望する場合は、単位取得退学届を提出してください。年度末で「在学期間延長許可願」を提出し所定の手続を取らない限り、単位取得退学者として扱われます。

なお、3年以内に博士論文を提出する目処がある場合に限り、三田メディアセンターの図書貸出を受けられる「塾員貸出券」（有料）を発行しています。詳細は図書館1階メインカウンターまでお尋ねください。

有効期間：申込日より6ヶ月もしくは1年

サービス範囲：三田メディアセンターに関しては大学院生と同等の貸出規則を適用する。

日吉、理工学、湘南藤沢の各メディアセンター、白楽サテライトライブラリーへの入館・閲覧が可能。

他大学図書館への紹介状の発行。

2. 在学期間延長許可願について

3年間の在学中に博士課程修了に必要な単位を取得した者で、博士論文作成にまだ時間を要する場

合、在学最長年限を超えない範囲で、1年を単位として在学期間の延長を許可することができます(通常3回まで)。例年2月末までに「在学期間延長許可願」を学事センターに提出することになっています。

講義要綱・シラバス

修士課程設置科目

哲学・倫理学専攻

哲学特殊講義Ⅰ（春学期）

時間の哲学

教授 西脇 与作

授業科目の内容：

時間（と空間）の哲学を全般的に解説した上で、時間の向きに関する論文を読みながら、物理学的な時間の特性について議論したい。

哲学特殊講義Ⅱ（秋学期）

時間の哲学

教授 西脇 与作

授業科目の内容：

春学期の解説をもとに、統計力学を中心にした時間の向きに関する論文を読み、議論する。

哲学特殊講義Ⅲ（春学期）

教授 岡田 光弘

授業科目の内容：

現代論理学の諸問題と修士課程（哲学特殊）との共通。線形論理を中心に、現代論理学の観点や手法を分析する。その上で、論理哲学及び数学の哲学の伝統的な諸問題に対して現代論理学がどのような新しい考え方を提出し得るかを検討する。

中級論理学（述語論理の完全性定理及び説明の正規化定理）程度の知識を前提とする。

哲学特殊講義Ⅳ（秋学期）

教授 岡田 光弘

授業科目の内容：

哲学特殊講義Ⅲと同じ。

哲学特殊講義Ⅴ（春学期）

言語哲学の諸問題

言語文化研究所 教授 西山 佑司

授業科目の内容：

自然言語にまつわる現代哲学的な諸問題を検討する。この講義を通して、人間言語なるものが、世界、知識、論理といかに関係しているかを理解していただ

く。

哲学特殊講義Ⅵ（秋学期）

言語哲学の諸問題

言語文化研究所 教授 西山 佑司

授業科目の内容：

前期に引き続き、自然言語にまつわる現代哲学的な諸問題を検討する。この講義を通して、人間言語なるものが、世界、知識、論理とどのような関係を有しているかを理解していただく。

哲学特殊講義Ⅶ（春学期）

休講

哲学特殊講義Ⅷ（秋学期）

休講

哲学特殊講義Ⅸ（春学期）

集合論入門

照井 一成

授業科目の内容：

公理的集合論の解説を行う。ZF 集合論の初歩から始めて、ゲーデルによる連続体仮説の整合性証明まで到達することを一応の目標とする。時間があればコーエンによる強制法（Forcing）の解説も行いたい。講義と演習を併用する形で授業を進める。

哲学特殊講義Ⅹ（秋学期）

集合論入門

照井 一成

授業科目の内容：

公理的集合論の解説を行う。ZF 集合論の初歩から始めて、ゲーデルによる連続体仮説の整合性証明まで到達することを一応の目標とする。時間があればコーエンによる強制法（Forcing）の解説も行いたい。講義と演習を併用する形で授業を進める。

哲学特殊講義Ⅺ（春学期）

カント『純粹理性批判』の読解と分析

講師 大橋 容一郎

授業科目の内容：

例年の通り、カントの批判期主要著作の解説と分析。本年は『純粹理性批判』の「超越論的方法論」を読みます。この「方法論」は、弁証論的誤謬に陥らないための理性の訓練と規準を扱っていますが、同時に

また、カントが思い描いていたさまざまな客体世界（数学の世界、経験の世界、理念の世界、道徳の世界、宗教の世界など）が立ち現れている興味深い箇所でもあります。

哲学特殊講義XII（秋学期）

カント『純粹理性批判』の読解と分析

講 師 大 橋 容 一 郎

授業科目の内容：

例年の通り、カントの批判期主要著作の解読と分析。本年は『純粹理性批判』の「超越論的方法論」を読みます。この「方法論」は、弁証論的誤謬に陥らないための理性の訓練と規準を扱っていますが、同時にまた、カントが思い描いていたさまざまな客体世界（数学の世界、経験の世界、理念の世界、道徳の世界、宗教の世界など）が立ち現れている興味深い箇所でもあります。

哲学特殊講義XIII（春学期）

開關の哲学

講 師 永 井 均

授業科目の内容：

私、今（現在）、現実、神、そして言語について、世界の開關という観点から論じます。
デカルト、ライプニッツ、カント、マクタガード、ウイトゲンシュタインが論じた問題と彼らの考察を利用します。
独我論、時間の非実在性、可能世界、存在論的証明、私的言語といったテーマが関連を持ちます。

哲学特殊講義XIV（春学期）

開關の哲学

講 師 永 井 均

授業科目の内容：

私、今（現在）、現実、神、そして言語について、世界の開關という観点から論じます。
デカルト、ライプニッツ、カント、マクタガード、ウイトゲンシュタインが論じた問題と彼らの考察を利用します。
独我論、時間の非実在性、可能世界、存在論的証明、私的言語といったテーマが関連を持ちます。

哲学特殊講義XV（春学期）

現象学の基本問題

講 師 村 田 純 一

授業科目の内容：

フッサール現象学の基本概念（志向性、知覚、時間、他者、生活世界など）を取り上げながら現象学的哲学の基本問題について考える。

哲学特殊講義XVI（秋学期）

現象学の展開

講 師 村 田 純 一

授業科目の内容：

色彩現象をめぐる様々な問題を、おもに現象学の観点から解明することを試みる。

哲学特殊講義演習I（春学期）

休 講

哲学特殊講義演習II（秋学期）

休 講

哲学特殊講義演習III（春学期）

教 授 岡 田 光 弘

授業科目の内容：

フッサールの『論理学研究』を中心にフッサール論理学関係テキストを講読する。又、現代論理学的立場からフッサール論理学の意義を検討する。

哲学特殊研究演習IV（秋学期）

教 授 岡 田 光 弘

授業科目の内容：

フッサールの『論理学研究』を中心にフッサール論理学関係テキストを講読する。又、現代論理学的立場からフッサール論理学の意義を検討する。

哲学特殊講義演習V（春学期）

教 授 堀 江 聡

授業科目の内容：

紀元後3世紀の『エンネアデス』後半部分の翻案である『アリストテレスの神学』には、9世紀バグダードで成立したアラビア語版（流布版）とは別に、16世紀の二種類のラテン語訳（日吉メディアセンターにマイクロ・フィルム媒体で取り寄せ済み）とその約2/3相当残存のヘブライ文字で書かれたアラビア語版（長大版）がある。前年度より世界的にも初めて

本格的にこの長大版に取り組んでいる。全 10 章の流布版に対して、長大版は全 14 章からなり、ロゴス(kalimah)を創造主と知性の中に措定するなど新たな教説の存在が指摘されている。古代ギリシア末期の哲学の落し胤がイスラーム思想圏、中世ユダヤ思想圏、西欧近世思想圏に幾重にも投げかけた波紋を追跡することは並々ならぬ臂力を問われるが、壮大な眺望を以て報われるであろうことは創造に難くない。手順としては、1519 年のペトルス・ニコラウスの羅訳をベースに、1571 年のジャック・シャルパンティエの羅訳を補助として参照する。そして、ユダヤ・アラビア語で伝承されている部分に関しては異読を註記し、場合によっては羅訳による歪みを推測、是正する。また、流布版との相違をゴチック体で明示するので、毎回配布する拙訳はモザイク状を呈することになるだろう。古代中世哲学専攻の者以外は、横でこの作業を見届けるだけでもよいが、ラテン語のイロハを習得する機会として利用していただいても一向に構わない。総体としてはマニアックな講義演習だが、ラテン語そのものは平易な方であろう。膨大な哲学史・文化史的教養が必要なこの編者捜しのために、広く諸賢の智慧を求めている。

哲学特殊講義演習 VI (秋学期)

教授 堀 江 聡

授業科目の内容 :

哲学特殊講義演習 V と同じ

哲学原典研究 I (春学期)

教授 飯 田 隆

授業科目の内容 :

来年 2005 年はラッセルの記述の理論が発表されてからちょうど 100 周年にあたります。この授業では、記述に関する研究をいくつか取り上げて議論します。そうした研究は、歴史的なもの、理論的なもの、とに大別されますが、出来れば、その両方を取り上げたいと思っています。

哲学原典研究 II (秋学期)

教授 飯 田 隆

授業科目の内容 :

参加者による研究発表と討論から成る授業です。

哲学原典研究 III (春学期)

教授 中 川 純 男

授業科目の内容 :

アウグスティヌス『告白』をラテン語で講読する。ラテン語の読解力と共に哲学文献の分析手法を身につけることを目的とする。

哲学原典研究 IV (秋学期)

教授 中 川 純 男

授業科目の内容 :

アウグスティヌス『告白』をラテン語で講読する。ラテン語の読解力と共に哲学文献の分析手法を身につけることを目的とする。

哲学原典研究 V (春学期)

ゴルギアス

助教授 納 富 信 留

授業科目の内容 :

プラトンは『ゴルギアス』と題された対話篇で、当時の大ソフィストで弁論家のゴルギアスをソクラテスの対話相手として登場させ、「弁論術とは何か」について徹底的な吟味を加えている。その議論は、弟子のポロスと若者カリクレスに引き継がれて、より過激な形で「生のあり方」を問う対話が展開していく。

本授業では、これまで 2 年間読み進めてきた第 1 部・第 2 部、および、ゴルギアス自身が残した『ヘレネ頌』『パラメデスの弁明』『無について』という三作品の検討を受けて、対話篇のクライマックスと言うべき第 3 部を読んでいく。その意図は、ゴルギアス自身の「弁論術」がもつ意味を、プラトンによって徹底した批判から考えていくというものである。

演習は基本的にギリシア語の講読であるが、ギリシア語未習の参加者には、英語の翻訳と註釈を読んでもらうので、心配なく議論に参加できる。

本年度はまとめにあたるので、最近研究の検討等も行い、総合的な見方を打ち出したい。

哲学原典研究 VI (秋学期)

ゴルギアス

助教授 納 富 信 留

授業科目の内容 :

春学期の継続

倫理学特殊講義ⅠA（春学期）

カントの超越論的主観における想像力の意義

教授 小松光彦

授業科目の内容：

カントの『純粋理性批判』（第1版1781年、第2版1787年）原理論第2部門第1部「超越論的分析論」における「想像力(Einbildungskraft)」の役割と射程を、認識主観の総合機能との関連において考察する。ハイデガーのテキストは前年度の続きを読み継ぐ。

倫理学特殊講義ⅡA（秋学期）

カントの超越論的主観における想像力の意義

教授 小松光彦

授業科目の内容：

春学期と同じ

倫理学特殊講義ⅠB（春学期）

ライプニッツの実践哲学1

講師 佐々木能章

授業科目の内容：

ライプニッツの普遍学の理念を、実践哲学を軸にしながらか考察する。

倫理学特殊講義ⅡB（秋学期）

ライプニッツの実践哲学2

講師 佐々木能章

授業科目の内容：

ライプニッツの普遍学の理念を、実践哲学を軸にしながらか考察する。内容的には春学期からの継続。

倫理学特殊講義Ⅲ（春学期）

休講

倫理学特殊講義Ⅳ（秋学期）

休講

倫理学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

生命倫理学

教授 樽井正義

授業科目の内容：

生命倫理学における自己決定権、プライバシー権、健康権といった基礎的な権利概念とそれに対応する義務概念を検討します。テキストには、履修者が希望するテーマに関する生命倫理学および社会哲学の関連論

文と、履修者が作成する論文を用います。

倫理学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

生命倫理学

教授 樽井正義

授業科目の内容：

生命倫理学における自己決定権、プライバシー権、健康権といった基礎的な権利概念とそれに対応する義務概念を検討します。テキストには、履修者が希望するテーマに関する生命倫理学および社会哲学の関連論文と、履修者が作成する論文を用います。

倫理学特殊講義演習Ⅲ（春学期）

近代イギリス道徳哲学研究

助教授 柘植尚則

授業科目の内容：

この授業では17～19世紀の近代イギリス道徳哲学について考察する。近代イギリス思想が共通の課題としたのは「人間本性」であった。多くの思想家が人間本性について考察し、それに基づいて倫理・法・政治・経済・社会について考察を進めている。こうした考察は「道徳哲学」と呼ばれており、それが近代イギリス思想の一つの伝統であった。授業では、近代イギリス道徳哲学の古典を講読し、それについて議論しながら、人間本性論を中心に近代イギリス道徳哲学の諸潮流について検討する。本年度は David Hume, *A Treatise of Human Nature* を取り上げる。

倫理学特殊講義演習Ⅳ（秋学期）

近代イギリス道徳哲学研究

助教授 柘植尚則

倫理学特殊講義演習Ⅲと同じ

倫理学原典研究Ⅰ（春学期）

カント倫理学研究

教授 樽井正義

授業科目の内容：

カント『人倫の形而上学』第二部徳論の形而上学的定礎を講読します。

倫理学原典研究Ⅱ（秋学期）

カント倫理学研究

教授 樽井正義

授業科目の内容：

カント『人倫の形而上学』第二部徳論の形而上学的

定礎を講読します。

倫理学原典研究Ⅲ（春学期）

助教授 石井敏夫

授業科目の内容：

今年度は以下のテキストを講読します。

Bergson, Matière et mémoire, chapitre III

テキストは各自で Quadrige 版を用意して下さい。

倫理学原典研究Ⅳ（秋学期）

助教授 石井敏夫

授業科目の内容：

今年度は以下のテキストを講読します。

Bergson, Matière et mémoire, chapitre III

テキストは各自で Quadrige 版を用意して下さい。

美学美術史学専攻

美学特殊講義Ⅰ（春学期）

現代美学研究

講師 佐々木健一

授業科目の内容：

2つの課題によって授業を構成する。

1つは学生諸君のリポートで、最近の欧米の美学論文（広義）を読んで、その内容を報告してもらう。1人最低1回（年間）はこの報告をしなければならない。

もう1つはフランス語のテキストを講読する。テキストは学生諸君と相談して決める。

美学特殊講義Ⅱ（秋学期）

現代美学研究

講師 佐々木健一

授業科目の内容：

美学特殊講義Ⅰと同じ

美学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

助教授 大石昌史

授業科目の内容：

美学に関する一定のテーマについて専門的な内容の講義を行う。大学院生を対象とする講義の目的は、定説化した知識の整理や伝達ではなく、参考文献の批判的な紹介やテキスト解釈上の問題点の指摘を通じて、美学研究の具体例を示すことにある。修士論文の

作成については随時指導する。

本年度は、現象学的美学を参照しつつ、意味とイメージとの関係について講義する。

美学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

助教授 大石昌史

授業科目の内容：

美学・芸術学における基本的な文献の講読・注釈演習、および、参加者による各自の研究テーマに関する口頭発表という授業形態をとる。参加者各人の関心を考慮しながら、美学および芸術学諸分野から著作・論文を選択し、その講読を通じて、翻訳・注釈の実践的な訓練を行う。また、各人の修士論文のテーマに即した口頭発表の原稿作成に際して、事前事後に、その主張・構成・表現等に関する助言・添削指導を行う。

美術史特殊講義Ⅰ（春学期）

日本中世絵画研究

教授 河合正朝

授業科目の内容：

日本中世絵画の展開に関して、その時代に制作された仏画や水墨画を材料に論じてみたい。その際、別に設けてある「美術史特殊講義演習Ⅰ」と関連させ、作品の調査や文献・史資料の講読を行うほか、履修者による作品調査に関する研究報告に基づき、それに関わる先行研究および関連諸研究に関する検討を行い、研究の実情やその位置付け等について考える。

美術史特殊講義Ⅱ（秋学期）

日本中世絵画研究

教授 河合正朝

授業科目の内容：

日本中世絵画の展開に関して、その時代に制作された仏画や水墨画を材料に論じてみたい。その際また、別に設けてある「美術史特殊講義演習Ⅰ」と関連させ、作品の調査や文献・史資料の講読を行うほか、履修者による作品調査に関する研究報告に基づき、それに関わる先行研究および関連諸研究に関する検討を行い、研究の実情やその位置付け等について考える。

美術史特殊講義Ⅲ（春学期）

休講

美術史特殊講義Ⅳ（秋学期）

休講

美術史特殊講義 V (春学期)

美術と宗教

教授 前田 富士男

授業科目の内容 :

20 世紀美術の制作ならびに作品の大きな特徴として、宗教性への接近があげられよう。ボルタンスキーの祭壇的インスタレーションをはじめ、キーファーやライナーあるいはライブやヴィリケンス、さかのぼってベーコンやカンディンスキーなど、作品例に事欠かない。芸術の終焉、宗教の終焉——べつだん現代にあって、かつて 19 世紀に終焉を予告された二つの領域が寄り添って終わりの床についているわけではあるまい。美的価値と聖なるもの、記念碑と聖遺物、制作と儀礼、驚きと信、崇高と帰依、そしてケリュグマ、あるいはグノーシス。近現代美術に特有なこうした諸問題を多面的に検討したい。参加者の能動的な思索と積極的な提言を期待する。授業の素材は、この 5 年間にドイツほか欧米で発表された論考である。もちろん、ドイツ語に知識がないことはなんら問題にならない。

美術史特殊講義 VI (秋学期)

美術と宗教

教授 前田 富士男

授業科目の内容 :

美術史特殊講義 V の受講を前提とする。参加者の研究領域に即して、美術と宗教をめぐる考察を発表して、討議する。テキストの講読もつづける。

美術史特殊講義演習 I (春学期)**美術史特殊講義演習 II (秋学期)**

(春学期) 教授 河合 正 朝

(秋学期) 教授 林 温

授業科目の内容 :

日本・東洋の美術に関する作品の調査および文献・史資料の講読を通して、美術史研究の方法や論文作成の指導を行う。とくに日本の中世、近世において制作された絵画作品の実査、作品の取扱法、調書の作成等の実習を行いたい。また、別に設けてある「美術史特殊講義」とも関連させ、調査作品に関する調査報告に基づき、それに関わる先行研究および関連諸研究に関する検討を行い、研究の実情や位置付け等について考える。

美術史特殊講義演習 III (春学期)

休 講

美術史特殊講義演習 IV (秋学期)

休 講

音楽学特殊講義 I (春学期)

音楽学の方法論

教授 三宅 幸 夫

授業科目の内容 :

本講義は、音楽学で修士論文を書くための研究会と理解してください。論文の題目は自由ですが、学問的方法論を身につけるためには、批判に値する先行研究がある分野が望ましいと思います。また必要な場合は、修士論文の個別指導もおこないます。

音楽学特殊講義 II (秋学期)

音楽学の方法論

教授 三宅 幸 夫

授業科目の内容 :

本講義は、音楽学で修士論文を書くための研究会と理解してください。論文の題目は自由ですが、学問的方法論を身につけるためには、批判に値する先行研究がある分野が望ましいと思います。また必要な場合は、修士論文の個別指導もおこないます。

音楽学特殊講義演習 I (春学期)

休 講

音楽学特殊講義演習 II (秋学期)

休 講

芸術学研究 I (A) (春学期)

音楽分析

講師 小鍛冶 邦 隆

授業科目の内容 :

春秋各学期ごとに 1 曲を選び、多様な観点から分析を行なう。

春学期はバッハ<フーガの技法>BWV1080 より。

秋学期はウェーベルン<オーケストラのための変奏曲>Op30。

芸術学研究Ⅰ(B)(春学期)

—祝祭研究—

教授 美山良夫
助教授 遠山公一

授業科目の内容：

祝祭・祭礼・祭儀など、特別な機会に制作・設置・上演される様々な芸術について、ジャンルを横断して学んでいくことを目的とする。具体的には聖史劇、王の入城式、ページェント、結婚式や葬礼、戦勝記念などの式典、あるいは茶会や花見など様々な機会が考えられ、宗教性や政治性公共性などの有無、宗教典礼や宮廷儀礼などとの関わり、パトロンと芸術家の役割など多くの問題が想定される。担当教員は2名とも西洋ルネサンスの美術と音楽が専門ではあるが、それ以外の時代や地域において、一回性を特徴とし、上演芸術と造形美術とが出会う場に関わる事例・問題（舞台装飾など）ならばなるべく対象を広げ、考察の対象としていきたい。そのためには、学外の講師を招くことも必要であろう。

芸術学研究Ⅱ(A)(秋学期)

音楽分析

講師 小鍛冶 邦 隆

授業科目の内容：

芸術学研究Ⅰ(A)と同じ

芸術学研究Ⅱ(B)(秋学期)

—祝祭研究—

教授 美山良夫
助教授 遠山公一

授業科目の内容：

祝祭・祭礼・祭儀など、特別な機会に制作・設置・上演される様々な芸術について、ジャンルを横断して学んでいくことを目的とする。具体的には聖史劇、王の入城式、ページェント、結婚式や葬礼、戦勝記念などの式典、あるいは茶会や花見など様々な機会が考えられ、宗教性や政治性公共性などの有無、宗教典礼や宮廷儀礼などとの関わり、パトロンと芸術家の役割など多くの問題が想定される。担当教員は2名とも西洋ルネサンスの美術と音楽が専門ではあるが、それ以外の時代や地域において、一回性を特徴とし、上演芸術と造形美術とが出会う場に関わる事例・問題（舞台装飾など）ならばなるべく対象を広げ、考察の対象としていきたい。そのためには、学外の講師を招くことも必要であろう。

芸術学研究Ⅲ(春学期)

工芸史

講師 西田宏子

授業科目の内容：

美術史の中でも、陶磁、漆器、染織などの工芸を研究する人を対象とし、各人が研究をどのように行っていくのか、その入門の期間とします。

芸術学研究Ⅳ(秋学期)

工芸史

講師 西田宏子

授業科目の内容：

工芸を学ぶことは、作品を手にし、見るのが大切なので、その機会を多くして扱い方が上手になるようにします。

芸術学研究Ⅴ(春学期)

芸術における先端技術

特別招聘講師 内田まほろ

授業科目の内容：

美術分野の研究、仕事におけるデジタルメディア利用方法の解説と実践的な技術習得。「デジタル」「メディア」「テクノロジー」「サイエンス」を利用した芸術の研究。

芸術学研究Ⅵ(秋学期)

芸術における先端技術

特別招聘講師 内田まほろ

授業科目の内容：

美術分野の研究、仕事におけるデジタルメディア利用方法の解説と実践的な技術習得。「デジタル」「メディア」「テクノロジー」「サイエンス」を利用した芸術の研究。

史学専攻

日本史特殊講義ⅠA(春学期)

教授 長谷山 彰

授業科目の内容：

『令集解』の講読を中心に律令制の成立過程や諸制度の運用の実態について考える。

日本史特殊講義ⅡA（秋学期）

教授 長谷山 彰

授業科目の内容：

日本史特殊講義ⅠAと同じ。

日本史特殊講義ⅠB（春学期）

助教授 中島圭一

授業科目の内容：

中世史料の講読を進めながら、中世社会の特質について考えていく。

日本史特殊講義ⅡB（秋学期）

助教授 中島圭一

授業科目の内容：

日本史特殊講義ⅠBと同じ。

日本史特殊講義ⅢA（春学期）

キリシタン史

助教授 浅見雅一

授業科目の内容：

キリシタン関係史料の講読を行なう。

日本史特殊講義ⅣA（秋学期）

キリシタン史

助教授 浅見雅一

授業科目の内容：

日本史特殊講義ⅢAと同じ

日本史特殊講義ⅢB（春学期）

教授 坂井達朗

授業科目の内容：

井上角五郎宛書簡の解読。受講者による研究進行状況の報告。

日本史特殊講義ⅣB（秋学期）

教授 坂井達朗

授業科目の内容：

井上角五郎宛書簡の解読。受講者による研究進行状況の報告。

日本史特殊講義ⅢC（春学期）

近世日本の人口システム

講師 鬼頭 宏

授業科目の内容：

近世日本の人口システムについて論文を輪読し、日

本の前近代社会の経済と人口について再検討する。

日本史特殊講義ⅣC（秋学期）

前近代社会の比較歴史人口学

講師 鬼頭 宏

授業科目の内容：

ヨーロッパにおける古典的業績を集成したアンソロジーを輪読し、日本の前近代社会の経済と人口について比較歴史人口学の観点から検討する。

日本史特殊講義演習ⅠA（春学期）

教授 三宅和朗

授業科目の内容：

『播磨国風土記』の講読。『播磨国風土記』を手がかりに、古代の在地社会の具体像を再検討したい。

日本史特殊講義演習ⅡA（秋学期）

教授 三宅和朗

授業科目の内容：

日本史特殊講義演習ⅠAと同じ。

日本史特殊講義演習ⅠB（秋学期）

講師 山田邦明

授業科目の内容：

歴史研究の方法はさまざまであるが、文字の記された「文献史料」を解読してあらたな事実を発見するという形が一般的である。このような研究を行うためには、「史料」を正確に読解することが不可欠であり、さらにこの「史料」の語る内容について吟味を加える必要もあるが、日本史研究の場合、史料の多くは漢文体（漢文調の日本語）で書かれており、その読解にはかなりの訓練を要する。本講義（演習）は主として戦国時代の史料を読みながら、史料読解の能力を高めることを目的とする。

中世から近世への変革期にあたる戦国時代の歴史は、一般的にもよく知られており、興味深いものであるが、この時代に書かれ今に残された史料（文書や日記など）は、他の時代のそれと比べて難解だという感を否めない。この時代の文書の大半は「書状」であるが、ここには当時の人々が日常的に用いていたさまざまな「ことば」が現われ、そうした傾向は当時の日記にもあてはまる。公的な書類の世界の「ことば」ではなく、私的な日常世界の「ことば」がおもてだつて史料上に残ったのが戦国時代なのである。こうした「ことば」は辞典にもとりあげられないものが多く、読解

には困難が伴うが、具体的な史料を丹念に読み進める中で、当時の「ことば」の世界を少しずつでも明らかにしていきたい。

日本史特殊講義演習ⅡB（秋学期）

講師 山田 邦明

授業科目の内容：

歴史研究の方法はさまざまであるが、文字の記された「文献史料」を解説してあらたな事実を発見するという形が一般的である。このような研究を行うためには、「史料」を正確に読解することが不可欠であり、さらにこの「史料」の語る内容について吟味を加える必要もあるが、日本史研究の場合、史料の多くは漢文体（漢文調の日本語）で書かれており、その読解にはかなりの訓練を要する。本講義（演習）は主として戦国時代の史料を読みながら、史料読解の能力を高めることを目的とする。

中世から近世への変革期にあたる戦国時代の歴史は、一般的にもよく知られており、興味深いものであるが、この時代に書かれ今に残された史料（文書や日記など）は、他の時代のそれと比べて難解だという感を否めない。この時代の文書の大半は「書状」であるが、ここには当時の人々が日常的に用いていたさまざまな「ことば」が現われ、そうした傾向は当時の日記にもあてはまる。公的な書類の世界の「ことば」ではなく、私的な日常世界の「ことば」がおもてだつて史料上に残ったのが戦国時代なのである。こうした「ことば」は辞典にもとりあげられないものが多く、読解には困難が伴うが、具体的な史料を丹念に読み進める中で、当時の「ことば」の世界を少しずつでも明らかにしていきたい。

日本史特殊講義演習ⅢA（春学期）

教授 田代 和生

授業科目の内容：

近世後期に記録された対馬藩通詞小田幾五郎の自筆本『通訳酬酢』を解説しながら、そこに描かれている日本と朝鮮文化の差異、日朝交流の実情、日本人町倭館の生活実態などを考える。履修者は予め原本を校訂し、現代語訳・解説等の予習をしたうえで授業に臨まなければならない。

日本史特殊講義演習ⅣA（秋学期）

教授 田代 和生

授業科目の内容：

日本史特殊講義演習ⅢAと同じ

日本史特殊講義演習ⅢB（春学期）

教授 柳田 利夫

授業科目の内容：

近代国家の「国民」としての海外在住日本人移民について検討する。素材として運動会と葬送を取りあげる予定である。また修士論文の準備も併せて行なう。

日本史特殊講義演習ⅣB（秋学期）

教授 柳田 利夫

授業科目の内容：

日本史特殊講義演習ⅢBと同じ

古文書学特殊講義ⅠA（春学期）

教授 田代 和生

授業科目の内容：

江戸時代古文書の解説、特に初見での「速読能力」を高めることを目的にしている。加えて、未整理文書の分類・整理法などを実習する。ここ数年間、本授業では津山藩大坂藩邸に勤務する伊丹家の文書を取り上げており、本年度も継続してこれを用いる。この家の史料は書状を中心とする一紙文書ばかりで、かなり難易度が高い。履修を希望する者はすでに近世文書についての高度な読解能力を備えていなければならない。

古文書学特殊講義ⅡA（秋学期）

教授 田代 和生

授業科目の内容：

古文書学特殊講義ⅠAと同じ

東洋史特殊講義ⅠA（春学期）

北米移民とトランスナショナリズム

吉原 和男

授業科目の内容：

中国からの移民の子孫でもある歴史学者の著作を、同時期に刊行されたいくつかの研究書と比較しながらその特色を検討する。7章構成のテキストを履修者が適宜に分担して概要報告したうえで、移民研究の最先端における方法論と基礎概念について検討する。

東洋史特殊講義ⅡA（秋学期）

北米移民とトランスナショナリズム

吉原 和男

授業科目の内容：

中国からの移民の子孫でもある歴史学者の著作を、同時期に刊行されたいくつかの研究書と比較しながらその特色を検討する。7章構成のテキストを履修者が適宜に分担して概要報告したうえで、移民研究の最先端における方法論と基礎概念について検討する。

東洋史特殊講義ⅠB（春学期）

現存『尚書』を読む

講 師 原 宗 子

授業科目の内容：

中国古代史研究に関わる近年の出土資料の増加は好ましいことだが、その価値を真に理解するためにも、伝世史料の内容、その研究史等については、あらかじめ知悉している必要がある。

『尚書』（書経ともいう）は、伝説の上では「夏王朝以来の帝王の事跡を伝える文献」という形式をとっているもので、その来歴を含め、極めて扱いの困難な書である。しかしながら、2000年来『尚書』の記載を、古代の史実と信じて様々に検討してきた人も多いわけで、殷周史を補助史料としてのみならず、漢代から清末、現代にも及ぶ、後世知識人の意識を検討するためにも、概要の把握は必須である。

03年度受講生の皆さんの希望で、04年度は、この難物に取り組むことにした。

いわゆる漢文訓読には、諸般の問題点もあるが、史料読みの技術として、実はなかなか捨てがたい面も含む。この授業では、レトロな世界に浸ってみよう。

東洋史特殊講義ⅡB（秋学期）

中国古代史の諸問題

講 師 原 宗 子

授業科目の内容：

春学期に引き続き、『尚書』の講読を行うか、他のテキストに切り替えるかは、春学期末に受講生諸君と相談の上、決定します。

場合によっては、前期の読んだ篇に関連する金文史料に挑戦することも視野に入れます。

東洋史特殊講義ⅠC（春学期）

都市とその世界Ⅰ

講 師 伊 原 弘

授業科目の内容：

宋代になると、あらたな都市のうごきが始まる。それまでの長安・洛陽といった古代的都市から、諸活動の拠点としての多様な都市が誕生する。地図その他

を利用しながら、これらの世界について考えていく。

東洋史特殊講義ⅡC（秋学期）

都市とその世界Ⅱ

講 師 伊 原 弘

授業科目の内容：

前期の講義をうけて、都市エリートをうみだした、宋代都市を具体的に考えていく。また受講生の積極的発言もくみこむ。

東洋史特殊講義ⅢA（春学期）

トルコ近代史

講 師 山 口 洋 一

授業科目の内容：

英文文献講読を通じ、オスマン帝国末期から共和国建国を経て現代に至るトルコ近代史を学び、それを背景とした今日のトルコの現状と国際関係における位置づけを考究する。又歴史によって形づくられてきたトルコ人の国民性、アイデンティティーの意識、トルコ社会の特質についてもあわせ考察する。

東洋史特殊講義ⅣA（秋学期）

トルコ近代史

講 師 山 口 洋 一

授業科目の内容：

東洋史特殊講義ⅢAに同じ

東洋史特殊講義ⅢB（春学期）

アラビア語史料講読

助教授 長谷部 史 彦

授業科目の内容：

マムルーク朝後期（1382～1517年）のアラビア語史料を内容的に掘り下げながら講読する。

東洋史特殊講義ⅣB（秋学期）

アラビア語史料講読

助教授 長谷部 史 彦

授業科目の内容：

春学期に引き続いてアラビア語史料を講読する。

東洋史特殊講義ⅢC（春学期）

イラン・アフガニスタン現代社会論

講 師 鈴 木 均

授業科目の内容：

イランおよびアフガニスタンの現代社会について、

学生の習得言語に応じてペルシャ語（ダリー語）ないし英語のテキストを一緒に読み進めていく。現在のところテキストとして考えているのは 1930 年代のアフガニスタンの地理の教科書（ダリー語）であるが、できるだけ学生の希望に応じたい。

東洋史特殊講義IVC（秋学期）

イラン・アフガニスタン現代社会論

講 師 鈴 木 均

授業科目の内容：

春学期の「東洋史特殊講義ⅢC」の続き。但し出席者が大幅に入れ替わった場合はテキストの変更を含めて検討する。

東洋史特殊講義演習ⅠA（春学期）

中国王権儀礼史研究のフロンティア (1)

講 師 妹 尾 達 彦

授業科目の内容：

近年、急速に進展してきた中国王権儀礼の研究の現在を、できるだけわかりやすく教示することが、本講義の目的である。王権（前近代における為政者の権力）の儀礼（思想を視覚化する形式的行為）の密接な関係を、中国大陸の歴史を事例に、理論的かつ実証的に明らかにしてゆきたい。春学期の講義では、従来の王権と儀礼に関する研究の整理をふまえて、中国王権儀礼史の大きな流れを概観する。前近代から近代に至る過程で、国家権力と儀礼の関係が根本的に変貌することについても、中国の事例をもとに分析したい。

東洋史特殊講義演習ⅡA（秋学期）

中国王権儀礼史研究のフロンティア (2)

講 師 妹 尾 達 彦

授業科目の内容：

秋学期では、中国王権儀礼史の転換期にあたる、隋唐王朝から宋王朝にかけての時期（6世紀～12世紀）の都城（長安・洛陽・開封）の王権儀礼を、重点的に分析する。現在のユーラシア大陸各地の政治・宗教圏の源が形成されるこの時期において、各地域における王権儀礼がどのような機能をはたしたのか、という問題を、できるだけ多角的に分析してゆきたい。

東洋史特殊講義演習ⅠB（春学期）

休 講

東洋史特殊講義演習ⅡB（秋学期）

休 講

東洋史特殊講義演習ⅠC（春学期）

近代中国社会の研究Ⅰ

講 師 飯 島 涉

授業科目の内容：

近年の歴史研究において、感染症の流行が社会制度に与えた影響への関心が高まっています。この授業では、近代中国における感染症の流行と社会変容の関係を解説します。春学期は、特に、急性感染症を対象とします。

東洋史特殊講義演習ⅡC（秋学期）

近代中国社会の研究Ⅱ

講 師 飯 島 涉

授業科目の内容：

近年の歴史研究において、感染症の流行が社会制度に与えた影響への関心が高まっています。この授業では、近代中国における感染症の流行と社会変容の関係を解説します。秋学期は、特に、慢性感染症を対象とします。

東洋史特殊講義演習ⅢA（春学期）

中東・イスラーム世界のマイノリティ

教 授 坂 本 勉

授業科目の内容：

中東イスラーム世界の歴史は、多くの場合、アラブ、トルコ、イランの各地域、民族の視点から研究されてきた。しかし、そうした切り口でなく、中東イスラーム世界に歴史的に存在した少数宗派、少数民族の方からみていくとこれまでとはまったく違った側面がみえてくるはずである。今年度はマイノリティを前面に押しだしながら、歴史について考えていくことにしたい。

東洋史特殊講義演習ⅣA（秋学期）

中東・イスラーム世界史自由研究

教 授 坂 本 勉

授業科目の内容：

受講者が春学期の終わりまでに作成したビブリオグラフィにしがたってあらかじめ発表すべきテーマを決めておき、それにしがたって各時間ごとに発表者がレジュメを切るといったかたちで授業を進めていくことにしたい。

東洋史特殊講義演習ⅢB（春学期）

清代史料の研究

教授 山本英史

授業科目の内容：

清末の社会を描いた史料の講読を行い、文献読解の基礎能力を養成する。また必要に応じて受講者に研究発表を行ってもらい、発表能力の鍛錬にも努める。

東洋史特殊講義演習ⅣB（秋学期）

教授 山本英史

授業科目の内容：

東洋史特殊講義演習ⅢBに同じ

東洋史特殊講義演習ⅢC（春学期）

中東・イスラーム史研究文献講読

商学部 教授 湯川 武

授業科目の内容：

本授業は、中東・イスラーム史の研究文献の講読を通じて、専門的な知識と幅広い分野の理解を広め深めるとともに、歴史研究のさまざまな視点や方法についても学ぶことを目的とする。

履修者の問題関心に応じて、テキストは順次いくつか読むが、史料や方法論についても検討する。最初のテキストは、近代イランの政治と宗教を主題とする Arjomand, S. A. *The Shadow of God and the Hidden Imam* を読む。その後は中世史、近現代史についての論文集的なものを選んで読むことになる。

また、内容の理解とともに、発表の仕方、レジュメの書き方、論文書き方などを身に付けることも本授業の目的の一つである。

東洋史特殊講義演習ⅣC（秋学期）

中東・イスラーム史研究文献講読

商学部 教授 湯川 武

授業科目の内容：

本授業は、春学期の東洋史特殊講義演習ⅢCの継続として行う。したがって、内容・目的ともにそれに準じる。

中東・イスラーム史の研究文献の講読を通じて、専門的な知識と幅広い分野の理解を広め深めるとともに、歴史研究のさまざまな視点や方法についても学ぶことを目的とする。

履修者の問題関心に応じて、テキストは順次いくつか読むが、史料や方法論についても検討する。最初のテキストは、近代イランの政治と宗教を主題とする

Arjomand, S. A. *The Shadow of God and the Hidden Imam* を読む。その後は中世史、近現代史についての論文集的なものを選んで読むことになる。

また、内容の理解とともに、発表の仕方、レジュメの書き方、論文書き方などを身に付けることも本授業の目的の一つである。

西洋史特殊講義Ⅰ（春学期）

「十七世紀」フランスの危機と王国十分の一税案

助教授 藤田 苑子

授業科目の内容：VAUBAN の *La dîme royale* (1707 年) を講読します。

西洋史特殊講義Ⅱ（秋学期）

「十七世紀」フランスの危機と王国十分の一税案

助教授 藤田 苑子

授業科目の内容：VAUBAN の *La dîme royale* (1707 年) を講読します。

西洋史特殊講義Ⅲ（春学期）

初期アメリカ史・リーディング・セミナー

教授 大森 雄太郎

授業科目の内容：

初期アメリカ史をフィールドとする大学院初級のリーディング・セミナーです。一時史料を読むか、二次文献を読むか、あるいはいずれの場合でもどのような文献を読むかについては、参加メンバーと相談の上で決めます。いずれにせよ文献は英語（むしろアメリカ語）で書かれたものを使用します。一週間のリーディングの要求量は、二次文献であれば 100 頁程度です。

西洋史特殊講義Ⅳ（秋学期）

初期アメリカ史・リーディング・セミナー

教授 大森 雄太郎

授業科目の内容：

初期アメリカ史をフィールドとする大学院初級のリーディング・セミナーです。一時史料を読むか、二次文献を読むか、あるいはいずれの場合でもどのような文献を読むかについては、参加メンバーと相談の上で決めます。いずれにせよ文献は英語（むしろアメリカ語）で書かれたものを使用します。一週間のリーディングの要求量は、二次文献であれば 100 頁程度

です。

西洋史特殊講義演習Ⅰ（春学期）

助教授 吉 武 憲 司

授業科目の内容：

Guibert de Nogent, *Autobiographie* (Paris, 1981) のラテン語テキストを講読します。

西洋史特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

助教授 吉 武 憲 司

授業科目の内容：

Guibert de Nogent, *Autobiographie* (Paris, 1981) のラテン語テキストを講読します。

西洋史特殊講義演習ⅢA（春学期）

教 授 神 田 順 司

授業科目の内容：

マルクスの「経済学・哲学草稿」を彼の思想的発展のコンテキストに沿って精読する。参加者はヘーゲル、フォイエルバハ、ヘス、ヴァイトリンク、スミス、エンゲルス、シュタイン等の思想について多少なりとも予備知識を持っていることが望ましい。

西洋史特殊講義演習ⅣA（秋学期）

教 授 神 田 順 司

授業科目の内容：

マルクスの「経済学・哲学草稿」を彼の思想的発展のコンテキストに沿って精読する。参加者はヘーゲル、フォイエルバハ、ヘス、ヴァイトリンク、スミス、エンゲルス、シュタイン等の思想について多少なりとも予備知識を持っていることが望ましい。

西洋史特殊講義演習ⅢB（春学期）

ヴァーニイ家の目を通して見た内乱

教 授 清 水 祐 司

授業科目の内容：

F. P. Verney, *Memoirs of the Verney Family during the Civil War*, 4 vols., London, 1892 を読みながら「内乱」の諸相について考察する。

西洋史特殊講義演習ⅣB（秋学期）

ヴァーニイ家の目を通して見た内乱

教 授 清 水 祐 司

授業科目の内容：

F. P. Verney, *Memoirs of the Verney Family*

during the Civil War, 4 vols., London, 1892 を読みながら「内乱」の諸相について考察する。

民族学考古学特殊講義Ⅰ（春学期）

オリエント考古学

名誉教授 小 川 英 雄

授業科目の内容：

パレスティナ考古学のスタンダードな入門書、概説書はこれまでオルブライト、ケニヨン、マザールによって書かれて来たが、オルブライトとマザールのものはすでに日本語訳がある。本講ではケニヨンを取り上げ、彼女のパレスティナ考古学に対する貢献や見方を原書によって読み取っていく。また、歴史的事情によって、英語が重視されるこの分野に原書の講読によって慣れて行くことが大切である。

民族学考古学特殊講義Ⅱ（秋学期）

名誉教授 小 川 英 雄

授業科目の内容：

パレスティナ考古学のスタンダードな入門書、概説書はこれまでオルブライト、ケニヨン、マザールによって書かれて来たが、オルブライトとマザールのものはすでに日本語訳がある。本講ではケニヨンを取り上げ、彼女のパレスティナ考古学に対する貢献や見方を原書によって読み取っていく。また、歴史的事情によって、英語が重視されるこの分野に原書の講読によって慣れて行くことが大切である。

民族学考古学特殊講義Ⅲ（春学期）

環境史と民族学・考古学

名誉教授 近 森 正

授業科目の内容：

- (1) 修士論文の指導を中心におこなう。参加者は各自の研究テーマに則して話題提供が求められる。
- (2) 前年にひきつづき、環境史的接近のこころみを各自の研究テーマに沿って話題提供しながら、討論をすすめる。サンゴ礁、マングローブ、沖積平野などと人類史の関係について、自然形成過程におけるエージェントとしての人間を考古学的、地理学的、地形学的、民族学的な分野にわたって討議し、環境史の枠組みを考える。フィールド・データは日本、東南アジア、ポリネシア、ニューギニア、オーストラリア、ニュージーランド各地における講師の野外調査の結果を紹介する。

民族学考古学特殊講義Ⅳ（秋学期）

環境史と民族学・考古学

名誉教授 近 森 正

授業科目の内容：

- (1) 修士論文の指導を中心におこなう。参加者は各自の研究テーマに則して話題提供が求められる。
- (2) 前年にひきつづき、環境史的接近のこころみを各自の研究的テーマに沿って話題提供しながら、討論をすすめる。サンゴ礁、マングローブ、沖積平野などと人類史の関係について、自然形成過程におけるエージェントとしての人間を考古学的、地理学的、地形学的、民族学的な分野にわたって討議し、環境史の枠組みを考える。フィールド・データは日本、東南アジア、ポリネシア、ニューギニア、オーストラリア、ニュージーランド各地における講師の野外調査の結果を紹介する。

民族学考古学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

歴史考古学の方法と枠組み

教授 鈴木 公 雄

授業科目の内容：

歴史考古学は近年急速に成長してきた考古学の一分野である。しかしその内容の規定のしかたや伝統的な先史考古学を中心とした方法や枠組みと、どのような点で一致し、又異なるのかについては、十分に論じられていない。この点について、日本と北米大陸の歴史考古学の発達の過程と、今日における特色とをそれぞれ比較検討しつつ、歴史考古学の新しい枠組みについて考える。

民族学考古学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

歴史考古学の方法と枠組み

教授 鈴木 公 雄

授業科目の内容：

春学期の授業の結果をうけて、歴史考古学をどのような学問的体系の中で整備すべきかを、具体的な研究事例をまじえつつ考察する。鈴木がここしばらくの間追求して来た出土貨幣に関する歴史考古学的研究を紹介しつつ、文献記録と考古学資料とを統合しつつ、いかに一つの歴史像に結実させるかを述べる。

民族学考古学特殊講義演習Ⅲ（春学期）

教授 阿 部 祥 人

授業科目の内容：

この 50 年間に膨大な資料を蓄積してきた日本の先

史時代研究は、同時に多くの問題点を抱えている。それら今日的な問題点を受講者と共に取り上げ、その解決策・今後の有効な分析方法について、検討していく。

民族学考古学特殊講義演習Ⅳ（秋学期）

教授 阿 部 祥 人

授業科目の内容：

この 50 年間に膨大な資料を蓄積してきた日本の先史時代研究は、同時に多くの問題点を抱えている。それら今日的な問題点を受講者と共に取り上げ、その解決策・今後の有効な分析方法について、検討していく。

史学特殊講義Ⅰ（春学期）

助教授 神 崎 忠 昭

授業科目の内容：

ヨーロッパ中世のラテン語文献を講読します。なおテキストについては、受講者と相談して決めます。

史学特殊講義Ⅱ（秋学期）

助教授 神 崎 忠 昭

授業科目の内容：

ヨーロッパ中世のラテン語文献を講読します。なおテキストについては、受講者と相談して決めます。

史学特殊講義Ⅲ（春学期）

休 講

史学特殊講義Ⅳ（秋学期）

休 講

国 文 学 専 攻

国文学研究Ⅰ（春学期）

播磨国風土記研究

教授 藤 原 茂 樹

授業科目の内容：

播磨国風土記記事の検討。

国文学研究Ⅱ（秋学期）

播磨国風土記研究

教授 藤 原 茂 樹

授業科目の内容：

播磨国風土記の記事毎の検討。

国文学研究Ⅲ（春学期）

教授 川村 晃生

授業科目の内容：

「文学と動植物」をテーマとして、履修者各自の研究対象の中から任意の問題を選び、それを共有化して議論をすすめたい。講義のすすめ方については、開講時に相談する。

国文学研究Ⅳ（秋学期）

教授 川村 晃生

授業科目の内容：

国文学研究Ⅲに同じ。

国文学研究Ⅴ（春学期）

教授 岩松 研吉郎

授業科目の内容：

一和歌読解法

新風歌人の詠作について、定数歌等の中からテキストひとつをえらび、和歌のよみの演習をおこなう。

国文学研究Ⅵ（秋学期）

教授 岩松 研吉郎

授業科目の内容：

一和歌読解法

新風歌人の詠作について、定数歌等の中からテキストひとつをえらび、和歌のよみの演習をおこなう。

国文学研究Ⅶ（春学期）

古典資料研究

助教授 石川 透

授業科目の内容：

古典文学の資料を、写本を翻刻し、読み進めていく。

国文学研究Ⅷ（秋学期）

古典資料研究

助教授 石川 透

授業科目の内容：

古典文学の資料を、写本を翻刻し、読み進めていく。

国文学研究Ⅸ（春学期）

教授 松村 友視

授業科目の内容：

履修者各自のテーマにしたがって論文を執筆・提示

し、さまざまな視点から相互批判的に検討する実践的演習。

国文学研究Ⅹ（秋学期）

教授 松村 友視

授業科目の内容：

履修者各自のテーマにしたがって論文を執筆・提示し、さまざまな視点から相互批判的に検討する実践的演習。

国文学研究Ⅺ（春学期）

『源氏物語』早蕨巻を読む

講師 三角 洋一

授業科目の内容：

『源氏物語』早蕨巻を湖月抄により読みすすめる。しばらくは講読のかたちをとるが、各自関心をもったテーマを掘り下げて、発表するということにしたい。物語を読解するだけでなく、古注釈の世界についても考えをめぐらせることになる。

国文学研究Ⅻ（秋学期）

『源氏物語』早蕨巻を読む

講師 三角 洋一

授業科目の内容：

『源氏物語』早蕨巻を湖月抄により読みすすめる。しばらくは講読のかたちをとるが、各自関心をもったテーマを掘り下げて、発表するということにしたい。物語を読解するだけでなく、古注釈の世界についても考えをめぐらせることになる。

国文学研究ⅩⅢ（春学期）

『奥の細道』研究

講師 長島 弘明

授業科目の内容：

芭蕉の『奥の細道』を精読する。自筆本ともいわれる中尾本をテキストとし、他本と比較しながら、芭蕉の推敲の実態について解説する。また、古注を含め、数多くある同作品の注釈を比較検討しながら、俳文の正確な解釈の方法を学ぶ。

国文学研究ⅩⅣ（秋学期）

『奥の細道』研究（続）

講師 長島 弘明

授業科目の内容：

芭蕉の『奥の細道』を、自筆本ともいわれる中尾本

をテキストとして精読し、芭蕉の推敲の実態や、俳文の正確な解釈について学ぶ。(春学期の続き)

国文学研究 XV (春学期)

主題としての〈終り〉

講師 高橋 修

授業科目の内容：

どのようなテキストにも〈始め〉と〈終り〉があり、多かれ少なかれそれを理解の枠組みとして読み解いていくのであり、何をもって〈終り〉にするかは読み手の自由に属している。と同時に、その〈終り〉という枠の意識、あるいは終息の意識そのものにも時代の痕跡が刻み込まれており、歴史性を帯びた〈大きな物語〉の中で判断されているはずである。この授業では、さまざまなテキストに書き込まれている〈終り〉を問題にしていく。

国文学研究 XVI (秋学期)

主題としての〈終り〉

講師 高橋 修

授業科目の内容：

春学期と同じ内容を引き続ける。

国文学研究 XVII (春学期)

近代評論を読む

講師 須田 喜代次

授業科目の内容：

明治から大正期の日本近代文学の評論を読む。文学研究の中で、評論に対する言及は、概ね少ないと言えよう。様々な評論に触れることによって、作品が生み出される文学土壌を検討していきたい。

国文学研究 XVIII (秋学期)

近代評論を読む

講師 須田 喜代次

授業科目の内容：

春学期に引き続いて、日本近代文学評論を読み進める。新たな文学史の見方ができたらと考えています。

国文学研究 XIX (春学期)

教授 川村 晃生

授業科目の内容：

各自の研究対象から、「文学と自然」をテーマとしたテキストを選んで読解する。

国文学特殊研究 III と併設。

国文学研究 XX (秋学期)

教授 川村 晃生

授業科目の内容：

国文学研究 XIX に同じ。国文学特殊研究 IV と併設。

国文学研究 XXI (春学期)

教授 岩松 研吉郎

授業科目の内容：

中世後期から江戸初期のテキストをとりあげ、演習形式でよむ。あわせて、随時履修者の研究主題の発表・検討をおこなう。

国文学研究 XXII (秋学期)

教授 岩松 研吉郎

授業科目の内容：

中世後期から江戸初期のテキストをとりあげ、演習形式でよむ。あわせて、随時履修者の研究主題の発表・検討をおこなう。

国語学研究 I (春学期)

教授 関場 武

授業科目の内容：

仮名草子の中から数点を取り上げ講読・演習を行う。その際、書誌学的・国語史的研究方法の修得も併せ目ざす。本年度は清少納言の「枕草子」の影響作を主に取り上げる。

国語学研究 II (秋学期)

教授 関場 武

授業科目の内容：

春学期の「国語学研究 I」に引き続き、仮名草子・戯作の中から清少納言の「枕草子」の影響作を取り上げ、講読・演習を行う。とくに解説・現代語訳の仕方について修得を目ざす。

日本漢文学 I (春学期)

教授 佐藤 道生

授業科目の内容：

平安時代の対策に関する研究。
対策とは、大学寮紀伝道の最高過程に進んだ者（多くは文章得業生）に課せられる最終論文試験である。その問題文を策問、それに対する答案を対策と呼んだ。授業では『本朝文粹』『本朝続文粹』所収の策問・対策を受講者の会説というかたちで読み進めていく。

日本漢文学Ⅱ（秋学期）

教授 佐藤道生

授業科目の内容：

平安時代の対策に関する研究。

対策とは、大学寮紀伝道の最高過程に進んだ者（多くは文章特業生）に課せられる最終論文試験である。その問題文を策問、それに対する答案を対策と呼んだ。授業では『本朝文粹』『本朝続文粹』所収の策問・対策を受講者の会読というかたちで読み進めていく。

芸能史Ⅰ（春学期）

教授 野村伸一

授業科目の内容：

東アジア祭祀芸能の現況と歴史について考えます。この講義は春学期、秋学期とひとつつながりのものです。春学期は現今、残存する祭祀芸能の事例を映像資料を中心にみていき、秋学期は歴史のなかの祭祀芸能を中心にします。

祭祀芸能は、地域共同体および個々のイエの祭祀、儀礼のなかで育まれた身体表現です。その解説は仏教や道教、民俗宗教（巫俗に代表される）についての一定の認識を必要とします。その地域ごとの特質を考えることはすなわち東アジア各地の民衆文化の特質を考えることに通じます。

芸能史Ⅱ（秋学期）

教授 野村伸一

授業科目の内容：

東アジア祭祀芸能の現況と歴史について考えます。この講義は春学期、秋学期とひとつつながりのものです。春学期は現今、残存する祭祀芸能の事例を映像資料を中心にみていき、秋学期は歴史のなかの祭祀芸能を中心にします。

祭祀芸能は、地域共同体および個々のイエの祭祀、儀礼のなかで育まれた身体表現です。その解説は仏教や道教、民俗宗教（巫俗に代表される）についての一定の認識を必要とします。その地域ごとの特質を考えることはすなわち東アジア各地の民衆文化の特質を考えることに通じます。

演劇史Ⅰ（秋学期）

日本の古典演劇

助教授 石川透

授業科目の内容：

日本の古典演劇について、具体的な作品を取り上げて、さまざまな種類の演劇の具体的な姿を考察する。

演劇史Ⅱ（春学期）

西洋演劇史概説

助教授 小菅隼人

授業科目の内容：

西洋演劇史の羅列的な知識よりも、具体的な作品を知る方が有益だと考えますので、各回、各時代の代表的な戯曲を取り上げ概説します。講義のうち、30分程度を受講者による報告にあてます。その後、その作品を中心に、演劇思潮の流れを概説します。受講生は、各講義のために、毎週1作品（日本語）を読んでもくることが求められます。

斯道文庫書誌学講座Ⅰ（春学期）

教授 川上新一郎

授業科目の内容：

主として歌書・物語書の書誌のとり方を解説する。具体的には履修者と相談の上決める。

斯道文庫書誌学講座Ⅱ（秋学期）

教授 関場武

授業科目の内容：

冊子や卷子本を使い、日本の文芸を研究する際に心得ておくべき基本的な知識の修得を目的とする。時代は室町・江戸期～明治・現代に至る。特に版本を中心に各種文献の実物を使い、実習を行ない、受講者諸君の体得を目ざす。

斯道文庫書誌学講座Ⅲ（春学期）

漢籍目録著録法

助教授 山城喜憲

授業科目の内容：

書誌学の基礎的な知識を修得した上で、出来るだけ広く漢籍（中国人の著作）、準漢籍（漢籍に対する日本人の注釈書類）の多様な伝本に接しながら、調査の方法・著録の要領を習得することを目標として、実修を行います。受講者個々の研究状況に応じて、対象書目を選択することも可能です。実修と平行して、日本における漢籍の受容と伝流について概述します。

斯道文庫書誌学講座Ⅳ（秋学期）

日本と中国の刊本・写本

助教授 高橋 智

授業科目の内容：

いわゆる古典籍、漢字文献の古書の基本的な概念を中国の学問的方法によって習得する。

斯道文庫書誌学講座Ⅴ（春学期）

校べ勘える

助教授 大沼 晴暉

授業科目の内容：

書誌学とはどういう学問か、その基盤となる考え方を説明します。

斯道文庫書誌学講座Ⅵ（秋学期）

書誌学入門（写本）

助教授 佐々木 孝浩

授業科目の内容：

文学に限らず、日本の古典籍（特に写本）を対象あるいは材料・資料として研究に用いたいと考える学生に対する講義です。なるべく多くの現物に触れながら、古典籍の知識やその接し方、見方を学びます。

中国文学専攻

中国文学研究Ⅰ（春学期）

講師 詹 滿江

授業科目の内容：

晩唐の詩人李商隱の詩を読みます。李商隱は中国古典詩史上まれな恋愛詩の作者として知られ、その恋愛詩群の多くは無題で、作られた背景は謎に満ちています。いったいどのような状況で、だれに宛てて作られたのか、一切わかりません。

本講義では、無題詩の作られた背景をいっしょに考えてみたいと思います。中国古典詩は詩題によって、その詩の作られる状況を説明するようになっています。「送某」といえば、だれかを見送るときの詩とわかるし、「九日」といえば、重陽の節句のときの詩とわかるという具合です。李商隱はどうして無題としたのでしょうか。実際に詩人のさまざまな詩を読みながら、考えてみましょう。

中国文学研究Ⅱ（秋学期）

講師 詹 滿江

授業科目の内容：

晩唐の詩人李商隱の詩を読みます。李商隱は中国古典詩史上まれな恋愛詩の作者として知られ、その恋愛詩群の多くは無題で、作られた背景は謎に満ちています。いったいどのような状況で、だれに宛てて作られたのか、一切わかりません。

本講義では、無題詩の作られた背景をいっしょに考えてみたいと思います。中国古典詩は詩題によって、その詩の作られる状況を説明するようになっています。「送某」といえば、だれかを見送るときの詩とわかるし、「九日」といえば、重陽の節句のときの詩とわかるという具合です。李商隱はどうして無題としたのでしょうか。実際に詩人のさまざまな詩を読みながら、考えてみましょう。

中国文学研究Ⅲ（春学期）

助教授 杉野 元子

授業科目の内容：

昨年度に引き続き、陳思和主編『中国当代文学史教程』（復旦大学出版社）をテキストにして、中華人民共和国建国以後の文学についての調査・研究・検討をおこなう。昨年度は第16章まで読み進めたので、今年度は第17章から始める。参加者は全員、毎回の授業で取り上げる作品にあらかじめ目を通すことが要求される。

中国文学研究Ⅳ（秋学期）

助教授 杉野 元子

授業科目の内容：

中国文学研究Ⅲと同じ。

中国文学研究Ⅴ（春学期）

中国古白話文献を読む（変文から明清白話小説）

教授 渋谷 誉一郎

授業科目の内容：

本講はいわゆる古白話文献をあつかう際の基礎知識を習得することを目的として、敦煌変文から宋元平話・明清小説にいたるまでの文学作品を選んで講読します。今年度は宋・元・明の短篇・中篇小説を読む予定。まず、古白話の史的展開の概述を聴講することによってそのアウトラインを理解し、その上で実際に作品を精読し、古白話の特徴や問題点等を把握してもらいます。

作品は輪番で読み進めます。担当者は事前に担当箇所について、テキスト上の問題点・語句の解釈・翻訳等を含めた詳細なレジュメを準備してください。授業時にはそのレジュメに基づいて内容の検討を行います。

中国文学研究VI（秋学期）

中国古白話文献を読む（変文から明清白話小説）

教授 渋谷 誉一郎

授業科目の内容：

中国文学研究Vと同。

中国文学研究VII（春学期）

教授 八木 章 好

授業科目の内容：

『聊齋志異』を読む。

任篤行輯校『全校会注集評聊齋志異』（齐鲁書社刊）を用いて、特定の数篇を清人の注評を含めて精読する。

中国文学研究VIII（秋学期）

教授 八木 章 好

授業科目の内容：

『聊齋志異』を読む。

任篤行輯校『全校会注集評聊齋志異』（齐鲁書社刊）を用いて、特定の数篇を清人の注評を含めて精読する。

中国文学研究IX（春学期）

中国中世文学批評史研究

講師 門脇 廣文

授業科目の内容：

今年度（2004年度）は、唐の積皎然の『詩式』（原本五巻。今本一巻）を読みます。『詩式』は、兩漢及び唐詩人の名篇麗句を摘録し、五格・十九体に分けたもので、唐代の詩論の代表的著作です。五巻本の第一巻は、詩歌言論について総論的に論じ、また「五格」のうちの第一格について述べています。「五格」とは、詩の五つの格調を言い、同時にそのランクを表わしています。第二巻以降は、「五格」の内の第二格から第五格について論じています。「五格」は、詩を評価するには典故を用いないものを第一としています。「十九体」は詩の風格を論じたもので、「貞」「忠」「節」「志」「徳」「誠」「悲」「怨」「意」などの表現内容にかかわるものと、「高」「逸」「氣」「情」「思

「閑」「達」「力」「静」「遠」などの芸術的な特徴についてのもとのに分けられます。皎然は、「十九体」の中では「高」と「逸」とを高く評価しており、「冲淡」や「自然」なる風格を貴んでいます。

中国文学研究X（秋学期）

中国中世文学批評史研究

講師 門脇 廣文

授業科目の内容：

中国文学研究IXと同じ。

中国文学研究XI（春学期）

李漁研究

教授 岡 晴夫

授業科目の内容：

李漁の作品（戯曲・小説・随筆・尺牘等）の中から適宜選んで講読する。何を取りあげるかについては、受講生と相談のうえ決める。

中国文学研究XII（秋学期）

李漁研究

教授 岡 晴夫

授業科目の内容：

李漁の作品（戯曲・小説・随筆・尺牘等）の中から適宜選んで講読する。何を取りあげるかについては、受講生と相談のうえ決める。

中国語学研究I（春学期）

講師 相原 茂

授業科目の内容：

現代中国語の文法に関わる最近の論文を講読する。

中国語学研究II（秋学期）

講師 相原 茂

授業科目の内容：

現代中国語の文法に関わる最近の論文を講読する。

中国語学研究III（春学期）

教授 山下 輝彦

授業科目の内容：

中国語研究で重要と思われる文献を読み、それについてディスカッションをする。中国語で研究発表をする力を身につけるために議論はすべて中国語で行う。

中国語学研究Ⅳ（秋学期）

教授 山下 輝彦

授業科目の内容：

中国語研究で重要と思われる文献を読み、それについてディスカッションをする。中国語で研究発表をする力を身につけるために議論はすべて中国語で行う。

中日比較文学研究Ⅰ（春学期）

講師 胡 志 昂

授業科目の内容：

「格調荘嚴，氣象宏麗，最為可法」（胡應麟・詩藪）といわれる李嶠の五言律詩の中でもその詠物詩『百二十詠』（『李嶠雜詠』または『百詠』ともいう）が「大手筆」と称せられる。この類書の性格を兼ね備える詠物詩集は、いわゆる「文章四友」時代の詩論『唐朝新定詩格』（崔融著）等に提案された新しい律詩の作法を反映する書物でもあった。両書とも早くから日本に伝わり、王朝の歌論と新しい歌風の展開に刺激を与えたと見られる。この時間では『百二十詠』を『唐朝新定詩格』と併せて精読し議論を加えると共に、それと関連する平安時代の歌論と歌風の展開にも留意し、双方の共通点と相違点を検討していく。

中日比較文学研究Ⅱ（秋学期）

講師 胡 志 昂

中日比較文学研究Ⅰに同じ。

英米文学専攻

中世英語英文学特殊講義Ⅰ（春学期）

教授 高宮 利行

授業科目の内容：

Sir Thomas Malory, *Le Morte Darthur* を Winchester MS と Caxton 版の比較研究によって書誌学的に解明する。

中世英語英文学特殊講義Ⅱ（秋学期）

教授 高宮 利行

授業科目の内容：

Sir Thomas Malory, *Le Morte Darthur* を Winchester MS と Caxton 版の比較研究によって書誌学的に解明する。

中世英語英文学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

教授 松田 隆美

授業科目の内容：

13-16世紀のテキストを精読し、中世研究の方法論を実践的に体得することを目的とする。本年度は、ロマンス、散文フィクション、寓意文学などに注目し、中世のナラティブ・ジャンルの多様性を考える。

中世英語英文学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

教授 松田 隆美

授業科目の内容：

春学期の「中世英語英文学特殊講義演習Ⅰ」の続き。

近代英米文学特殊講義Ⅰ（春学期）

18世紀英文学を通じて、近・現代の出発点を確認する

講師 原田 範行

授業科目の内容：

イギリス18世紀は、詩、小説、伝記、批評など、さまざまな文学ジャンルが、変化・分化・確立してくる時代であり、またジャーナリズムや著作権論争も含め、印刷出版文化が今日的な相貌を帯び始める時期でもあります。本講義の目的は、こうした18世紀の英文学作品を精読しながら、作品解釈と研究のための基礎的事項を確認し、その方法論を検討していくことにあります。特殊講義Ⅰ（春学期）では、原典を精読して作品解釈の問題点を整理し、特殊講義Ⅱ（秋学期）では、関連する研究書の多読を通じて、研究のためのさまざまな視点を整備して行きます。これらの講義や演習を通じて、履修者の皆さんは、私たち自身も少なからずその一部を構成している、近・現代文学と文化の出発点を確認することができると思います。

近代英米文学特殊講義Ⅱ（秋学期）

18世紀英文学を通じて、近・現代の出発点を確認する

講師 原田 範行

授業科目の内容：

イギリス18世紀は、詩、小説、伝記、批評など、さまざまな文学ジャンルが、変化・分化・確立してくる時代であり、またジャーナリズムや著作権論争も含め、印刷出版文化が今日的な相貌を帯び始める時期でもあります。本講義の目的は、こうした18世紀の英文学作品を精読しながら、作品解釈と研究のための基礎的事項を確認し、その方法論を検討していくことにあります。特殊講義Ⅰ（春学期）では、原典を精読して作品解釈の問題点を整理し、特殊講義Ⅱ（秋学期）

では、関連する研究所の多読を通じて、研究のためのさまざまな視点を整備して行きます。これらの講義や演習を通じて、履修者の皆さんは、私たち自身も少なからずその一部を構成している、近・現代文学と文化の出発点を確認することができると思います。

近代英米文学特殊講義演習ⅠA（春学期）

英詩講読

講師 高田 康成

授業科目の内容：

Oxford Book of English Verse を使いながら、英詩の歴史的流行を体得する。原則的には、時代を代表する詩人を選んで読むことにするが、出席者の興味に応じて、随時協議する。また、過去に日本語に訳されたものがある場合には、それを基に詩における翻訳の問題を考えたい。

近代英米文学特殊講義演習ⅡA（秋学期）

英詩講読

講師 高田 康成

授業科目の内容：

Oxford Book of English Verse を使いながら、英詩の歴史的流行を体得する。原則的には、時代を代表する詩人を選んで読むことにするが、出席者の興味に応じて、随時協議する。また、過去に日本語に訳されたものがある場合には、それを基に詩における翻訳の問題を考えたい。

近代英米文学特殊講義演習ⅠB（春学期）

講師 高橋 和久

授業科目の内容：

サミュエル・リチャードソンの『クラリッサ』を読む。

近代英米文学特殊講義演習ⅡB（秋学期）

講師 高橋 和久

授業科目の内容：

サミュエル・リチャードソンの『クラリッサ』を読む。

現代英米文学特殊講義ⅠA（春学期）

文学と絵画

講師 富士川 義之

授業科目の内容：

文学と絵画の関連について考察したい。今年度は時

代を遡って 19 世紀ロマン主義から始める。特に Turner と Ruskin をめぐってさまざまな話題を提供できればと願っている。ラファエル前派の詩と絵画にも当然触れることになる。基本的な批評にも親しんでもらうつもり（たとえば、Elvin Panofsky, "Et in Arcadia Ego: Poussin and the Elegiac Tradition" など）。秋学期には小説と絵画の問題も扱いたい。

現代英米文学特殊講義ⅡA（秋学期）

文学と絵画

講師 富士川 義之

授業科目の内容：

文学と絵画の関連について考察したい。今年度は時代を遡って 19 世紀ロマン主義から始める。特に Turner と Ruskin をめぐってさまざまな話題を提供できればと願っている。ラファエル前派の詩と絵画にも当然触れることになる。基本的な批評にも親しんでもらうつもり（たとえば、Elvin Panofsky, "Et in Arcadia Ego: Poussin and the Elegiac Tradition" など）。秋学期には小説と絵画の問題も扱いたい。

現代英米文学特殊講義ⅠB（春学期）

20 世紀の二つの大戦とイギリス小説

講師 出 淵 敬子

授業科目の内容：

第 1 次大戦および第 2 次大戦の開始はイギリス文学にいかなる影響を与えたかを、1920 年代、30 年代のイギリス小説を中心に考えてみたい。テキストに収録されている戦争をめぐる短編、中編を各作家がどのような視点からどのように表象しているか、またその背後にある思想、社会と時代の歴史、人間観などを比較しつつ、戦争がもたらしたインパクトを探ることを目的とする。

現代英米文学特殊講義ⅡB（秋学期）

21 世紀の二つの大戦とイギリス小説

講師 出 淵 敬子

授業科目の内容：

第 1 次大戦および第 2 次大戦の開始はイギリス文学にいかなる影響を与えたかを、1920 年代、30 年代のイギリス小説を中心に考えてみたい。テキストに収録されている戦争をめぐる短編、中編を各作家がどのような視点からどのように表象しているか、またその背後にある思想、社会と時代の歴史、人間観などを比較しつつ、戦争がもたらしたインパクトを探ることを

目的とする。

現代英米文学特殊講義 I C (春学期)

休 講

現代英米文学特殊講義 II C (秋学期)

休 講

現代英米文学特殊講義演習 I (春学期)

19 世紀末から 20 世紀初頭のイギリス小説

助教授 河 内 恵 子

授業科目の内容：

19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて、イギリス小説はどのように変化したのだろうか？

David Trotter のテキストを入門書にして、さまざまなアスペクトから、この問題に取り組んでみたい。

現代英米文学特殊講義演習 II (秋学期)

19 世紀末から 20 世紀初頭のイギリス小説

助教授 河 内 恵 子

授業科目の内容：

現代英米文学特殊講義演習 I を参照。

英語学特殊講義 I A (春学期)

Elementary Old English

教 授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容：

This course introduces the pronunciation, spelling and grammar of Old English through reading simple prose.

英語学特殊講義 II A (秋学期)

Elementary Old English

教 授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容：

In this course, we shall read Old English prose and verse from variety of genres.

英語学特殊講義 I B (春学期)

言語人類学

教 授 唐 須 教 光

授業科目の内容：

最初の授業時に述べます。

英語学特殊講義 II B (秋学期)

言語人類学

教 授 唐 須 教 光

授業科目の内容：

最初の授業時に述べます。

英語学特殊講義 I C (春学期)

認知言語学の理論的基盤

講 師 西 村 義 樹

授業科目の内容：

認知言語学の理論的基盤

認知言語学をこれから本格的に学びたい人や、その理論的基盤を再確認したい人とともに、「この理論のどこが（他の理論に対して）「認知（論）的」と言えるのか？」、「どのような経緯で出現した（先行理論といかなる対立・継承関係にある）理論なのか？」、「（他の理論とは異なる）どのような言語（の知識）の全体像を描こうとしているのか？」、「特定の現象に対してどのような意味で（他の理論よりも）その本質の解明に貢献していると言えるのか？」、「他の理論との優劣を経験的(empirical)に決定することがそもそも可能なのか？」等の根本的な問いに取り組んでいく。予備知識は特に必要ないが、認知言語学になじみのない方には、以下の参考書の中からどれか一点でも（講義と平行してでもよいから）お読みになることをお勧めする。

英語学特殊講義 II C (秋学期)

認知言語学の理論的基盤

講 師 西 村 義 樹

授業科目の内容：

認知言語学の理論的基盤

認知言語学をこれから本格的に学びたい人や、その理論的基盤を再確認したい人とともに、「この理論のどこが（他の理論に対して）「認知（論）的」と言えるのか？」、「どのような経緯で出現した（先行理論といかなる対立・継承関係にある）理論なのか？」、「（他の理論とは異なる）どのような言語（の知識）の全体像を描こうとしているのか？」、「特定の現象に対してどのような意味で（他の理論よりも）その本質の解明に貢献していると言えるのか？」、「他の理論との優劣を経験的(empirical)に決定することがそもそも可能なのか？」等の根本的な問いに取り組んでいく。予備知識は特に必要ないが、認知言語学になじみのない方には、以下の参考書の中からどれか一点でも（講義

と平行してでもよいから) お読みになることをお勧めする。

英語学特殊講義 I D (春学期)

認知意味論

講師 成瀬 武史

授業科目の内容 :

私たちは何かを見いだしたり、その意味を推し量ったり、理解したり、伝えたりするとき、視界にある対象を図と地の枠の中に取り込んで焦点と参照点にまとめたり、類似点と相違点に注目しつつ内蔵イメージの典型と照合したり、頭の中のスクリプトによってその現象の原因と展開を予測したりする。そして納得したり誤解したりもする。そのような認知行為は国語を超えて人類に共通するものだろうか? こういった種類の問題をおもに意味論の立場から考えてゆく。

具体的には、おもに認知文法における意味の構造、スキーマと事例、意味の前景化・基底・領域、意味の単位を結びつける選択関係などをとりあげる。

英語学特殊講義 II D (秋学期)

認知意味論

講師 成瀬 武史

英語学特殊講義 I D の継続

英語学特殊講義 I E (春学期)

Rationalism in Plato, Descartes and Chomsky

助教授 北原 久嗣

授業科目の内容 :

プラトンは、対話篇『メノン』のなかで、教育を受けたことのない奴隷の少年が幾何学の定理を発見する様子を描き、この少年に幾何学の知識が生まれながらにして具わっていることを示した。この種の知識は、17世紀、デカルトによって「精神の中に生まれつき具わっている一種の真理の種子」と呼ばれ、20世紀、チョムスキーによって「ヒトという種に固有の遺伝的に決定された生物学的な形質の一部」という現代的な解釈が与えられた。本講義では、プラトンの想起説、デカルトの精神観、チョムスキーの言語観を検討し、生成文法理論の基本概念及び指導仮説について考察を深める。

英語学特殊講義 II E (秋学期)

Cartesian Linguistic

助教授 北原 久嗣

授業科目の内容 :

チョムスキーの言語研究の目的は、(i)人間の言語知識とはいかなるものか、(ii)この知識はどのように獲得されるのか、(iii)この知識は(発話において)どのように使用されるのか、という三つの問いに答える科学的言語理論(生成文法理論)の確立である。これら三つの問いは、それぞれ(i)フンボルトの問題、(ii)プラトンの問題、(iii)デカルトの問題、と呼ばれ、古典的な問題の一形態として捉えられている。本講義では『デカルト派言語学』(Chomsky 1966/2002)を取り上げ、これらの問題を考察する。

英語学特殊講義 I F (春学期)

言語の認知科学

教授 大津 由紀雄

授業科目の内容 :

言語の認知科学の主要論点のいくつかをとりあげ、文献を読んだり、議論したりする。認知言語学の講義ではないので誤解のないよう。受講予定者は第一回目の講義にかならず出席のこと。やむをえない都合で出席できない場合は、かならず事前に担当者に連絡のこと。

英語学特殊講義 II F (秋学期)

言語の認知科学

教授 大津 由紀雄

授業科目の内容 :

英語学特殊講義 I F の継続

英語学特殊講義 I G (春学期)

コミュニケーション研究から「心を読む理論」へ

言語文化研究所 教授 西山 佑司

授業科目の内容 :

われわれは言葉を使って情報を伝達するが、そこで用いられた言葉の意味がかならずしも伝達されるわけではない。この講義では、なぜ言葉によって話し手の意図が理解できるのか、言葉によって伝達される内容は何か、どの部分が明示的に伝達され、その部分が非明示的に伝達されるのか、メタファーやアイロニー、メトニミーなどの解釈はいかにして生じるか、詩的言語の解釈は何か、という問題を現代語用理論として注目されている関連性理論(Relevance Theory)の立

場から論じる。この問題を検討することを通して、『話し手の心を読む理論』についても探りを入れる。

英語学特殊講義ⅡG（秋学期）

コミュニケーション研究から「心を読む理論」へ

言語文化研究所 教授 西山 佑 司

授業科目の内容：

前期に引き続き、「話し手の心を読む理論」を念頭において、コミュニケーション理論の研究をする。われわれは言葉を使って情報を伝達するが、そこで用いられた言葉の意味がかならずしも伝達されるわけではない。この講義では、言葉によって何が伝達されるのか、どの部分が明示的に伝達され、その部分が非明示的に伝達されるのか、メタファーやアイロニー、メトニミーの解釈はいかにして生じるか、詩的言語の解釈は何か、という問題を関連性理論（Relevance Theory）の立場から論じる。この問題を検討することを通して、「話し手の心を読む理論」の構築を試みる。

英語学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

Informed Argument

教授 アーマー, アンドルー

授業科目の内容：

This course is primarily designed for students who are preparing to write M.A. dissertations. It will focus on the techniques required to produce a logical, concise presentation of an academic argument. After receiving instruction in the theory and practice of English rhetoric (as required), students will be expected to present papers for discussion in class.

英語学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

Informed Argument

教授 アーマー, アンドルー

授業科目の内容：

This course is primarily designed for students who are preparing to write M.A. dissertations. It will focus on the techniques required to produce a logical, concise presentation of an academic argument. After receiving instruction in the theory and practice of English rhetoric (as required), students will be expected to present papers for discussion in class.

英語史特殊講義演習Ⅰ（春学期）

史的資料による英語の通時的研究

講師 小倉 美知子

授業科目の内容：

資料によって英語史を通観し、必要な文献を部分的にでも精読しながら、従来の説明の妥当性を問い問題点を探る。なお、テキストは速読用であって、精読の際には文献をコピーにより配布する。

英語史特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

史的資料による英語の通時的研究

講師 小倉 美知子

授業科目の内容：

資料によって英語史を通観し、必要な文献を部分的にでも精読しながら、従来の説明の妥当性を問い問題点を探る。なお、テキストは速読用であって、精読の際には文献をコピーにより配布する。

米文学特殊講義Ⅰ（春学期）

教授 巽 孝之

授業科目の内容：

旧来の文学史的言説を意識しながらアメリカ文学思想史の可能性を考える。

米文学特殊講義Ⅱ（秋学期）

教授 巽 孝之

授業科目の内容：

旧来の文学史的言説を意識しながらアメリカ文学思想史の可能性を考える。

米文学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

Henry James 演習

講師 折島 正司

授業科目の内容：

The Turn of the Screw と *The Beast in the Jungle* を中心に Henry James を読みます。厳密で正確な訳解、多様な解釈の可能性の確認、William James の所説との関連の探索に重点を置きます。テキストは *The Portable Henry James*, John Auchard ed., (Penguin USA, 2003) を使用する予定。大事な参考書目として、Ross Posnock, *The Trial of Curiosity: Henry James, William James, and the Challenge of Modernity* (Oxford UP, 1991).

米文学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

Henry James 演習

講師 折島正司

授業科目の内容：

The Turn of the Screw と *The Beast in the Jungle* を中心に Henry James を読みます。厳密で正確な訳解、多様な解釈の可能性の確認、William James の所説との関連の探索に重点を置きます。テキストは *The Portable Henry James*, John Auchard ed., (Penguin USA, 2003) を使用する予定。大事な参考書目として、Ross Posnock, *The Trial of Curiosity: Henry James, William James, and the Challenge of Modernity* (Oxford UP, 1991).

比較文学Ⅰ（春学期）

翻訳詩の愉しみⅠ

講師 菅原克也

授業科目の内容：

はじめに「翻訳」を論じるための基本的概念を紹介し、種々の実例をもとに理論的考察をおこなう。次に、ヨーロッパ言語で書かれた詩の詩法の一例として、英詩のプロソディに関する基本的知識を紹介し、ヨーロッパ言語で書かれた詩を日本語に翻訳する際に予想される問題点を整理する。その上で、日本近代の訳詩集から『新体詩抄』、森鷗外『於母影』、上田敏『海潮音』を取りあげ、原詩と対照しつつ、具体的に作品を読み味わう。

比較文学Ⅱ（秋学期）

翻訳詩の愉しみⅡ

講師 菅原克也

授業科目の内容：

春学期の講義内容をふまえつつ、日本近代翻訳史上、代表的な訳詩集である上田敏『海潮音』、永井荷風『珊瑚集』、堀口大祐『月下の一群』をはじめ、佐藤春夫、井伏鱒二、山内義雄、小林秀雄、西脇順三郎、金子光晴らの訳詩を取りあげ、原詩との対照をおこないつつ、こまやかに読み味わう。

古典文学ⅠA（春学期）

教授 西村太良

授業科目の内容：

今年度は異色の古典学者 John Gould の論文集 *Myth, Ritual, Memory, and Exchange. Essays in Greek Literature and Culture* (Oxford UP, 2001) の

中から受講者の関心のありそうな論文を選び、古典期のギリシア文化の様々な側面について検討していきたい。受講に際しては必ずしも古典語の知識は必要としないが、邪魔になることもない。

古典文学ⅡA（春学期）

教授 西村太良

授業科目の内容：

今年度は異色の古典学者 John Gould の論文集 *Myth, Ritual, Memory, and Exchange. Essays in Greek Literature and Culture* (Oxford UP, 2001) の中から受講者の関心のありそうな論文を選び、古典期のギリシア文化の様々な側面について検討していきたい。受講に際しては必ずしも古典語の知識は必要としないが、邪魔になることもない。

古典文学ⅠB（春学期）

ホメーロスのギリシア語入門

教授 高橋通男

授業科目の内容：

アルファベットより始めてホメーロスのギリシア語文法を修得しつつ、古代ギリシア叙事詩言語に関する知識を身につける。

古典文学ⅡB（秋学期）

ホメーロス「イーリアス」原典講読

教授 高橋通男

授業科目の内容：

ホメーロスの「イーリアス」第一歌を原典によって講読しつつ、古代ギリシアの叙事詩について、また、口誦叙事詩の詩作テクニクについて学ぶ。

文芸批評史Ⅰ（春学期）

教授 巽孝之

授業科目の内容：

文学批評理論はきわめて学際的な分野である。現代に限っても、ロシア・フォルマリズムや新批評、脱構築、ひいては構造主義から新歴史主義やポスト・コロニアリズム、クイア・リーディングへ至る歴史において、文学批評は何よりも自らの属する枠組み自体をたえまなく再検討し、その結果、今日では文学史と文化史を切り離して考えることはできなくなっている。そこには、いかなる文芸批評史の流れが作用していたのかを、根本に立ち戻って考え直す。

文芸批評史Ⅱ（秋学期）

教授 巽 孝之

授業科目の内容：

文芸批評史Ⅰの応用篇。

言語学特殊講義Ⅰ（春学期）

日本語名詞句の意味論研究

言語文化研究所 教授 西山 佑司

授業科目の内容：

日本語の文中に登場する名詞句の意味と解釈の問題を、とくに指示性・非指示性という観点から考察する。まず、先行研究の問題点を指摘した上で、「非飽和名詞句」「変項名詞句」という概念の導入が必要であることを論じる。次に「象は鼻が長い」「カキ料理は広島が本場だ」「辞書は新しいのが良い」「主役は君だ」「君が主役だ」「父が買ったのは、これだ」「花が咲くのは7月頃だ」といった日本語学でしばしば論じられてきた構文をとりあげ、従来の分析の問題点を指摘する。「非飽和名詞句」や「変項名詞句の非指示性」という観点からこれらの構文にたいする再分析を試み、「ハ」と「ガ」の区別に関する重要な側面を提示する。

言語学特殊講義Ⅱ（秋学期）

日本語名詞句の意味論研究

言語文化研究所 教授 西山 佑司

授業科目の内容：

前期に引き続き、日本語の文中に登場する名詞句の意味と解釈の問題を、とくに指示性・非指示性という観点から考察する。詳細は、「言語学特殊講義Ⅰ」を参照。

独文学専攻

ドイツ文学研究Ⅰ（春学期）

ノヴァーリスと十八世紀の「自然」研究

教授 柴田 陽弘

授業科目の内容：

- 十八世紀研究
- 1 社会と文化
 - 2 哲学
 - 3 自然科学
 - 4 認識の問題
 - 5 「自然」とはなにか
-

ノヴァーリスの「ザイスの弟子たち」を手がかりにして、以上の諸点を考察する。それと平行して学術論文執筆の実践的訓練をおこなう。

ドイツ文学研究Ⅱ（秋学期）

ノヴァーリスと十八世紀の「自然」研究

教授 柴田 陽弘

授業科目の内容：

- 十八世紀研究
- 1 社会と文化
 - 2 哲学
 - 3 自然科学
 - 4 認識の問題
 - 5 「自然」とはなにか

ノヴァーリスの「ザイスの弟子たち」を手がかりにして、以上の諸点を考察する。それと平行して学術論文執筆の実践的訓練をおこなう。

ドイツ文学研究Ⅲ（春学期）

教授 和泉 雅人

授業科目の内容：

本年は Ludwig Tieck の処女長編小説 *William Lovell* を講読します。奇妙な緊張を孕んだこの小説は、有名でありながら、日本では読まれることの少ない作品です。いわゆる前期ティークの基調である戦慄と恐怖とイロニーが織り交ぜられた典型的なドイツ・ロマン派ふうの小説ですが、イギリスの模範に従った書簡体小説形式におけるポリフォニー的文体の妙もティークの手腕の見せ所でした。この小説はライマー版で700頁をはるかに超えるため、一年間での講読はかなり困難ですが、その点は受講者と相談の上でいると工夫をしていきたいと思っています。ガイダンスには必ず出席して、授業に関する注意事項について知悉しておいてください。

ドイツ文学研究Ⅳ（秋学期）

教授 和泉 雅人

授業科目の内容：

本年は Ludwig Tieck の処女長編小説 *William Lovell* を講読します。奇妙な緊張を孕んだこの小説は、有名でありながら、日本では読まれることの少ない作品です。いわゆる前期ティークの基調である戦慄と恐怖とイロニーが織り交ぜられた典型的なドイツ・ロマン派ふうの小説ですが、イギリスの模範に従った書簡体小説形式におけるポリフォニー的文体の妙もテ

イークの手腕の見せ所でした。この小説はライマー版で 700 頁をはるかに超えるため、一年間での講読はかなり困難ですが、その点は受講者と相談の上でいろいろと工夫をしていきたいと思っています。ガイダンスには必ず出席して、授業に関する注意事項について知悉しておいてください。

ドイツ文学研究 V (春学期)

講師 渡邊直樹

授業科目の内容 :

この授業では、レッシングとレッシングの作品について論じた次の論文集から数編選択して取り上げ、レッシングの啓蒙主義の特徴を分析します。

Gottholt Ephraim Lessing: (Hg.) Gerhard und Sibylle Bauer, Wissenschaftliche Buchgesellschaft, Darmstadt 1968

なお、テキストは用意いたします。

ドイツ文学研究 VI (秋学期)

講師 渡邊直樹

授業科目の内容 :

この授業では、次の論文を読みドイツ啓蒙主義についての理解を深めます。

Peter Pütz: Die Deutsche Aufklärung. Wissenschaftliche Buchgesellschaft, Darmstadt 1978

なお、テキストは用意いたします。

ドイツ文学研究 VII (春学期)

休講

ドイツ文学研究 VIII (秋学期)

休講

ドイツ文学演習 I (春学期)

Hartmann von Aue: Iwein を読む

講師 重藤実

授業科目の内容 :

ドイツ中世文学を代表する作者の 1 人 Hartmann von Aue の宮廷叙事詩 Iwein を読む。テキストを読み進めながら、この作品と同時代の他の作品との関係、原典との関係などを考察する。また中高ドイツ語の特徴などについても考えたい。

なお、受講学生の希望があれば、はじめに中高ドイツ語文法の解説をおこなう。

ドイツ文学演習 II (秋学期)

Hartmann von Aue: Iwein を読む

講師 重藤実

授業科目の内容 :

ドイツ中世文学を代表する作者の 1 人 Hartmann von Aue の宮廷叙事詩 Iwein を読む。テキストを読み進めながら、この作品と同時代の他の作品との関係、原典との関係などを考察する。また中高ドイツ語の特徴などについても考えたい。

ドイツ文学演習 III (春学期)

講師 ループレヒター、ヴァルター

授業科目の内容 :

Das Seminar beschäftigt sich mit der Kultur der Jahrhundertwende in Europa (Schwerpunkt Wien) unter dem Einfluss fremder Kulturen (Schwerpunkt Japan). In der 2. Hälfte des 19. Jhds. sind zahlreiche Erzeugnisse fremder Kulturen und Kunst nach Europa gelangt und haben den abendländischen Kunst- und Kulturbegriff nachhaltig verändert.

„Nicht mehr und nicht weniger als eine Revolution im Sehen der europäischen Völker, das ist der Japonismus.“ Edmond de Goncourt

Einige Themen, die im Seminar zur Diskussion stehen und in Zusammenarbeit mit den Studenten ergänzt werden sollen:

Voraussetzungen des Kulturtransfers: Imperialismus, Öffnung Japans

Aufnahmebereitschaft für fremde Kulturen: europäische Zivilisationskritik und Kulturkrise um die Jahrhundertwende

Präsentation japanischer Kultur in Europa. Weltausstellungen, Sezessionsausstellung 1900 in Wien.

Einfluss japanischer Ästhetik auf die Wiener Moderne (Klimt, Wiener Werkstätte und die „japanische Art“) und das Bauhaus (Architektur)

Japonismus und Ornamentsdebatte: Wilhelm Worringer „Abstraktion und Einfühlung“ (1908)

Texte im Umfeld des Japonismus: z.B. Carl Einstein „Der frühere japanische Holzschnitt“ (1923)

Literarische Texte unter japanischem Einfluss

(z.B. Rilke)

Das Japan-Bild des Japonismus
Europäische Ästhetik-Japanische Ästhetik
Der Japonismus aus japanischer Sicht.
Kulturexport damals und heute

In diesem Seminar zähle ich besonders auf die Mitarbeit der Studenten, um eine wechselseitige Perspektive für den Kulturaustausch Japan-Europa zu entwickeln.

ドイツ文学演習Ⅳ (秋学期)

講師 ループレヒター, ヴァルター

授業科目の内容 :

Das Seminar beschäftigt sich mit der Kultur der Jahrhundertwende in Europa (Schwerpunkt Wien) unter dem Einfluss fremder Kulturen (Schwerpunkt Japan). In der 2. Hälfte des 19. Jhds. sind zahlreiche Erzeugnisse fremder Kulturen und Kunst nach Europa gelangt und haben den abendländischen Kunst- und Kulturbegriff nachhaltig verändert.

„Nicht mehr und nicht weniger als eine Revolution im Sehen der europäischen Völker, das ist der Japonismus.“ Edmond de Goncourt

Einige Themen, die im Seminar zur Diskussion stehen und in Zusammenarbeit mit den Studenten ergänzt werden sollen:

Voraussetzungen des Kulturtransfers: Imperialismus, Öffnung Japans

Aufnahmebereitschaft für fremde Kulturen: europäische Zivilisationskritik und Kulturkrise um die Jahrhundertwende

Präsentation japanischer Kultur in Europa. Weltausstellungen, Sezessionsausstellung 1900 in Wien.

Einfluss japanischer Ästhetik auf die Wiener Moderne (Klimt, Wiener Werkstätte und die „japanische Art“) und das Bauhaus (Architektur)

Japonismus und Ornamentsdebatte: Wilhelm Worringer „Abstraktion und Einfühlung“ (1908)

Texte im Umfeld des Japonismus: z.B. Carl Einstein „Der frühere japanische Holzschnitt“ (1923)

Literarische Texte unter japanischem Einfluss
(z.B. Rilke)

Das Japan-Bild des Japonismus
Europäische Ästhetik-Japanische Ästhetik
Der Japonismus aus japanischer Sicht.
Kulturexport damals und heute

In diesem Seminar zähle ich besonders auf die Mitarbeit der Studenten, um eine wechselseitige Perspektive für den Kulturaustausch Japan-Europa zu entwickeln.

ドイツ文学演習Ⅴ (春学期)

ヴァルター・ベンヤミンの複製技術論

助教授 大宮 勘一郎

授業科目の内容 :

Walter Benjamin: Das Kunstwerk im Zeitalter Seiner technischen Reproduzierbarkeit (1 ~ 3 Fassungen) を読む。

ドイツ文学演習Ⅵ (秋学期)

ヴァルター・ベンヤミンの物語論

助教授 大宮 勘一郎

授業科目の内容 :

Walter Benjamin: Der Erzähler 講読。

ドイツ語学研究Ⅰ (春学期)

Germanistische Propädeutik.

Wie sind wissenschaftliche Arbeiten zu schreiben?

教授 フュルンケース, ヨーゼフ

授業科目の内容 :

Das Schreiben von Examensarbeiten, z.B. Magisterarbeiten, will gelernt und geübt sein. Es genügt nicht, das Thema zu bedenken, die Werke zu lesen, die Literatur zu konsultieren, den eigenen Interpretationsideen zu folgen. Es geht auch darum, sich den Standards und Normen zu stellen, die mit dem Anspruch auf wissenschaftliches Schreiben verbunden sind. Germanistische Propädeutik will hier gezielt Hilfen anbieten.

Examenskandidaten wird die Möglichkeit gegeben, den Fortschritt ihrer Arbeiten durch konstruktive Kritik kontinuierlich überprüfen zu lassen.

ドイツ語学研究Ⅱ（秋学期）

Germanistische Propädeutik.

Wie sind wissenschaftliche Arbeiten zu schreiben?

教授 フュルンケース, ヨーゼフ

授業科目の内容：

Das Schreiben von Examensarbeiten, z.B. Magisterarbeiten, will gelernt und geübt sein. Es genügt nicht, das Thema zu bedenken, die Werke zu lesen, die Literatur zu konsultieren, den eigenen Interpretationsideen zu folgen. Es geht auch darum, sich den Standards und Normen zu stellen, die mit dem Anspruch auf wissenschaftliches Schreiben verbunden sind. Germanistische Propädeutik will hier gezielt Hilfen anbieten.

Examenskandidaten wird die Möglichkeit gegeben, den Fortschritt ihrer Arbeiten durch konstruktive Kritik kontinuierlich überprüfen zu lassen.

ドイツ語学研究Ⅲ（春学期）

中高ドイツ語入門（1）

理工学部 助教授 横山由広

授業科目の内容：

秋学期の「ドイツ語学研究Ⅳ」と合わせて中高ドイツ語（Mittelhochdeutsch）をはじめて学ぶ人のための授業で、中世ドイツ文芸を代表する作品からの抜粋を講読しながら、中高ドイツ語文法の初歩をひとつおりの学習します。その際、ドイツ語教育に携わるにあたって知っておくことが望ましい、ドイツ語史のトピックを随時取り上げます。

ドイツ語学研究Ⅳ（秋学期）

中高ドイツ語入門（2）

理工学部 助教授 横山由広

授業科目の内容：

春学期の「ドイツ語学研究Ⅲ」の継続科目です。「ドイツ語学研究Ⅲ」と合わせて中高ドイツ語（Mittelhochdeutsch）をはじめて学ぶ人のための授業で、中世ドイツ文芸を代表する作品からの抜粋を講読しながら、中高ドイツ語文法の初歩をひとつおりの学習します。その際、ドイツ語教育に携わるにあたって知っておくことが望ましい、ドイツ語史のトピックを随時取り上げます。

ドイツ語学演習Ⅰ（春学期）

Einführung in die Literaturwissenschaft I

訪問講師 ドゥッペル-タカヤマ, メヒティルド

授業科目の内容：

Als Einführung in das Magisterstudium werden grundlegende Kenntnisse der germanistischen Literaturwissenschaft vermittelt. Nach der Klärung von Grundbegriffen stehen zunächst praktische Aspekte im Mittelpunkt: Hilfsmittel für das Studium werden vorgestellt und Arbeitstechniken eingeübt. Danach sollen einzelne Methoden und Modelle der Literaturwissenschaft betrachtet und diskutiert werden.

ドイツ語学演習Ⅱ（秋学期）

Einführung in die Literaturwissenschaft II

訪問講師 ドゥッペル-タカヤマ, メヒティルド

授業科目の内容：

Fortsetzung der Veranstaltung “Einführung in die Literaturwissenschaft I”

仏文学専攻

中世仏語仏文学特殊講義Ⅰ（春学期）

中世フランス語入門

教授 川口順二

授業科目の内容：

13世紀の散文を使って中世フランス語の入門をします。同時に文献学の基本を学び、フランス語に対する感受性を養い、文学作品を読解していく上で必要な知識をつけてもらいます。

中世仏語仏文学特殊講義Ⅱ（秋学期）

中世フランス語入門

教授 川口順二

授業科目の内容：

春学期に学習した、または他所で勉強した中世フランス語の知識を基にして、12世紀の韻文を読みます。13世紀の散文より難度の高いテキストですが、学年末には思ったより以上に中世語が読めるようになっているはずです。

中世仏語仏文学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

16世紀へようこそ！

教授 萩野 安奈

授業科目の内容：

16世紀の文体・発想に慣れることが前期の目標です。教科書版を用いることで、現代フランス語によるテキスト分析の方法を学習し、dissertationの参考になるよう配慮します。

中世仏語仏文学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

「物語」から「小説」へ

教授 萩野 安奈

授業科目の内容：

指定テキストの、前期に読み残した部分を片付けながら、ラブレールを読み進めます。同じ騎士道小説のパロディである「第一之書」（1532）と「第二之書」（1534?）で、似たテーマがどのような変貌をとげるのか。確認する作業は小説というジャンルの萌芽を垣間見せてくれることでしょう。

近代仏語仏文学特殊講義Ⅰ（春学期）

フランス語圏ベルギーの文学

教授 宮林 寛

授業科目の内容：

ベルギー象徴派の詩人ジョルジュ・ローデンバックの作品を読みながら韻文の解釈を「実践的に」学んでもらう授業です。

近代仏語仏文学特殊講義Ⅱ（秋学期）

フランス象徴派の文学

教授 宮林 寛

授業科目の内容：

ステファヌ・マラルメによるテオフィル・ゴーチエ受容を考えながらマラルメの初期詩篇を精読します。

近代仏語仏文学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

古典フランス語入門Ⅰ

助教授 片木 智年

授業科目の内容：

古典フランス語の入門です。ラシーヌについて、「人間の言語においてこれほど美しい詩句」が書かれたことはないといったのはジードで、悲劇『アンドロマック』をして世界最高の戯曲といったのは浅利慶太です。この時代のフランス語は現代にいたるまで様々な作家のお手本となり、フランス人学生はみんな学校

で一通りの作品を学びます。文字通り「クラシック」な教養となっているのです。したがって、フランス文化に親しみたい、あるいは将来的にフランス語・文学の専門家への道を考えているといった方に開かれた演習であり、現代フランス語さえできればよいという方には無益な努力を強いられる辛いだけの授業です。なお、授業では現代語つづりに書き直した古典悲劇の抜粋を題材としますが、徐々に16、17世紀のエディションも紹介していきます。

近代仏語仏文学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

古典フランス語入門Ⅱ

助教授 片木 智年

授業科目の内容：

前期の授業の続きです。前期で古典フランス語の入門を終えた方、もしくはすでにその知識を持っている方が履修可能です。授業で扱われる資料は当時のフランス語そのまま（現代語つづりに直していないもの）です。人文劇、バロック劇を通じてどんな風にフランスの演劇＝幻想産業が立ち上がってきたかを通史的に追っていくことになるでしょう。

現代仏文学特殊講義Ⅰ（春学期）

LITTERATURE ET PEINTURE

訪問講師 シモン=及川、マリアンヌ

授業科目の内容：

L'intérêt de la littérature pour les arts est ancien. Les Grecs et les Romains déjà goûtaient fort les descriptions d'œuvres d'art. Qu'ils cherchent à décrire fidèlement une peinture (transposition d'art), à raconter la vie d'un peintre (roman d'artiste), ou à inventer librement une histoire originale à partir d'une œuvre picturale, les écrivains n'ont cessé d'entretenir des liens variés avec le visible. Le cours, largement illustré, se propose d'étudier quelques œuvres littéraires des XIX^{ème} et XX^{ème} siècles particulièrement marquées par leur référence aux arts visuels.

現代仏文学特殊講義Ⅱ（秋学期）

LITTERATURE ET PEINTURE

訪問講師 シモン=及川、マリアンヌ

授業科目の内容：

L'intérêt de la littérature pour les arts est ancien. Les Grecs et les Romains déjà goûtaient

fort les descriptions d'œuvres d'art. Qu'ils cherchent à décrire fidèlement une peinture (transposition d'art), à raconter la vie d'un peintre (roman d'artiste), ou à inventer librement une histoire originale à partir d'une œuvre picturale, les écrivains n'ont cessé d'entretenir des liens variés avec le visible. Le cours, largement illustré, se propose d'étudier quelques œuvres littéraires des XIX^{ème} et XX^{ème} siècles particulièrement marquées par leur référence aux arts visuels.

現代仏文学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

文学における病の表象

教授 小倉孝誠

授業科目の内容：

文学における病いのテーマについて論じる。病いはあらゆる時代と社会に見られる普遍的な現象だが、それについての認識は変化する。すなわち病いは生理学的な現象であると同時に、文化的、社会的に構築される表象でもあって、科学的な説明とは無縁なところで、さまざまな神話や幻想を生みだしてきた。そのような神話や現象をペスト、コレラ、アルコール中毒、梅毒、結核、そしてエイズなど具体的な病気にそくして読み解いてみる。講義ではまず、文学における身体の表象という大きなテーマについて概説し、そのうえで病む身体の表象について考えてみる。扱う作家としてはバルザック、ジョルジュ・サンド、ゴンクール兄弟、ゾラ、ミルボー、カミュ、エルヴェ・ギベールなどを考えている。

現代仏文学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

文学における病の表象

教授 小倉孝誠

授業科目の内容：

春学期の続き。

仏語仏文学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

『ラモーの甥』講読

教授 鷲見洋一

授業科目の内容：

授業はフランス語で行い、ディドロの傑作対話作品『ラモーの甥』を丁寧に読む。18世紀のフランス語、とりわけディドロの個性的な文体を、日本語を介在させずに味わうことが目的で、読み解きに必要なさまざまなツールの利用技術を併せて習得して貰う。日本人

同士がフランス語で考え、喋るのは、けっこうきついものだが、キャンパスでフランス語に接する機会があまりない以上、お互いの訓練だと思って付き合っていたきたい。初めは辛いですが、慣れると、最後はメモ程度でけっこう話すようになるから不思議である。

仏語仏文学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

『ラモーの甥』講読

教授 鷲見洋一

授業科目の内容：

春学期の続きで、『ラモーの甥』を読む。

仏語仏文学特殊講義演習Ⅲ（春学期）

フランス19世紀末の半裸の美学

教授 立仙順朗

授業科目の内容：

フランス19世紀末における *danse* と文学の *écriture* との関係を論じた次の本を読みます。Guy Ducrey: *Corps et graphies, poétique de la danse et de la danseuse à la fin du 19e siècle*. 今年は第一章 *Les espaces marginaux du désir* の p.54 *Frissons d'une nudité nouvelle* から読みます。19世紀末の人々の欲望の構図を楽屋裏というトポスで捉え、〈脱ぐ〉と〈着る〉という二つの運動が交わる半裸の美学として考察するところから出発します。

仏語仏文学特殊講義演習Ⅳ（秋学期）

フランス19世紀末の舞踏ロイ・フラーと文学的 *Ecriture*

教授 立仙順朗

授業科目の内容：

仏語仏文学特殊講義演習Ⅲのテキスト Guy Ducrey: *Corps et graphies, poétique de la danse et de la danseuse à la fin du 19e siècle*, Honoré Champion, 1996. を引き続き読みます。この秋学期は第5章 *Le mythe Loie Fuller ou la danse comme enjeu littéraire* を読みます。春学期は舞踊と世紀末風俗とのかかわりが問題でしたが、この章では文学的 *エクリチュール* とのかかわりを考察します。

仏語仏文学特殊講義演習Ⅴ（春学期）

教授 鈴木順二

授業科目の内容：

Marcel Proust の *A la recherche du temps perdu* より *Du côté de chez Swann* と *A l'ombre des jeunes*

filles en fleurs を読みます。解説書 *Combray, Un amour de Swann, A l'ombre des jeunes filles en fleurs* (いずれも collection 《Balises》, Nathan) を併読し、この作品がはらむ諸問題について理解を深めたいと思います。また適宜、関連する研究書を読んで分担して報告してもらいます。

仏語仏文学特殊講義演習Ⅵ (秋学期)

教授 鈴木 順 二

授業科目の内容 :

春学期に続いて、Marcel Proust の *A la recherche du temps perdu* を読みます。

図書館・情報学専攻

情報学特殊講義Ⅰ (春学期)

教授 田村 俊 作

授業科目の内容 :

Rayword W.B. "The development of library and information science." *The Study of Information*, ed. by F. Machlup; U. Mansfield. New York, Wiley, 1983, p.343-363 を講読することを通じて、図書館情報学の歴史、「図書館学」と「情報学」、関連分野、最近の動向とその背景などについて考えたい。

情報学特殊講義Ⅱ (秋学期)

教授 田村 俊 作

授業科目の内容 :

Barton, D. *Literacy*. Blackwell, 1994 の講読を通じて、リテラシーと情報リテラシー、およびその教育における図書館の役割について考えてみたい。

情報学特殊講義Ⅲ (春学期)

休 講

情報学特殊講義Ⅳ (秋学期)

休 講

情報学特殊講義演習Ⅰ (春学期)

教授 田村 俊 作

授業科目の内容 :

図書館情報サービスに関連する諸問題について、論文作成の指導を行う。

情報学特殊講義演習Ⅱ (秋学期)

教授 田村 俊 作

授業科目の内容 :

情報学特殊講義Ⅰに引き続き、図書館情報サービスに関連する諸問題について、論文作成の指導を行う。

情報メディア特殊講義Ⅰ (春学期)

教授 上田 修 一

授業科目の内容 :

「メディア論」に関する基礎文献を講読します。

情報メディア特殊講義Ⅱ (秋学期)

教授 上田 修 一

授業科目の内容 :

情報メディアを扱いますが、内容は受講者と相談して決めます。

情報メディア特殊講義Ⅲ (春学期)

情報メディア論

教授 倉田 敬 子

授業科目の内容 :

情報メディア論、メディア研究の基本的文献の講読を通して、情報メディアとは何であるかを考えていく。

情報メディア特殊講義Ⅳ (秋学期)

電子ジャーナルを中心とする科学コミュニケーション論

教授 倉田 敬 子

授業科目の内容 :

特に電子ジャーナルに焦点を当てて、科学コミュニケーションの特性、現状と課題、今後のあり方に関して検討する。最近の動向に関する英語論文の輪読と議論を中心に進める。

情報メディア特殊講義演習ⅠA (春学期)

教授 上田 修 一

授業科目の内容 :

修士論文指導を行います。

情報メディア特殊講義演習ⅡA (秋学期)

教授 上田 修 一

授業科目の内容 :

修士論文指導を行います。

情報メディア特殊講義演習 I B (春学期)

ゼミナール

教授 倉田敬子

授業科目の内容 :

情報メディアを中心とする研究テーマを設定し、具体的な調査研究を進める。テーマ設定、文献探索、調査計画といったプロセスを実際に体験してもらいながら、調査研究の技法や基礎知識を身につけてもらうことを目標とします。情報メディア特殊講義演習 I A と合同で行います。

情報メディア特殊講義演習 II B (秋学期)

ゼミナール

教授 倉田敬子

授業科目の内容 :

情報メディア特殊講義演習 I B で行った情報メディアを中心とする研究をまとめるとともに、修士論文のテーマを検討します。情報メディア特殊講義演習 II A と合同で行います。

情報検索特殊講義 I (春学期)

教授 細野公男

授業科目の内容 :

情報検索手法・システムやデジタル図書館の開発・利用に関連する理論、問題点・課題、解決の方向について解説します。

情報検索特殊講義 II (秋学期)

教授 細野公男

授業科目の内容 :

「情報検索特殊講義 I」で取り上げた話題をさらに展開し、種々の側面から解説します。

情報検索特殊講義 III (春学期)

休講

情報検索特殊講義 IV (秋学期)

休講

情報検索特殊講義演習 I (春学期)

教授 細野公男

授業科目の内容 :

情報検索あるいはデジタル図書館などの分野で修士論文を執筆しようとする学生を対象として、指導を行います。

情報検索特殊講義演習 II (秋学期)

教授 細野公男

授業科目の内容 :

「情報検索特殊講義演習 I」と同じです。

情報システム特殊講義 I (春学期)

情報管理システムの経営

教授 高山正也

授業科目の内容 :

図書館の管理・運営問題を中心に、現代の社会における各種の情報資源管理の問題を、公共図書館を例にとりながら、経済的側面に重点を置きつつ分析・検討します。この時間は秋学期の「情報システム特殊講義 II」に継続します。

情報システム特殊講義 II (秋学期)

情報管理システムの経営

教授 高山正也

授業科目の内容 :

春学期の「情報システム特殊講義 I」を承けて、図書館の管理・運営問題を中心に、公共図書館を例にとりながら、経済的側面に重点を置きつつ分析・検討します。

情報システム特殊講義 III (春学期)

教授 田村俊作

授業科目の内容 :

三田メディアセンターとの連携の下に、図書館利用者サービスの実施に係わる諸問題を、実際に即して検討する。

情報システム特殊講義 IV (秋学期)

図書館の「公共性」

教授 糸賀雅児

授業科目の内容 :

図書館をはじめとする情報提供機関の経営管理や行政・政策に関わる問題を取りあげます。

地方自治法の改正により新たに導入された指定管理者制度、公共図書館を対象にした公貸権制度の提案、地方公共団体の情報公開制度と図書館の関係、ハーバーマスの「公共圏」と図書館の関わり等、図書館の「公共性」を中心テーマにとりあげる予定です。詳細は、履修者と協議のうえ決定します。

情報システム特殊講義演習ⅠA（春学期）

図書館の経営管理（修士課程の研究会）

教授 高山正也

授業科目の内容：

図書館等の情報管理システムを対象とする経営管理的観点から、生涯学習機関としての図書館、アート・ドキュメンテーション、図書館の法令・会計規則等のテーマを中心に、個別の学習・研究指導を行います。この時間は「情報システム特殊講義演習ⅡA」に続きます。

情報システム特殊講義演習ⅡA（秋学期）

図書館の経営管理（修士課程の研究会）

教授 高山正也

授業科目の内容：

「情報システム特殊講義演習ⅠA」を受け、図書館等の情報管理システムを対象とする経営管理的観点から、生涯学習機関としての図書館、アート・ドキュメンテーション、図書館の法令・会計規則等のテーマを中心に、個別の学習・研究指導を行います。

情報システム特殊講義演習ⅠB（春学期）

教授 糸賀雅児

授業科目の内容：

修士論文の執筆に向けて、テーマの選択、研究の進め方、論文執筆の技術的な助言などを、逐次行なっていきます。

情報システム特殊講義演習ⅡB（秋学期）

教授 糸賀雅児

授業科目の内容：

修士論文の執筆に向けて、テーマの選択、研究の進め方、論文執筆の技術的な助言などを、逐次行なっていきます。

調査研究法Ⅰ（春学期）

教授 糸賀雅児

授業科目の内容：

図書館・情報学の基本的な研究方法について学びます。国内外の具体的な研究事例をもとに、主な研究方法の概要、意義、限界などを検討する予定ですが、特に「統計的方法」については、有意差検定の基本的な考え方が修得できるように指導します。また、図書館・情報学の主要な専門雑誌についても、それぞれの特徴を理解してもらいたいと考えています。

調査研究法Ⅱ（秋学期）

休講

情報分析論Ⅰ（春学期）

教授 糸賀雅児

授業科目の内容：

図書館・情報学の最近の海外研究論文の中から履修者各自が選択したものについて、その概要を発表し、全員で討議します。原則として、秋学期の情報分析論Ⅱとあわせて継続して履修してください。

情報分析論Ⅱ（秋学期）

教授 糸賀雅児

授業科目の内容：

情報分析論Ⅰと同じ内容です。原則として、春学期の情報分析論Ⅰとあわせて継続して履修してください。

情報資源管理特殊講義Ⅰ（春学期）

図書館の経営と管理

教授 高山正也

授業科目の内容：

この授業では実際に起こった図書館の経営管理上の具体的な問題（ケース）を取り上げ、その解決策を履修者とともに考えてゆく、事例研究による参加型の授業にしたいと思います。

ただわが国の図書館・情報学においてはこの事例研究（ケース・スタディ）という方法はほとんど未開拓で、この方法の基盤である事例（ケース）もほとんど作成されていません。そこで、受講者とともに、わが国の図書館実態に即した、ケースの開発も行いながら、授業をすすめたいと思います。開発するケースは主に、公共・大学・専門の各館種から採りたいと思います。

情報資源管理特殊講義Ⅱ（秋学期）

教授 上田修一

授業科目の内容：

大学図書館の運営に関する基礎的知識の確認と今日の問題、課題を検討する。大学図書館の運営上の諸問題をトピック別に2回づつ扱う。1回目は講義、2回目は事例研究、討論という組み合わせとする。扱うトピックは毎年、変えるか、受講者に合わせるかする。トピックとしては、他に、組織、人事、書庫スペースなど。ここでは電子化などの問題は、直接には取り扱

わない。

情報資源管理特殊講義Ⅲ（春学期）

休 講

情報資源管理特殊講義Ⅳ（秋学期）

休 講

情報資源管理特殊講義Ⅴ（秋学期）

教 授 中 野 捷 三

授業科目の内容：

図書館におけるコレクションの管理全般に関する基礎的知識と今日の問題、課題を検討する。コレクションの管理の諸問題をトピック別に 2 回ずつ扱う。原則として、1 回目は講義、2 回目は事例研究、討論という組み合わせとする。

情報資源管理特殊講義Ⅵ（秋学期）

教 授 倉 田 敬 子

授業科目の内容：

図書館が収集、提供、保存の対象とする情報メディアに関して、話題、問題となっているトピックを取り上げ、基本的な概説を行うとともに、図書館での導入、取り扱いに当たって問題となる点を検討します。取り上げるトピックは主として電子メディアと著作権関連です。

情報資源管理特殊講義Ⅶ（春学期）

教 授 細 野 公 男

授業科目の内容：

大学図書館がデジタル化の時代にどう対処すべきかをデジタル資料の入手、作成、管理、発信の側面から取り上げます。なお適宜討論の場を設けます。

情報資源管理特殊講義Ⅷ（秋学期）

教 授 田 村 俊 作

授業科目の内容：

レファレンスサービスを提供する際に課題となる事項について、実際に即して検討します。それにより、レファレンス・ライブラリアンとしての知識・技能の向上を目指します。

情報資源管理特殊講義Ⅸ（春学期）

休 講

情報資源管理特殊講義Ⅹ（秋学期）

休 講

情報資源管理特殊講義Ⅺ（春学期）

講 師 池 内 淳

授業科目の内容：

情報処理技術の基本と図書館の情報発信に必要な技術を実習形式で講ずる。

情報資源管理特殊講義Ⅻ（秋学期）

休 講

情報資源管理特殊講義ⅩⅢ（秋学期）

講 師 宮 澤 彰

授業科目の内容：

データベース構築の理論と現在稼働している大規模な文献データベースを事例としてデータベース構築の実際と問題点を扱う。

情報資源管理特殊講義ⅩⅣ（春学期）

図書館の法と制度

教 授 糸 賀 雅 児

授業科目の内容：

図書館をとりまく法律や諸制度が急速に変容しようとしています。その動向と課題を把握し、個別の図書館の状況に応じた対処法や解決策を探り出すことがねらいです。今年度は、以下のような事項を用意していますが、この中の 3～4 項目を履修者の要望も聞きながら選ぶことにします。

- ・著作権法と公共貸与権
- ・地方自治法の改正による「指定管理者制度」（民間委託）
- ・大学改革と独立行政法人
- ・国際標準化機構（ISO）による図書館関連規格
- ・自治体再編と市町村合併
- ・図書館法における「司書」と「上級司書制度」

ただし、授業期間中に教育基本法改正の論議が進めば、これが図書館にもたらす影響もとりあげたいと考えています。

情報資源管理特殊講義ⅩⅤ（秋学期）

公共図書館の諸問題

教 授 糸 賀 雅 児

授業科目の内容：

公共図書館とその周辺の今日的な問題を取りあげま

す。関係者の話を聞きながら理解を深め、討論を通じて互いの図書館の問題解決を図ることがねらいです。今年度は、以下のようなテーマを用意していますが、どのようなテーマと講師にするかは履修者の要望も聞きながら決めることにします。もちろん、ここに挙げていないテーマでも構いません。

- ・アウトソーシング，民間委託，PFI
- ・ファンドレイジング，資金調達
- ・ビジネス支援サービス
- ・子育て支援サービス
- ・住民参加とボランティア
- ・職員研修と「上級司書制度」
- ・地域資料の組織化，地域情報発信
- ・行政評価，事務事業評価，自己点検評価
- ・著作権法と公共貸与権
- ・市町村合併と図書館ネットワーク
- ・図書館と学校の連携・協力
- ・公共図書館向けの商用データベース
- ・公共図書館の組織と職務分掌
- ・公共図書館における危機管理
- ・国の図書館行政・図書館政策の動向
- ・出版流通の現状と図書館への期待
- ・子ども読書推進計画の実態
- ・情報リテラシー教育の課題

ただし、授業期間中に教育基本法改正の論議が進めば、これが公共図書館にもたらす影響もとりあげたいと考えています。

情報資源管理特殊講義 XVI (春学期)

休 講

情報資源管理特殊講義 XVII (春学期)

休 講

情報資源管理特殊講義 XVIII (秋学期)

休 講

情報資源管理特殊講義演習 I A (春学期)

教 授 細 野 公 男

授業科目の内容：

大学図書館におけるデジタル化あるいは情報検索サービスと係わるテーマで修士論文を執筆しようとする学生を対象として、指導を行います。

情報資源管理特殊講義演習 II A (秋学期)

教 授 細 野 公 男

授業科目の内容：

「情報資源管理特殊講義演習 I A」と同じです。

情報資源管理特殊講義演習 I B (春学期)

論文指導 (研究会)

教 授 高 山 正 也

授業科目の内容：

この科目は情報資源管理分野の論文指導のための研究会 (ゼミ) です。主として、専門図書館、大学図書館、公共図書館、ならびにアーカイブズ (記録管理を含む検索型情報サービス機関) 等の経営管理問題についての論文執筆者の受講を想定しています。

秋学期の「情報資源管理特殊講義演習 II B」を継続履修することを想定して授業を進めます。

情報資源管理特殊講義演習 II B (秋学期)

論文指導 (研究会)

教 授 高 山 正 也

授業科目の内容：

春学期の「情報資源管理特殊講義演習 I B」を承けて開かれる、情報資源管理分野の論文指導のための研究会 (ゼミ) です。主として、専門図書館、大学図書館、公共図書館、並びにアーカイブズ (記録管理を含む検索型情報サービス機関) 等の経営管理問題についての論文執筆者の受講を想定しています。

秋学期は特に論文を読むことに慣れるだけでなく、論文の形式についても、どのような形式になっているかを体得することを目的にします。

情報資源管理特殊講義演習 I C (春学期)

教 授 上 田 修 一

授業科目の内容：

大学図書館、書誌コントロール、資料管理、学術情報、情報メディアを中心とした研究指導を行います。

情報資源管理特殊講義演習 II C (秋学期)

教 授 上 田 修 一

授業科目の内容：

大学図書館、書誌コントロール、資料管理、学術情報、情報メディアを中心とした研究指導を行います。

情報資源管理特殊講義演習ⅠD（春学期）

教授 田村 俊作

授業科目の内容：

レファレンスサービスを中心とする利用者サービスをテーマに、院生の論文指導をします。

情報資源管理特殊講義演習ⅡD（秋学期）

教授 田村 俊作

授業科目の内容：

レファレンスサービスを中心とする利用者サービスをテーマに、ⅠDに引き続き院生の論文指導をします。

情報資源管理特殊講義演習ⅠE（春学期）

教授 糸賀 雅児

授業科目の内容：

修士論文の執筆に向けて、テーマの選択、研究の進め方、論文執筆の技術的な助言などを、逐次行なっていきます。主要な指導領域は、公共図書館政策、公共図書館経営、図書館の測定・評価などを中心とした公共図書館の諸問題になりますが、その他のテーマについては、その都度検討させていただきます。

情報資源管理特殊講義演習ⅡE（秋学期）

教授 糸賀 雅児

授業科目の内容：

情報資源管理特殊講義演習ⅠEに引き続いて、修士論文の執筆に向けたテーマの選択、研究の進め方、論文執筆の技術的な助言などを、逐次行なっていきます。

情報資源管理特殊講義演習Ⅲ（春学期）

抄読会

教授 倉田 敬子

授業科目の内容：

履修者各自が関心を持つテーマに関する最近の研究論文を選び、レジメを作成し紹介してもらいます。学術論文の読み方、まとめ方を身につけてもらうことを目標とします。最初は日本語の学術論文から始め、次に英語論文で行ってもらいます。

情報資源管理特殊講義演習Ⅳ（秋学期）

抄読会

教授 倉田 敬子

授業科目の内容：

履修者各自が関心を持つテーマに関する最近の研究論文を選び、レジメを作成し紹介してもらいます。学術論文の読み方、まとめ方を身につけてもらうことを目標とします。最初は日本語の学術論文から始め、次に英語論文で行ってもらいます。

博士課程設置科目

哲学・倫理学専攻

哲学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 飯田 隆

授業科目の内容：

修士課程の哲学原典研究Ⅰと共通。内容は修士課程の項参照。

哲学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 飯田 隆

授業科目の内容：

修士課程の哲学原典研究Ⅱと共通。内容は修士課程の項参照。

哲学特殊研究Ⅲ（春学期）

休講

哲学特殊研究Ⅳ（秋学期）

休講

哲学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

教授 中川 純 男

授業科目の内容：

修士課程の哲学原典研究Ⅲと共通。講義内容は修士課程の項参照。

哲学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

確率・統計的知識

教授 西脇 与 作

授業科目の内容：

確率・統計的知識は20世紀の知識の大きな特徴と言われるが、それがどのような特徴をもつかを多面的に考えてみる。

哲学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

確率・統計的知識

教授 西脇 与 作

授業科目の内容：

確率・統計的知識は20世紀の知識の大きな特徴と言われるが、それがどのような特徴をもつかを多面的に考えてみる。

哲学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

教授 中川 純 男

授業科目の内容：

修士課程の哲学原典研究Ⅳと共通。講義内容は修士課程の項参照。

哲学特殊研究演習Ⅲ（春学期）

教授 岡田 光 弘

授業科目の内容：

論理学を専門とする学生に対して論理学関係の研究論文の作成の指導を演習形式で行う。

哲学特殊研究演習Ⅳ（秋学期）

教授 岡田 光 弘

授業科目の内容：

論理学を専門とする学生に対して論理学関係の研究論文の作成の指導を演習形式で行う。

倫理学特殊研究Ⅰ（春学期）

批判哲学の形而上学的基底

教授 小松 光 彦

授業科目の内容：

カントの『純粋理性批判』（A版1781年、B版1787年）原理論第2部門第1部「超越論的分析論」のテキストの精読に加えて、ハイデガーによる存在論的解釈を検討することによって、カントにおける主観性の存在論的構制について考察する。

倫理学特殊研究Ⅱ（秋学期）

批判哲学の形而上学的基底

教授 小松 光 彦

授業科目の内容：

春学期と同じ

倫理学特殊研究Ⅲ（秋学期）

教授 谷 寿 美

授業科目の内容：

原典の講読を中心として、19世紀末から20世紀初頭にかけてのロシア宗教思想の核心に迫る。扱う思想家はP.フロレンスキー、S.ブルガーコフら。

倫理学特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 谷 寿 美

授業科目の内容：

倫理学特殊研究Ⅲと共通

倫理学特殊研究演習 I A (春学期)

休 講

倫理学特殊研究演習 II A (秋学期)

休 講

倫理学特殊研究演習 I B (春学期)

カント倫理学研究

教 授 樽 井 正 義

授業科目の内容：

生命倫理学における自己決定権、プライバシー権、健康権といった基礎的な権利概念とそれに対応する義務概念を検討します。テキストには、履修者が希望するテーマに関する生命倫理学および社会哲学の関連論文と、履修者が作成する論文を用います。

倫理学特殊研究演習 II B (秋学期)

カント倫理学研究

教 授 樽 井 正 義

授業科目の内容：

生命倫理学における自己決定権、プライバシー権、健康権といった基礎的な権利概念とそれに対応する義務概念を検討します。テキストには、履修者が希望するテーマに関する生命倫理学および社会哲学の関連論文と、履修者が作成する論文を用います。

美学美術史学専攻

美学特殊研究 I (春学期)

現代美学研究

講 師 佐々木 健 一

授業科目の内容：

2つの課題によって授業を構成する。

1 つは学生諸君のレポートで、最近の欧米の美学論文(広義)を読んで、その内容を報告してもらう。1人最低 1 回(年間)はこの報告をしなければならない。

もう 1 つはフランス語のテキストを講読する。テキストは学生諸君と相談して決める。

美学特殊研究 II (秋学期)

現代美学研究

講 師 佐々木 健 一

授業科目の内容：

美学特殊研究 I と同じ

美学特殊研究演習 I (春学期)

エルンスト・ブロッホと表現主義美術

教 授 前 田 富 士 男

授業科目の内容：

近現代美術の問題点を、エルンスト・ブロッホの論考を基盤に討議する。

美学特殊研究演習 II (秋学期)

エルンスト・ブロッホと表現主義美術

教 授 前 田 富 士 男

授業科目の内容：

エルンスト・ブロッホの論考を基盤に、ドイツ表現主義美術の諸問題を検討する。

美術史特殊研究 I (春学期)

日本の造形法

名誉教授 紺 野 敏 文

授業科目の内容：

履修者に応じた彫刻・絵画・工芸の領域で、相互に関連する研究方法の有効性を問いながら、個別作品及び関係資料の徹底した検討を行ない、後に総括する。

美術史特殊研究 II (秋学期)

中国・韓国の造形法

名誉教授 紺 野 敏 文

美術史特殊研究 I と同じ。

美術史特殊研究演習 I (春学期)

日本中世・近世絵画史研究

教 授 河 合 正 朝

授業科目の内容：

中世および近世初期と呼ばれる時期の日本絵画史に関する諸問題を中心に、その方法論、鑑識・真贋等について検討する。この領域に関する先行諸研究の点検を行い、その研究的位置付や研究上の意義等について履修者との討議を通して多角的に検討考察を加える。履修者の個別研究に対する指導の充実を図る。

美術史特殊研究演習 II (秋学期)

日本・東洋絵画史研究

教 授 河 合 正 朝

授業科目の内容：

受講者の現在進行中の研究に関する口頭による研究

発表を中心に、その論文化に向けての指導を行う。あわせて先行研究の点検を行い、日本における美術史研究の現状の問題点を探る。

美術史特殊研究演習Ⅲ（春学期）

休 講

美術史特殊研究演習Ⅳ（秋学期）

休 講

美術史特殊研究演習Ⅴ（春学期）

コロキウム

教 授 前 田 富 士 男
教 授 河 合 正 朝
教 授 美 山 良 夫
教 授 三 宅 幸 夫

授業科目の内容：

博士課程は、各自の専門的研究を深めるとともに、ひろく近似した研究主題や隣接する学問領域の方法論などにふれ、互いに切磋琢磨して、自分自身の観点、問題提起、対象分析、作品解釈、論証、表現方法などをたえず改善し、磨きあげるコースにほかならない。この授業は、本専攻が美学・日本東洋美術史・西洋美術史・音楽史から構成される特性をふまえ、博士課程院生と教員の全員が参加し、各回、院生の口頭研究発表をもとに討議をおこなう（ときに教員、招聘講師の発表もある）。

美術史特殊研究演習Ⅵ（秋学期）

コロキウム

教 授 前 田 富 士 男
教 授 河 合 正 朝
教 授 美 山 良 夫
教 授 三 宅 幸 夫

授業科目の内容：

博士課程は、各自の専門的研究を深めるとともに、ひろく近似した研究主題や隣接する学問領域の方法論などにふれ、互いに切磋琢磨して、自分自身の観点、問題提起、対象分析、作品解釈、論証、表現方法などをたえず改善し、磨きあげるコースにほかならない。この授業は、本専攻が美学・日本東洋美術史・西洋美術史・音楽史から構成される特性をふまえ、博士課程院生と教員の全員が参加し、各回、院生の口頭研究発表をもとに討議をおこなう（ときに教員、招聘講師の発表もある）。

音楽学特殊研究Ⅰ（春学期）

音楽学の実践

教 授 三 宅 幸 夫

授業科目の内容：

「音楽学特殊研究」は博士論文を書くための研究会です。受講生の選択した研究題目にしたがって、口頭発表、質疑応答、そして意見交換をおこないます。

音楽学特殊研究Ⅱ（秋学期）

音楽学の実践

教 授 三 宅 幸 夫

授業科目の内容：

「音楽学特殊研究」は博士論文を書くための研究会です。受講生の選択した研究題目にしたがって、口頭発表、質疑応答、そして意見交換をおこないます。

音楽学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

音楽学の口頭発表と論文執筆

教 授 三 宅 幸 夫

授業科目の内容：

「音楽学特殊研究演習」は博士論文を書くための研究会です。受講生の選択した研究題目にしたがって、具体的に学会における口頭発表、および学会誌への投稿についてサポートします。

音楽学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

音楽学の口頭発表と論文執筆

教 授 三 宅 幸 夫

授業科目の内容：

「音楽学特殊研究演習」は博士論文を書くための研究会です。受講生の選択した研究題目にしたがって、具体的に学会における口頭発表、および学会誌への投稿についてサポートします。

史学専攻

日本史特殊研究ⅠA（春学期）

教 授 三 宅 和 朗

授業科目の内容：

日本古代史の諸問題に関して、史料や論文を通して具体的に検討していきたい。

日本史特殊研究ⅡA（秋学期）

教授 三宅和朗

授業科目の内容：

日本史特殊研究ⅠAと同じ。

日本史特殊研究ⅢA（春学期）

教授 坂井達朗

授業科目の内容：

受講者による研究進行状況の報告。

日本史特殊研究ⅣA（秋学期）

教授 坂井達朗

授業科目の内容：

受講者による研究進行状況の報告。

日本史特殊研究ⅢB（春学期）

教授 田代和生

授業科目の内容：

博士論文作成のための指導を行う。受講者個々の研究発表を中心に、近世史研究についての諸問題を討論する。史料収集・調査の方法や分析、整理法、さらに専門誌への発表を前提とする論文指導も行う。

日本史特殊研究ⅣB（秋学期）

教授 田代和生

授業科目の内容：

日本史特殊研究ⅢB

日本史特殊研究演習ⅠA（春学期）

教授 長谷山 彰

授業科目の内容：

『令集解』をテキストとして、諸本の対校と内容の読解を行う。

日本史特殊研究演習ⅡA（秋学期）

教授 長谷山 彰

授業科目の内容：

日本史特殊研究演習ⅠAと同じ。

日本史特殊研究演習ⅠB（春学期）

休講

日本史特殊研究演習ⅡB（秋学期）

休講

日本史特殊研究演習ⅢA（春学期）

ナショナリズムの生成

教授 柳田利夫

授業科目の内容：

近代日本のナショナリズムの立ちあがりについて、具体的な事例を共同研究によって分析する。

日本史特殊研究演習ⅣA（秋学期）

ナショナリズムの生成

教授 柳田利夫

授業科目の内容：

日本史特殊研究演習ⅢAと同じ

東洋史特殊研究Ⅰ（春学期）

中国近代政治社会史研究

教授 山本英史

授業科目の内容：

"Late Imperial China"を扱った英文の研究書を講読し、そこで扱われている諸問題について考察する。同時に研究論文執筆に関する指導を行う。

東洋史特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 山本英史

授業科目の内容：

東洋史特殊研究Ⅰと同じ

東洋史特殊研究演習Ⅰ（春学期）

オスマン語史料講読

教授 坂本 勉

授業科目の内容：

オスマン語の読解能力をつけることを目的としているが、アラビア文字について知識がない人でも参加できるように配慮しながら授業を進めたい。

東洋史特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

オスマン語史料講読

教授 坂本 勉

授業科目の内容：

春学期の「東洋史特殊研究演習Ⅰ」を引き継いで近代史にかかわるオスマン語史料を講読する。

西洋史特殊研究演習ⅠA（春学期）

教授 神田 順 司

授業科目の内容：

ドイツ初期労働運動に関する基本的研究文献を講読

する。

西洋史特殊研究演習ⅡA（秋学期）

教授 神田 順 司

授業科目の内容：

ドイツ初期労働運動に関する基本的研究文献を講読する。

西洋史特殊研究演習ⅠB（春学期）

初期アメリカ史・リーディング・セミナー

教授 大森 雄太郎

授業科目の内容：

初期アメリカ史をフィールドとする大学院上級のリーディング・セミナーです。一時史料を読むか、二次文献を読むか、あるいはいずれの場合でもどのような文献を読むかについては、参加メンバーと相談の上で決めます。いずれにせよ文献は英語（むしろアメリカ語）で書かれたものを使用します。一週間のリーディングの要求量は、二次文献であれば 100 頁程度です。

西洋史特殊研究演習ⅡB（秋学期）

初期アメリカ史・リーディング・セミナー

教授 大森 雄太郎

授業科目の内容：

初期アメリカ史をフィールドとする大学院上級のリーディング・セミナーです。一時史料を読むか、二次文献を読むか、あるいはいずれの場合でもどのような文献を読むかについては、参加メンバーと相談の上で決めます。いずれにせよ文献は英語（むしろアメリカ語）で書かれたものを使用します。一週間のリーディングの要求量は、二次文献であれば 100 頁程度です。

西洋史特殊研究演習Ⅲ（春学期）

エリザベス治世期の中央と地方

教授 清水 祐 司

授業科目の内容：

- (1) 昨年にひきつづき、エリザベス治世期の治安判事に関する史料を読みながら、当時の中央と地方の関係について考える。
- (2) 個別指導による論文執筆指導。

西洋史特殊研究演習Ⅳ（秋学期）

エリザベス治世期の中央と地方

教授 清水 祐 司

授業科目の内容：

- (1) 昨年にひきつづき、エリザベス治世期の治安判事に関する史料を読みながら、当時の中央と地方の関係について考える。
- (2) 個別指導による論文執筆指導。

民族学考古学特殊研究Ⅰ（春学期）

Topics and Issues in Archaeology

教授 鈴木 公 雄

授業科目の内容：

授業担当者も含めて、この授業出席者全員のアップデートな研究関心、問題意識を発表形式で陳開し、相互討論を行う。また、最近の研究成果について紹介し、それについての検討を行うことも予定している。

民族学考古学特殊研究Ⅱ（秋学期）

Topics and Issues in Archaeology

教授 鈴木 公 雄

授業科目の内容：

春学期と同様の趣旨にもとづいて研究発表を行う。とくにこれから刊行を予定している論文などを中心的にとりあげ、その紹介と批判的討論を中心とする。また必要に応じては他大学からの来訪者の特別講義も可能な場合は計画する。

民族学考古学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

教授 阿部 祥 人

授業科目の内容：

先史時代、石器文化に関する研究者を志す人のための研究・論文指導や主に旧石器文化の共同研究を行う。

民族学考古学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

教授 阿部 祥 人

授業科目の内容：

先史時代、石器文化に関する研究者を志す人のための研究・論文指導や主に旧石器文化の共同研究を行う。

国文学専攻

国文学特殊研究Ⅰ（春学期）

万葉集研究

教授 藤原茂樹

授業科目の内容：

巻十二の歌について研究を深める。

国文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

万葉集研究

教授 藤原茂樹

授業科目の内容：

万葉集巻十二の歌について研究を深める。

国文学特殊研究Ⅲ（春学期）

教授 川村晃生

授業科目の内容：

国文学研究ⅩⅨに同じ。

国文学特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 川村晃生

授業科目の内容：

国文学研究ⅩⅩに同じ。

国文学特殊研究Ⅴ（春学期）

教授 岩松研吉郎

授業科目の内容：

院政期の寺社巡礼記、寺社縁起とその関連資料をよみながら、中世文芸の基盤を検討してゆく。研究史・研究方法に留意しつつ、履修者の研究主題ともかかわらせながら進める。

国文学特殊研究Ⅵ（秋学期）

教授 岩松研吉郎

授業科目の内容：

院政期の寺社巡礼記、寺社縁起とその関連資料をよみながら、中世文芸の基盤を検討してゆく。研究史・研究方法に留意しつつ、履修者の研究主題ともかかわらせながら進める。

国文学特殊研究Ⅶ（春学期）

教授 関場 武

授業科目の内容：

為永春水作の「意見早引大善節用」を取り上げ、講

読ならびに演習を行なう。その際、書誌学的研究の基礎知識の体得や、各種参考文献の活用の仕方も併せて学ぶ。

国文学特殊研究Ⅷ（秋学期）

教授 関場 武

授業科目の内容：

国文学特殊研究Ⅶを享けて、為永春水の「意見早引大善節用」の講読ならびに演習を行い、次で草双紙を2、3点取り上げ講読する。その際、各種参考文献の活用法も併せ研究する。

国文学特殊研究Ⅸ（春学期）

教授 松村友視

授業科目の内容：

年間の共通テーマにもとづく論文発表の形式で進める。テーマおよび具体的手順については履修者との合議によって決定する。

国文学特殊研究Ⅹ（秋学期）

教授 松村友視

授業科目の内容：

年間の共通テーマにもとづく論文発表の形式で進める。テーマおよび具体的手順については履修者との合議によって決定する。

国語学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 関場 武

授業科目の内容：

仮名草子の中から数点を取り上げ講読・演習を行う。その際、書誌学的・国語史的研究方法の修得も併せ目ざす。本年度は清少納言の「枕草子」の影響作を主に取り上げる。

国語学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 関場 武

授業科目の内容：

春学期の「国語学研究Ⅰ」に引き続き、仮名草子・戯作の中から清少納言の「枕草子」の影響作を取り上げ、講読・演習を行う。とくに解説・現代語訳の仕方について修得を目ざす。

中日比較文学特殊研究Ⅰ（春学期）

講師 胡 志 昂

授業科目の内容：

中国文学専攻参照。

中日比較文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

講師 胡 志 昂

授業科目の内容：

中国文学専攻参照。

中国文学専攻

中国文学特殊研究Ⅰ（春学期）

30年代中国の文学論争とメディア

教授 関 根 謙

授業科目の内容：

- ① 30年代の中国の文学論争，特に「二つのスローガンに関する論争」を中心に考察する。
- ②この論争に関連する「文学革命論争」なども視野に入れ，40年代初期の「延安文芸講話」に到る政治と文学の関係を概観する。
- ③胡風の文献，および新聞・雑誌資料を詳細に読む。特に当時の「生の原稿」に注目する。

中国文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

30年代中国の文学論争とメディア

教授 関 根 謙

授業科目の内容：

- ① 30年代の中国の文学論争，特に「二つのスローガンに関する論争」を中心に考察する。
- ②この論争に関連する「文学革命論争」なども視野に入れ，40年代初期の「延安文芸講話」に到る政治と文学の関係を概観する。
- ③胡風の文献，および新聞・雑誌資料を詳細に読む。特に当時の「生の原稿」に注目する。

中国文学特殊研究Ⅲ（春学期）

教授 渋 谷 誉 一 郎

授業科目の内容：

修士課程の中国文学研究Ⅴと同じ。

中国文学特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 渋 谷 誉 一 郎

授業科目の内容：

修士課程の中国文学研究Ⅳと同じ。

中国文学特殊研究Ⅴ（春学期）

中国中世文学批評史研究

講師 門 脇 廣 文

授業科目の内容：

今年度（2004年度）は，唐の釈皎然の『詩式』（原本五巻。今本一卷）を読みます。『詩式』は，両漢及び唐詩人の名篇麗句を摘録し，五格・十九体に分けたもので，唐代の詩論の代表的著作です。五巻本の第一巻は，詩歌言論について総論的に論じ，また「五格」のうちの第一格について述べています。「五格」とは，詩の五つの格調を言い，同時にそのランクを表わしています。第二巻以降は，「五格」の内の第二格から第五格について論じています。「五格」は，詩を評価するには典故を用いないものを第一としています。「十九体」は詩の風格を論じたもので，「貞」「忠」「節」「志」「徳」「誠」「悲」「怨」「意」などの表現内容にかかわるものと，「高」「逸」「気」「情」「思」「閑」「達」「力」「静」「遠」などの芸術的な特徴についてのものとに分けられます。皎然は，「十九体」の中では「高」と「逸」とを高く評価しており，「冲淡」や「自然」なる風格を貴んでいます。

中国文学特殊研究Ⅵ（秋学期）

中国中世文学批評史研究

講師 門 脇 廣 文

授業科目の内容：

中国文学特殊研究Ⅴと同じ。

中国文学特殊研究Ⅶ（春学期）

中国中世文学批評史研究

教授 岡 晴 夫

授業科目の内容：

李漁の作品（戯曲・小説・随筆・尺牘等）の中から適宜選んで講読する。何を取りあげるかについては，受講生と相談のうえ決める。

中国文学特殊研究Ⅷ（秋学期）

中国中世文学批評史研究

教授 岡 晴 夫

授業科目の内容：

李漁の作品（戯曲・小説・随筆・尺牘等）の中から適宜選んで講読する。何を取りあげるかについては，受講生と相談のうえ決める。

中国語学特殊研究 I (春学期)

教授 山下輝彦

授業科目の内容:

中国語研究で重要と思われる文献を読み、それについてディスカッションをする。中国語で研究発表をする力を身につけるために議論はすべて中国語で行う。

中国語学特殊研究 II (秋学期)

教授 山下輝彦

授業科目の内容:

中国語研究で重要と思われる文献を読み、それについてディスカッションをする。中国語で研究発表をする力を身につけるために議論はすべて中国語で行う。

中日比較文学特殊研究 I (春学期)

講師 胡志昂

授業科目の内容:

「格調荘嚴，氣象宏麗，最為可法」(胡応麟・詩藪)といわれる李嶠の五言律詩の中でもその詠物詩『百二十詠』(『李嶠雜詠』または『百詠』ともいう)が「大手筆」と称せられる。この類書の性格を兼ね備える詠物詩集は、いわゆる「文章四友」時代の詩論『唐朝新定詩格』(崔融著)等に提案された新しい律詩の作法を反映する書物でもあった。両書とも早くから日本に伝わり、王朝の歌論と新しい歌風の展開に刺激を与えたと見られる。この時間では『百二十詠』を『唐朝新定詩格』と併せて精読し議論を加えると共に、それと関連する平安時代の歌論と歌風の展開にも留意し、双方の共通点と相違点を検討していく。

中日比較文学特殊研究 II (秋学期)

講師 胡志昂

授業科目の内容:

中日比較文学研究 I に同じ。

英米文学専攻

中世英文学特殊研究 I (春学期)

教授 松田隆美

授業科目の内容:

中世研究の様々な方法論を示唆してくれる最近の文献を選んで、批判的に検討する。

中世英文学特殊研究 II (秋学期)

教授 松田隆美

授業科目の内容:

春学期の「中世英文学特殊研究 I」の続き。

中世英文学特殊研究演習 I (春学期)

教授 高宮利行

授業科目の内容:

中世後期からルネサンスにかけてのイギリスの書物史の諸相を扱う演習。前年度からの続き。

中世英文学特殊研究演習 II (秋学期)

教授 高宮利行

授業科目の内容:

中世英文学特殊研究演習 I に同じ

近代英文学特殊研究 I (春学期)

教授 高宮利行

教授 松田隆美

助教授 河内恵子

授業科目の内容:

学会における英語の研究発表に資するような discipline を身につけさせる演習。

近代英文学特殊研究 II (秋学期)

教授 高宮利行

教授 松田隆美

助教授 河内恵子

授業科目の内容:

近代英文学特殊研究 I に同じ

近代英文学特殊研究演習 I (春学期)

Sir Gawain and the Green Knight 講読

教授 高宮利行

授業科目の内容:

Tolkien も *The Lord of the Rings* の執筆に影響を受けたアーサー王ロマンスの傑作を 4 年かけて講読します。

近代英文学特殊研究演習 II (秋学期)

Sir Gawain and the Green Knight 講読

教授 高宮利行

授業科目の内容:

近代英文学特殊研究演習 I に同じ

現代英文学特殊研究Ⅰ（春学期）

19世紀後半から20世紀前半のイギリス小説

助教授 河内 恵子

授業科目の内容：

ヴィクトリア朝後期から第二次世界大戦前後までのイギリス小説の動きについて考察する。

現代英文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

19世紀後半から20世紀前半のイギリス小説

助教授 河内 恵子

授業科目の内容：

現代英文学特殊研究Ⅰを参照

現代英文学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

教授 高宮 利行

教授 松田 隆美

助教授 河内 恵子

授業科目の内容：

学会発表に関する情報検索の discipline を身につけさせる演習。

現代英文学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

教授 高宮 利行

教授 松田 隆美

助教授 河内 恵子

授業科目の内容：

現代英文学特殊研究演習Ⅰに同じ

米文学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 巽 孝之

授業科目の内容：

博士号請求論文執筆中の者を中心に、論文作成法を徹底指導する。その結果出来上がる論文は、あらゆる意味で模範的でなくてはならない。仮に模範を根底から転覆する方法論を採るものであっても、それは例外ではない。博士1年には年間50冊程度の代表的批評書・研究書を課し、年間2本の英文レポート(2,000～2,500語程度)提出を要求する。博士2年には全国規模の学会での発表に向けた計画を立てさせる。最終的には、博士3年の段階にて、レフェリー制度を持つ内外の代表的学術誌の審査をゆうに通過する高水準の論文が輩出することを望む。学位論文をいかに一冊の研究書にまとめあげ出版するか、その際の具体的な編集技術についても、根本的に再検討する。

米文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 巽 孝之

授業科目の内容：

博士号請求論文執筆中の者を中心に、論文作成法を徹底指導する。その結果出来上がる論文は、あらゆる意味で模範的でなくてはならない。仮に模範を根底から転覆する方法論を採るものであっても、それは例外ではない。博士1年には年間50冊程度の代表的批評書・研究書を課し、年間2本の英文レポート(2,000～2,500語程度)提出を要求する。博士2年には全国規模の学会での発表に向けた計画を立てさせる。最終的には、博士3年の段階にて、レフェリー制度を持つ内外の代表的学術誌の審査をゆうに通過する高水準の論文が輩出することを望む。学位論文をいかに一冊の研究書にまとめあげ出版するか、その際の具体的な編集技術についても、根本的に再検討する。

米文学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

教授 巽 孝之

授業科目の内容：

文学研究と文化研究の交差する地点を扱った古典的著作に親しむ。テキストは追って指示する。

米文学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

教授 巽 孝之

授業科目の内容：

文学研究と文化研究の交差する地点を扱った古典的著作に親しむ。テキストは追って指示する。

英語学特殊研究Ⅰ（春学期）

言語人類学

教授 唐 須 教 光

授業科目の内容：

最初の授業時に述べます。

英語学特殊研究Ⅱ（秋学期）

言語人類学研究

教授 唐 須 教 光

授業科目の内容：

最初の授業に述べます。

英語学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

Beowulf

教授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容：

This course will combine close reading of part of *Beowulf* with a study of the poem as whole, paying particular attention to metre, paleography and Germanic legend.

英語学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

Beowulf

教授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容：

This course will combine close reading of part of *Beowulf* with a study of the poem as whole, paying particular attention to metre, paleography and Germanic legend.

独文学専攻

ドイツ文学特殊研究Ⅰ（春学期）

ノヴァーリスと十八世紀の「自然」研究

教授 柴田陽弘

授業科目の内容：

十八世紀研究

- 1 社会と文化
- 2 哲学
- 3 自然科学
- 4 認識の問題
- 5 「自然」とはなにか

ノヴァーリスの「ザイスの弟子たち」を手がかりにして、以上の諸点を考察する。それと平行して学術論文執筆の実践的訓練をおこなう。

ドイツ文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

ノヴァーリスと十八世紀の「自然」研究

教授 柴田陽弘

授業科目の内容：

十八世紀研究

- 1 社会と文化
- 2 哲学
- 3 自然科学
- 4 認識の問題
- 5 「自然」とはなにか

ノヴァーリスの「ザイスの弟子たち」を手がかりにして、以上の諸点を考察する。それと平行して学術論文執筆の実践的訓練をおこなう。

ドイツ文学特殊研究Ⅲ（春学期）

教授 和泉雅人

授業科目の内容：

本年は Ludwig Tieck の処女長編小説 *William Lovell* を講読します。奇妙な緊張を孕んだこの小説は、有名でありながら、日本では読まれることの少ない作品です。いわゆる前期ティークの基調である戦慄と恐怖とイロニーが織り交ぜられた典型的なドイツ・ロマン派ふうの小説ですが、イギリスの模範に従った書簡体小説形式におけるポリフォニー的文体の妙もティークの手腕の見せ所でした。この小説はライマー版で 700 頁をはるかに超えるため、一年間での講読はかなり困難ですが、その点は受講者と相談の上でいろいろと工夫をしていきたいと思っています。ガイダンスには必ず出席して、授業に関する注意事項について知悉しておいてください。

ドイツ文学特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 和泉雅人

授業科目の内容：

本年は Ludwig Tieck の処女長編小説 *William Lovell* を講読します。奇妙な緊張を孕んだこの小説は、有名でありながら、日本では読まれることの少ない作品です。いわゆる前期ティークの基調である戦慄と恐怖とイロニーが織り交ぜられた典型的なドイツ・ロマン派ふうの小説ですが、イギリスの模範に従った書簡体小説形式におけるポリフォニー的文体の妙もティークの手腕の見せ所でした。この小説はライマー版で 700 頁をはるかに超えるため、一年間での講読はかなり困難ですが、その点は受講者と相談の上でいろいろと工夫をしていきたいと思っています。ガイダンスには必ず出席して、授業に関する注意事項について知悉しておいてください。

ドイツ文学特殊研究Ⅴ（春学期）

Elias Canetti: "Masse und Macht" (1960) *Moderne Mythentheorie oder poetische Anthropologie?*

教授 フルンケス, ヨーゼフ

授業科目の内容：

Der multikulturelle Außenseiter Elias Canetti (1905-1994) hat 1981 für sein vielseitiges Werk, das neben Roman und Drama, Autobiographie und Essay, Aphorismus und Aufzeichnungen auch eine philosophische Abhandlung umfaßt, den Nobelpreis für Literatur erhalten. Die Abhandlung "Masse und

Macht", das erklärte Hauptwerk Canettis, ist dagegen auf viel Unverständnis gestoßen. Schon Canettis literarischer Denk- und Schreibstil löste oft genug bei Sozial- und Kulturwissenschaftlern Befremden aus: Er überspringt die gewohnten Grenzen der Humanwissenschaften und verknüpft psychologische, soziologische, ethnologische, philosophische, theologische, mythologische, poetologische, anthropologische Motive und Begriffe mit ganz persönlich scheinenden Beobachtungen und Überlegungen zu einem bunten Argumentationsteppich. Zudem spart Canetti die explizite Auseinandersetzung mit den Theoretikern aus, die ihm doch vorangingen: Nicht Nietzsche, Freud, Le Bon oder Ortega y Gasset werden verhandelt, sondern Sammlungen von mythologischen und anthropologischen Quellen und Kommentaren. "Masse und Macht" bietet dem Inhalt nach eine morphologische Phänomenologie, nicht des Geistes, sondern der Macht, die von der archaischen Meute über unterschiedliche Menschengemeinschaften bis zur zeitgeschichtlichen Konjunktion von faschistischer Herrschaft und Paranoia in der Massengesellschaft reicht. Moderne Mythentheorie oder poetische Anthropologie? Zu fragen bleibt darüber hinaus, ob und in welchem Maße Canettis Abhandlung einen womöglich originellen Beitrag zu heutiger Kulturwissenschaft leisten kann.

ドイツ文学特殊研究Ⅵ (秋学期)

Elias Canetti: "Masse und Macht" (1960) Moderne Mythentheorie oder poetische Anthropologie?

教授 フルンケース, ヨーゼフ

授業科目の内容:

Der multikulturelle Außenseiter Elias Canetti (1905-1994) hat 1981 für sein vielseitiges Werk, das neben Roman und Drama, Autobiographie und Essay, Aphorismus und Aufzeichnungen auch eine philosophische Abhandlung umfaßt, den Nobelpreis für Literatur erhalten. Die Abhandlung "Masse und Macht", das erklärte Hauptwerk Canettis, ist dagegen auf viel Unverständnis gestoßen. Schon Canettis literarischer Denk- und Schreibstil löste oft genug bei Sozial- und Kulturwissenschaftlern Befremden aus: Er überspringt die gewohnten Grenzen der Humanwissenschaften und verknüpft

psychologische, soziologische, ethnologische, philosophische, theologische, mythologische, poetologische, anthropologische Motive und Begriffe mit ganz persönlich scheinenden Beobachtungen und Überlegungen zu einem bunten Argumentationsteppich. Zudem spart Canetti die explizite Auseinandersetzung mit den Theoretikern aus, die ihm doch vorangingen: Nicht Nietzsche, Freud, Le Bon oder Ortega y Gasset werden verhandelt, sondern Sammlungen von mythologischen und anthropologischen Quellen und Kommentaren. "Masse und Macht" bietet dem Inhalt nach eine morphologische Phänomenologie, nicht des Geistes, sondern der Macht, die von der archaischen Meute über unterschiedliche Menschengemeinschaften bis zur zeitgeschichtlichen Konjunktion von faschistischer Herrschaft und Paranoia in der Massengesellschaft reicht. Moderne Mythentheorie oder poetische Anthropologie? Zu fragen bleibt darüber hinaus, ob und in welchem Maße Canettis Abhandlung einen womöglich originellen Beitrag zu heutiger Kulturwissenschaft leisten kann.

ドイツ文学特殊研究Ⅶ (春学期)

休講

ドイツ文学特殊研究Ⅷ (秋学期)

休講

ドイツ文学特殊演習Ⅰ (春学期)

Hartmann von Aue: Iwein を読む

講師 重藤 実

授業科目の内容:

ドイツ中世文学を代表する作者の 1 人 Hartmann von Aue の宮廷叙事詩 Iwein を読む。テキストを読み進めながら、この作品と同時代の他の作品との関係、原典との関係などを考察する。また中高ドイツ語の特徴などについても考えたい。

なお、受講学生の希望があれば、はじめに中高ドイツ語文法の解説をおこなう。

ドイツ文学特殊演習Ⅱ (秋学期)

Hartmann von Aue: Iwein を読む

講師 重藤 実

授業科目の内容:

ドイツ中世文学を代表する作者の 1 人 Hartmann

von Aue の宮廷叙事詩 Iwein を読む。テキストを読み進めながら、この作品と同時代の他の作品との関係、原典との関係などを考察する。また中高ドイツ語の特徴などについても考えたい。

ドイツ文学特殊演習Ⅲ（春学期）

ドイツ空想科学小説概論—理論研究

教授 識名章喜

授業科目の内容：

ドイツ語圏の空想科学小説と言われても、ピンとこない人は多いかもしれない。SF というジャンルが英米圏を中心に浸透した歴史的事情はさておき、ロマン派以降の幻想文学の伝統もあり、19 世紀末から 20 世紀前半にかけて科学技術立国をはかったドイツにおいて、この手の文学的幻想が注目されなかったのは腑におちない。本演習の春学期では、この疑問を手がかりに、ドイツ語圏 SF 研究の理論的・文学史的枠組について考え、いくつかの基本的な文献を拾い読みする予定。

ドイツ文学特殊演習Ⅳ（秋学期）

ドイツ空想科学小説を読む—講読演習

教授 識名章喜

授業科目の内容：

春学期の理論的・文学史的考察を前提に、秋学期では具体的にテキストを読み、参加者各自にコメントを求める。ちなみに、SF 小説の読解にあたっては、一般の文学テキストを読むときよりも、高度の文脈判断が問われる場合もあることに留意してほしい。現実との関連が少ない架空の社会が前提とされる以上、個々の概念に全体の文脈から新たな意味が付加される可能性もあるからである。演習では短篇しか扱えないため、夏期休暇を利用して文献案内で紹介した長篇作品も読んでおくことを強く勧める。

ドイツ文学特殊演習Ⅴ（春学期）

ヴァルター・ベンヤミンの複製技術論

助教授 大宮 勲一郎

授業科目の内容：

Walter Benjamin: Das Kunstwerk im Zeitalter Seiner technischen Reproduzierbarkeit (1 ~ 3 Fassungen) を読む。

ドイツ文学特殊演習Ⅵ（秋学期）

ヴァルター・ベンヤミンの物語論

助教授 大宮 勲一郎

授業科目の内容：

Walter Benjamin: Der Erzähler 講読。

ドイツ語学特殊研究Ⅰ（春学期）

ドイツ語の時制記述

講師 重藤 実

授業科目の内容：

ドイツ語の時制についての論文を読む。多様な現代ドイツ語の時制表現の構造と意味をどのように記述できるか、考えていきたい。語学研究としてのみではなく、文学研究にも役立つ時制記述についても考えていきたい。

ドイツ語学特殊研究Ⅱ（秋学期）

ドイツ語の時制記述

講師 重藤 実

授業科目の内容：

ドイツ語の時制についての論文を読む。多様な現代ドイツ語の時制表現の構造と意味をどのように記述できるか、考えていきたい。語学研究としてのみではなく、文学研究にも役立つ時制記述についても考えていきたい。

仏文学専攻

中世仏文学特殊研究Ⅰ（春学期）

言語研究

教授 川口 順二

授業科目の内容：

文献解説、学会発表準備、博士論文準備。

中世仏文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 川口 順二

授業科目の内容：

文献解説、学会発表準備、博士論文準備。

近代仏文学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 小倉 孝誠

授業科目の内容：

取りあげるテーマと作家は、受講生と相談のうえ決定します。

近代仏文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 小倉 孝 誠

授業科目の内容：

取りあげるテーマと作家は、受講生と相談のうえ決定します。

近代仏文学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

教授 鷲見 洋 一

授業科目の内容：

受講生と相談して決めたい。

近代仏文学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

教授 鷲見 洋 一

授業科目の内容：

春学期同様、受講生と相談して決めたい。

現代仏文学特殊研究Ⅰ（春学期）

フランス現代小説研究

教授 宮 林 寛

授業科目の内容：

1945年以降の小説をとりあげる予定ですが、授業の進め方については履修者と相談のうえ決定したいと思います。

現代仏文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

フランス現代小説研究

教授 宮 林 寛

授業科目の内容：

春学期と同じ。

現代仏文学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

マラルメの前期散文詩

教授 立 仙 順 朗

授業科目の内容：

マラルメの散文詩を年代順に講読し、この詩人における言葉の芸術がいかなるものであったかを考察。またこれらの詩篇と演劇との関連についても論ずる。

現代仏文学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

マラルメの後期散文詩

教授 立 仙 順 朗

授業科目の内容：

マラルメの散文詩を年代順に講読し、この詩人における言葉の芸術がいかなるものであったかを考察。またこれらの詩篇と演劇との関連についても論ずる。

仏語学特殊研究Ⅰ（春学期）

ENTRAINEMENT A LA DISSERTATION

訪問講師 シモン=及川, マリアンヌ

授業科目の内容：

Le cours proposera une formation aux techniques de la dissertation. Les débutants y trouveront une initiation à la composition et à la rédaction en français, et les plus avancés un approfondissement des méthodes qu'ils connaissent déjà. Ce cours est particulièrement recommandé aux étudiants qui envisagent de passer le concours des bourses du gouvernement français et / ou de suivre des études dans une université française.

仏語学特殊研究Ⅱ（秋学期）

ENTRAINEMENT A LA DISSERTATION

訪問講師 シモン=及川, マリアンヌ

授業科目の内容：

Le cours proposera une formation aux techniques de la dissertation. Les débutants y trouveront une initiation à la composition et à la rédaction en français, et les plus avancés un approfondissement des méthodes qu'ils connaissent déjà. Ce cours est particulièrement recommandé aux étudiants qui envisagent de passer le concours des bourses du gouvernement français et / ou de suivre des études dans une université française.

図書館・情報学専攻

情報学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 倉 田 敬 子

授業科目の内容：

情報メディアを中心とする最近の研究動向の検討を行うと同時に、履修者の現在の研究テーマに関する発表を行ってもらい、討議します。

情報学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 倉 田 敬 子

授業科目の内容：

情報メディアを中心とする最近の研究動向の検討を行うと同時に、履修者の現在の研究テーマに関する発表を行ってもらい、討議します。

情報学特殊研究Ⅲ（春学期）

教授 細野 公男

授業科目の内容：

図書館・情報学に関する外国文献の抄読を行います。

情報学特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 細野 公男

授業科目の内容：

「情報学特殊研究Ⅲ」と同じです。

情報メディア特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 上田 修一

授業科目の内容：

情報メディアに関する研究指導を行います。

情報メディア特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 上田 修一

授業科目の内容：

情報メディアに関する研究指導を行います。

情報メディア特殊研究Ⅲ（春学期）

教授 田村 俊作

授業科目の内容：

図書館情報サービスに関連する諸問題の検討と、論文作成の指導を行う。

情報メディア特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 田村 俊作

授業科目の内容：

「情報メディア特殊研究Ⅲ」に引き続き、図書館情報サービスに関連する諸問題の検討と、論文作成の指導を行う。

情報検索特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 細野 公男

授業科目の内容：

情報検索およびデジタル図書館の実践に大きな影響を及ぼすと思われる理論、アプローチ、考え方を取り上げて討議します。

情報検索特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 細野 公男

授業科目の内容：

「情報検索特殊研究Ⅰ」と同じです。

情報検索特殊研究Ⅲ（春学期）

休講

情報検索特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 田村 俊作

授業科目の内容：

三田メディアセンターとの連携の下に、図書館の経営・サービスに関する特定の問題を、実際に即して研究する。

情報システム特殊研究Ⅰ（春学期）

図書館経営

教授 高山 正也

授業科目の内容：

21世紀において価値を増している各種の記録情報資源とその管理拠点である図書館や図書館類縁機関を対象に、実証的な観点からの政策論や管理運営論を中心に、検討を加え、研究指導を行います。秋学期の「情報システム特殊研究Ⅱ」に続きます。

情報システム特殊研究Ⅱ（秋学期）

図書館経営

教授 高山 正也

授業科目の内容：

春学期の「情報システム特殊研究Ⅰ」を承けて、その続きを行います。

情報システム特殊研究Ⅲ（春学期）

教授 糸賀 雅児

授業科目の内容：

博士論文の執筆に向けて、テーマの選択、研究の進め方、論文執筆の技術的な助言などを、逐次行っていきます。

情報システム特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 糸賀 雅児

授業科目の内容：

博士論文の執筆に向けて、テーマの選択、研究の進め方、論文執筆の技術的な助言などを、逐次行っていきます。

慶應義塾大学 夏季在外研修プログラム

慶應義塾大学 — ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

The Keio University College of William & Mary Cross-Cultural Collaboration

柏崎 千佳子 経済学部助教授

大串 尚代 文学部助手

授業科目の内容：

慶應義塾大学では、「慶應義塾大学 — ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座」を夏季休業期間に開講します。ウィリアム・アンド・メアリー大学（所在地：東海岸ヴァージニア州ウィリアムズバーグ）は、教育・研究で高い評価を得ている州立大学です。創立は1693年で、アメリカではハーバード大学について古い歴史を誇っています。

本講座は、毎年定められるテーマ（2004年度は“American Dreams: Lost and Found”）に沿った講義、グループワーク、フィールドワーク、インタビュー、プレゼンテーション等で構成されています。現地では、大学内での寮生活や、ボランティアワーク、住民との交流、講演会、ホームステイ等を通じ、さまざまな異文化交流が体験できるように工夫されています。短期間に質の高い充実した内容が盛り込まれていますので、アメリカでの生活体験をしたい方、語学力向上を期待する方、将来長期の留学を考えている方などにとって、ふさわしい講座といえるでしょう。現地研修には本学の教職員が同行します。また、ビデオ会議などを含めた事前・事後研修を、日吉キャンパスで実施します。

なお、この講座は、自然災害、戦争・テロ災害、航空機等交通機関にかかわる事故ならびに前期以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する可能性があることをあらかじめご了承ください。詳しくは、国際センター作成の募集要項やホームページ等を参照してください。

教科書：

特にありませんが、研修に参加するにあたり必要と思われる文献・資料は事前研修の際にお知らせします。

授業の計画：

現地研修期間：2004年7月30日（金）～8月19日（木）

4月下旬より事前研修（6回程度）、また、帰国後には事後研修（2回程度）を行います。

研修内容：ウィリアム・アンド・メアリー大学教員による講義および質疑応答、ダイアローグクラス、ウィリアム・アンド・メアリー大生をまじえてのグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション、ワシントン DC 近郊の家庭でのホームステイなど。

参加申し込みについて：

- (1) 募集人数：40名（提出書類により選考を行います。）
- (2) 募集対象：全学部・研究科正規生（ただし通信教育部をのぞく）
- (3) 提出書類：①参加申込書（所定用紙）、②学習計画書（日本語及び英語。各A4一枚程度）、③最新の学業成績表のコピー（3月中旬に保証人宛に送付されるもの）、④あれば英語能力証明書のコピー（TOEFL, TOEIC, 各種英語検定など）、⑤RESEARCH PROPOSAL（所定用紙）書類選考後、グループ分けの時に利用します。
- (4) 募集期間：4月7日（水）～4月15日（木）各地区国際センター（※窓口時間終了後の提出は一切受け付けません。）
- (5) 募集ガイダンス：4月5日（月）三田133番教室 13:00～14:30
4月5日（月）SFC Ω12教室 17:00～18:30
4月6日（火）矢上 14-201教室 13:00～14:30
4月6日（火）日吉 J11教室 17:00～18:30
- (6) 選考結果発表：4月28日（水）13:00（予定）

履修者へのコメント：

This program gives you a rare opportunity to stay at a prestigious American college and to work closely with its staff members. We welcome highly motivated students. (柏崎 千佳子 経済学部助教授)

成績評価方法：

事前・事後研修の出席、中間発表、現地研修期間中の活動、Final Presentation、日本帰国後のFinal Reportにより採点します。

質問・相談：

問い合わせ先：三田国際センター URL <http://www.ic.keio.ac.jp/j-index.html> 「塾生向け海外留学情報」のページをご覧ください。

前野 隆 司 理工学部助教授
池田 幸 弘 経済学部教授

授業科目の内容：

慶應義塾大学では、「慶應義塾大学—ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座」を夏季休業期間中、英国・ケンブリッジにおいて開講します。ケンブリッジ大学は、オックスフォード大学と並ぶ英国の名門校で、美しいキャンパスは勉学に最適な環境にあります。授業は英語による講義およびディスカッションを中心としており、講義は原則としてケンブリッジ大学の教員が担当します。講座期間中は、専門分野の知識を深めるだけでなく、ダウニングコレッジ内での寮生活や、ケンブリッジ大生が企画する様々なアクティビティを通して、現地の学生との交流も体験できます。このように本講座は、国際性豊かな学生を育成することを目的としています。現地研修には本学の教職員が同行します。また、現地への出発前に、事前研修を3回程度三田キャンパスで実施する予定です。

なお、この講座は、自然災害、戦争・テロ災害、航空機等交通機関にかかわる事故ならびに前期以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する可能性があることをあらかじめご了承ください。詳しくは国際センター作成の募集要項やホームページ等を参照してください。

教科書：

現地での開講科目の参考文献を、国際センター作成の募集要項に記載しています。また、事前研修時にリストにして配布します。

授業の計画：

現地研修期間：2004年8月9日（月）～9月8日（水）

5月～7月に三田キャンパスにて事前研修を3回程度行います。

講義日程：第1週：8月10日（火）～8月16日（月）

Placement Interviews, English & writing preparation classes

第2週：8月17日（火）～8月23日（月）

Acient Greece and Western Civilization および Genethics: ethical issues arising from developments in genetics

第3週：8月24日（火）～8月30日（月）

Society and Politics in Contemporary Britain および The Science of Chaos

第4週：8月31日（火）～9月6日（月）

English Literature および Astronomy: Unveiling the Universe

9月7日（火） Closing ceremony

第2週から第4週までは、各週2科目ずつ用意された授業の内1科目を選択、合計3科目を選択履修。

※ 各科目とも定員が30名のため、事前に参加者の希望をもとに履修調整を行います。

※ 開講科目は事情により変更されることがあります。

研修内容：ケンブリッジ大学の教員による講義及び質疑応答（午前）

ケンブリッジ大生 (TA: Teaching Assistant) を交えてのディスカッション（午後）。エッセイ作成・提出。

参加申し込みについて：

- (1) 募集人数：60名（提出書類により選考を行います。）
- (2) 募集対象：全学部・研究科正規生（ただし通信教育部をのぞく）
- (3) 提出書類：①参加申込書（所定用紙）、②学習計画書（日本語及び英語。各A4一枚程度）、③最新の学業成績表のコピー（3月中旬に保証人宛に送付されるもの）、④あれば英語能力証明書のコピー（TOEFL, TOEIC, 各種英語検定など）、⑤履修希望科目申告表（所定用紙）
- (4) 募集期間：4月7日（水）～4月15日（木） 各地区国際センター（※窓口時間終了後の提出は一切受け付けません。）
- (5) 募集ガイダンス： 4月5日（月）三田133番教室 13:00～14:30
4月5日（月）SFC Ω12教室 17:00～18:30
4月6日（火）矢上 14-201教室 13:00～14:30
4月6日（火）日吉 J11教室 17:00～18:30
- (6) 選考結果発表： 4月28日（水）13:00～14:30（予定）

履修者へのコメント：

私もかつて、カリフォルニア大、ハーバード大に留学したことがあります。国際経験は、世界観・人生観を1次元から2次元へ（線から面へ）広げることのできるすばらしい経験です。大いに学び、大いに楽しみましょう。（前野 隆司 理工学部助教授）

これからの若い人たちには、海外で職探しをするくらい気合を期待したいと思います。本プログラムは、イギリスの文化や制度を知るためにも、また日本を見直すための一助となるものと信じます。Good Luck!（池田 幸弘 経済学部教授）

成績評価方法：

現地でのエッセイの評価をもとに行います。

質問・相談：

問い合わせ先：三田国際センター URL <http://www.ic.keio.ac.jp/j-index.html> 「塾生向け海外留学情報」のページをご覧ください。

国際センター設置講座

国際研究講座ならびに日本研究講座受講希望者へ

国際センターでは、外国および日本の文化や社会、国際関係を理解するための英語による講座を開講しています。本年度国際研究講座で取り扱う国／地域は、米国、カナダ、オーストラリア、東南アジア、ラテンアメリカにおよび、EU関係の講座も開講します。一方日本研究講座では、経済、産業、文学、芸術、マスコミなど幅広い側面から日本を探求します。

なお、本講座の履修単位の取り扱いは各学部・研究科により異なりますので、履修申告の際には履修単位の取り扱いを必ず確認してください。

1. 対象

1) 外国研究講座

本塾大学学部生ならびに大学院生

2) 日本研究講座

本塾大学に在籍する外国人留学生を対象としていますが、日本人学生の受講も奨励しています。海外からの外国人留学生と共に英語で学ぶ授業としてユニークなものであり、学問を通しての国際交流の場として日本人学生の積極的な参加を歓迎します。

2. 手続方法

学事センターで所定の履修申告をしてください。国際センターに出向く必要はありません。 学部・大学院が設置主体の科目については、学部・大学院の登録番号を使用して登録手続きをしてください。

所属する学部・研究科で履修対象とならない科目については、三田、日吉の国際センターにある所定の用紙に必要事項を記入し、次の手続期間内に国際センターに直接申し込んでください。

国際センター受付期間：

春学期開講科目 4月15日(木)～21日(水) 10:00～16:00

秋学期開講科目 10月2日(土)～8日(金) 10:00～16:00

* いずれも日吉は10:00～11:30、12:30～16:00

* 土曜日は10:00～11:30、12:30～14:00

3. 受講料

無料です。

4. 掲示

休講などの連絡事項は、三田西校舎国際センター掲示板(日吉では第四校舎・藤山記念館の国際センター掲示板、学事センターの共通掲示板)に掲示されます。

異文化研究:文化、価値と自己理解	(2単位) (春 火3)
CULTURE AND THE UNCONSCIOUS: LOOKING FOR THE HIDDEN ROOTS OF CULTURAL DIFFERENCE	(2 Credits) (Spring Tue 3)
ショールズ, ジョセフ 国際センター講師(立教大学助教授)	
Joseph Shaules Lecturer International Center (Associate Professor, Rikkyo University)	

Course Description:

Culture has two sides, a visible side – food, clothing, architecture – and a hidden side of unconscious beliefs, values and assumptions. In this course we will learn the story of the discovery of hidden culture. We will explore culture's unconscious influence over us, and see how hidden cultural difference creates conflict in relationships and communication. This will involve learning hidden patterns of cultural difference related to things like: time, personal space, cooperation, independence, fairness, equality, emotion. Students will discuss their intercultural experiences, share their opinions and give presentations. The ultimate goal of this course is a deeper self-understanding.

Text Book:

Handouts to be supplied by the teacher.

Recommended Readings:

Different Realities – Adventures in intercultural communication, by Shaules & Abe, published by Nan'un-do.
Riding the Waves of Culture, by Trompenaars and Hampden-Turner, published by McGraw Hill

Class Schedule (Subject to change):

1. Class introduction
2. The discovery of hidden culture – Mead, Sapir & Whorf, Hall
3. A model of hidden culture – The onion model.
4. Student presentations
5. Cultural in human relations – independence and cooperation
6. Culture, emotion and self-expression – How we show feelings
7. Culture and status – Who is important and why?
8. Student presentations
9. Culture and gender – Gender separate vs. gender similar
10. Different modes of time – polychronic and monochronic
11. Student presentations
12. Final class

Message to those taking this Course:

This course is designed for students who have an interest in understanding people. An important part of our identity and values comes from how we were raised – in particular, the hidden values and assumptions of our culture. To understand this hidden side of ourselves, we must examine not only cultural difference, but our own personality. There will be lectures, discussion, and students presentations.

Evaluation:

Grades will be based on attendance, in-class presentations and a short final exam.

世界政治におけるラテンアメリカ	(2単位) (春 火5)
LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS	(2 Credits) (Spring Tue 5)
アントリネス, マリオ 国際センター講師	
Mario Antolinez Lecturer, International Center	

Course Description:

The countries of Latin America and the Caribbean form a vast and complex part of the Western Hemisphere. Although the strategic geopolitical relevance of the region has been recognized, Latin American values and attitudes regarding politics, business and life in general remain profoundly misunderstood, if not totally unknown by many. Not surprisingly, what people think they know about the region is based on unfair stereotypes and generalizations generated by some dramatic event covered by the world media.

Thus, the main objective of this course is to foster a greater understanding of the region's realities. The

course is designed as a multidisciplinary study focusing on Latin American politics, economics and foreign policy, and it is divided in two parts. Part I deals with the main features of Latin America as a region, while Part II consists mainly of a country-by-country approach.

Text Book:

Hillman Richard, "Understanding Contemporary Latin America". Lynne Rienner Publishers, 2001.

Recommended Readings:

Atkins Pope, "Latin America in the International Political System". Westview Press, 1995.
Black Knippers Jan, "Latin America: Its Problems and Its Promise". Westview Press, 1998.
Calvert Peter, "The International Politics of Latin America". Manchester University Press, 1994.
Cortes Roberto, "The Latin American Economies". Holmes & Meir, 1985.
Child Jack, "Geopolitics and Conflict in South America". Praeger, 1985.
Lael Richard, "Arrogant Diplomacy". Scholarly Resources, 1987.
Levine Donrel, "Religion and Politics in Latin America". Princeton University Press, 1981.
Lowenthal Abraham, "Partners in Conflict: The United States and Latin America". Johns Hopkins University Press, 1990.
Molineu Harold, "U.S Policy toward Latin America: From Regionalism to Globalism", Westview Press, 1990.
Peeler John, "Latin American Democracies". University of North Carolina Press, 1983.
Rosenberg Mark, "Americas: An Anthology". Oxford University Press, 1992.
Smith Peter, "Modern Latin America". Oxford University Press, 1997.
Tokatlan Juan, "Teoria y Practica de la Politica Exterior Latinoamericana", 1983.
Wesson Robert, "U.S. Influence in Latin American in the 1980's. Praeger.

Class Schedule (Subject to change):

PART I

Session 1: Introduction
Session 2: The Actors
Session 3: The Inter-American System
Session 4: Latin American Integration and Association
Session 5: Economic Outlook
Session 6: International Relations
Session 7: Latin America and the United States

PART II

Session 8: Mexico and Brazil: The Regional Giants
Session 9: Cuba: The Socialist Way
Session 10: The Andean Region: Breakdown and Recovery
Session 11: The Southern Cone: Authoritarianism and Democracy
Session 12: Central America: Dictatorship and Revolution
The Caribbean: Colonies and Micro-states
Session 13: Final Exam

Evaluation:

The course is organized as a combination of lecture and seminar, and will be conducted in English. Performance will be evaluated on the basis of attendance (30%), class participation (20%), oral presentation (20%) and a final exam (30%).

国際人権法

(2単位) (春 火5)

INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW: ISSUES, PROCEDURES, AND
ADVOCACY, STRATEGIES REGARDING THE PROMOTION AND
PROTECTION OF HUMAN RIGHTS WORLDWIDE

(2 Credits) (Spring Tue 5)

細谷明子

国際センター講師

Akiko Hosotani

Lecturer International Center

Course Description:

Students will study five different aspects of international human rights including:

1. Procedures for implementing international human rights involving state reporting to treaty bodies; individual complaints; thematic, country rapporteurs, and other U.N. emergency procedures for dealing with gross violations; humanitarian intervention; criminal prosecution and procedures for compensating victims; diplomatic intervention; state v. state complaints; litigation in domestic courts; the work of nongovernmental organizations; etc.
2. Major international institutions including the human rights treaty bodies; the U.N. Commission on Human Rights and its Sub-Commission on the Promotion and Protection of Human Rights; the U.N. Security Council; international criminal tribunals; the International Criminal Court; U.N. field operations authorized by the U.N. Security Council or under the authority of the U.N. High Commissioner for Human Rights; the Inter-American Commission on and Court of Human Rights; the European Court of Human Rights and other parts of the European human rights system; the U.N. High Commissioner for Refugees; and the International Labor Organization
3. Human rights situations in various countries such as South Africa, Iran, Myanmar, East Timor, Kosovo, Cambodia, former Yugoslavia, the Democratic Republic of Congo, Japan, the United States, Europe, Sudan, Ghana, and India
4. Substantive human rights problems related to the rights of the child, economic rights, the right to development, torture and other ill-treatment, minority rights, the right to a free and fair election, human rights in armed conflict, crimes against humanity, arbitrary killing, indigenous rights, self-determination, discrimination against women, the rights of refugees, etc.
5. Learning methods such as advising a client, role-playing, the dialogue methods, drafting, and advocacy in litigation

Text Book:

David Weissbrodt, Joan Fitzpatrick, and Frank Newman, International Human Rights: Law, Policy and Process (3rd ed. 2001) and supplement Selected International Human Rights Instruments and Bibliography for Research on International Human Rights Law

Class Schedule (Subject to change):

Assignments are listed below as to each class session:

- Apr. 13: Preface and Chapter 1: Introduction to International Human Rights Law and Drafting Human Rights Treaties
- Apr. 20: Chapter 4: Ratification and Implementation of Treaties; the Covenant on Economic, Social, and Cultural Rights
- Apr. 27: Chapter 5: State Reporting under International Human Rights Treaties; Cultural Relativism
- May 11: Chapter 6: What U.N. Charter-Based Procedures are Available for Violation of Human Rights?
- May 18: Chapter 7: Humanitarian Intervention
- May 25: Chapter 8: Can Human Rights Violation Be Held Accountable?; ad hoc Tribunal for the former Yugoslavia, or; Documentary, Long Night's Journey into Day (South African Truth Commission)
- June 2: Chapter 9: International Human Rights Fact-Finding
Lecture: Professor David Weissbrodt, the Rights of Non-Citizens (tentative)
- June 9: Chapter 10: How Can the Government Influence Respect for Human Rights in Other Countries?
Lecture: Professor David Weissbrodt, Transnational Corporations and Human Rights Norms for Business (tentative)
- June 15: Chapter 11: Inter-American Human Rights System; the Organization of African Unity
- June 22: Chapter 12: European Human Rights System
- June 29: Chapter 13: Domestic Remedies for Human Rights Violations; Enforcing International Human Rights in Japan's Courts, Legislature and Administration
- July 6: Chapter 15: Refugee and Asylum Law; Jurisprudence of Human Rights; Cultural Relativism
- July 13: Questions & Answers for reviewing the exam

Message to those Taking the Course:

The class encourages students to analyze case situation and to evaluate the most effective methods to prevent human rights violations. Because of the evolving nature of the laws and issues in this field, students can participate as strategists and investigators.

Evaluation:

Students will receive their grade for the course based on (1) class attendance (10%), (2) significant

contribution to class discussion (10%), (3) an essay (30%), and (4) a final Exam (50%).

Office Hours:

Tuesday, 1-3 p.m. or by appointment

オーストラリアにおける死と喪失 (2単位) (春 水3)
DEATH AND LOSS IN AUSTRALIAN SOCIETY: A CULTURAL INTRODUCTION (2 Credits) (Spring Wed 3)
ケルヒア, アラン 国際センター講師(ラトローブ大学教授)
Allan Kellehear Lecturer, International Center (Professor, La Trobe University)

Course Description:

This is an introduction to Australian society examined through the prism of its experiences in death and loss. We will examine important dimensions of Australian history, politics and society by describing and reflecting on how these sociological dimensions shape – and are shaped by – experiences of Australian mortality.

The aims of this subject are:

- To provide a basic introduction to the culture and history of Australian society
- To provide a comparative basis for reflections about Australian national character with that of contemporary Japanese
- To provide an understanding of the most important patterns of national conflict – race, gender and class – that characterize the zeitgeist [‘spirit of the times’] for Australian society today.
- To understand Australian experiences of death and loss

Our discussions will revolve around a weekly reading. The topics and citations to these readings are supplied to you in this outline.

Your teacher for this course is:

Professor Allan Kellehear, PhD, is Professor of Palliative Care and Director of the Palliative Care Unit at La Trobe University in Melbourne, Australia. He is also Professorial Fellow at the University of Melbourne Medical School and Chair of the Scientific Advisory Committee of the National Centre for HIV Social Research in Sydney. In 2000 he was British Academy Visiting Professor at the University of Bath and the Religious Experience Research Centre at Westminster College, Oxford. He is the author or editor of 17 books and is currently in Japan as Visiting Professor of Australian Studies at the University of Tokyo.

Weekly Topic Outline and Readings:

1. Introduction to Australian Society – some historical background
Reading: Eyewitness Travel Guide (2002) “History of Australia” Eyewitness Travel Guide: Australia. Dorling Kindersley Ltd, London
2. Introduction to Australian Society – some contemporary background
Reading: A. Kellehear (2000) “The Australian Way of death” [pp 1-13] From A. Kellehear [ed] Death & Dying in Australia Oxford University Press, Melbourne.
3. The Role of Death and Loss in the formation of a nation
Reading: A. Kellehear and I. Anderson (1997) “Death in the Country of Matilda” [pp1-14] From K. Charmaz et al [eds] The Unknown Country: Death in Australia, Britain and the USA, Macmillan, London.
4. The demography of death
Reading: J.M. Najman (2000) “The demography of death: Patterns of Australian mortality” [pp 17-39]. From A. Kellehear [ed] Death & Dying in Australia Oxford University Press, Melbourne.
5. Death, religion and cultural diversity
Reading: G.M. Griffin (2000) “Defining Australian Death: Religion and the State”. [pp 40-51] From A. Kellehear [ed] Death & Dying in Australia Oxford University Press, Melbourne.
6. Funerals and Burial customs
Reading: G. Howarth (2000) “Australian Funerals” [pp 80-91] From A. Kellehear [ed] Death & Dying in Australia Oxford University Press, Melbourne.
7. Grief and loss in Australia
Reading: “Grief & Loss in Australian Society” [116-129] From A. Kellehear [ed] Death & Dying in Australia Oxford University Press, Melbourne.
8. Aging and dying in Australia

- Reading: J. Stevens et al (2000) "Ageing and dying". [pp 173-189] From A. Kellehear [ed] Death & Dying in Australia Oxford University Press, Melbourne.
9. The health and palliative care system response
Reading: O. Kanitsaki (1998) "Palliative Care and cultural diversity" [pp 32-45]. From Palliative Care: Explorations and challenges. MacLennan & Petty, Sydney.
 10. Death and the Law
Reading: I. Freckelton (2000) "Death and the Law". From A. Kellehear [ed] Death & Dying in Australia Oxford University Press, Melbourne.
 11. Death, Australian Art and Literature
Reading: L. Fitzpatrick (1997) "Secular, Savage and Solitary: Death in Australian Painting" [pp 15-30]. From K. Charmaz et al [eds] The Unknown Country: Death in Australia, Britain and the USA. Macmillan, London.
 12. Australians, War and National Disasters
Reading: P. D'Alton (1997) "Prayers to Broken Stones: war and death in Australian Society". [pp45-57] From K. Charmaz et al [eds] The Unknown Country: Death in Australia, Britain and the USA Macmillan, London.
 13. Beliefs about Personal Survival of Death
Reading: H.J. Irwin (2000) "The End: A view from Parapsychology" [pp 342-354]. From A. Kellehear [ed] Death & Dying in Australia Oxford University Press, Melbourne.

Evaluation:

One major essay of 1200-1500 words.

This essay is due on Friday 16th July 2004.

Answer ONE of the following questions:

- How has death and loss shaped Australian identity?
- How has the Australian experience of death and loss shaped Australian responses to immigrants?
- Reflect on the differences and similarities of the experience of death and loss in contemporary Australian and Japanese societies.

This essay will comprise 70% of your total assessment with 30% dedicated to class participation.

グローバルビジネスにおける革新と戦略

(2単位) (春 金3)

INNOVATION AND STRATEGY IN GLOBAL BUSINESS

(2 Credits) (Spring Fri 3)

トビン, ロバート I. 商学部教授

Robert I. Tobin Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course examines successful innovations in global organizations—including market-changing products, inventive approaches to leadership and work, synergy between technology and product development, and the crafting, implementing and executing of business strategy. Ideas, customers, leadership, technology, markets, and talent are all part of the mix when companies innovate and craft business strategy—and will be examined in this course.

Students will develop the skills and tools that are critical for inventing and utilizing new business concepts, re-inventing old ones, and making innovation part of their lives.

The course will be conducted seminar-style with lecture-discussions, student group presentations, case studies, video segments, experiential class activities, and research assignments..

Text Book:

Leading the Revolution by Gary Hamel

Supplementary Reading Materials and Case Studies

Additional Book To Be Assigned

Recommended Readings:

Students are encouraged to read related materials in The Asian Wall Street Journal, Business Week, and Fast Company and to watch related business television broadcasts.

Class Schedule (Subject to change):

List of Topics:

- Introduction: Time of Change & Innovation
- Trends In International Business Leadership \ and Strategy
- Encouraging Ideas & Innovation
- What to Do About Decaying Strategy
- How to Become A Global Innovator
- New Market Expansion and Entry
- U.S. ,China, Thailand, Japan
- Global Leaders/Global Partnerships
- A look at Global Leaders
- Global Companies/Working Overseas
- Impact and Meaning of Anti-Globalization Forces
- Creativity in Leadership
- Future of International Business

Additional information about this course available at www.tobinkeio.com

Message to those taking this Course:

A challenging, innovative course designed to encourage you to think in new, innovative ways. Be prepared for a challenging, rigorous course. This course attracts a large number of Keio's top students from every faculty and exchange students from around the world. No business background is necessary. There is substantial opportunity for student interaction and collaboration.

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

Evaluation:

Evaluation based on successful completion of assignments and projects, participation and on-time attendance, and an examination. In the event of unavoidable absence, please contact another student for assignments and be prepared for the next class. All assignments must be typed and no late papers are accepted.

Website: <http://www.tobinkeio.com>

産業史各論(科学技術政策史)

(2単位) (秋 月1)

HISTORY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY POLICY

(2 Credits) (Fall Mon 1)

ルイス, ジョナサン 商学部非常勤講師(一橋大学助教授)

Jonathan Lewis Part-time Lecturer, Faculty of Business and Commerce (Associate Professor, Hitostubashi University)

Course Description:

This course investigates the aims, effectiveness and unexpected consequences of science and technology policies around the world. It considers the roles of states, enterprises and universities in scientific research and technological development in the context of globalization from a variety of perspectives.

The class will be in English and Japanese.

Recommended Readings:

Etzkowitz, Henry, 2002. MIT and the Rise of Entrepreneurial Science. Routledge.

Fuller, Steve, 1997. Science. Open University Press.

Hafner, Katie and Lyons, Matthe, 1998. Where Wizards Stay Up Late. Simon & Schuster.

L_vy, Pierre, 2001. Cyberculture. University of Minnesota Press.

Low, Morris; Nakayama, Shigeru and Yoshika, Hitoshi, 1999. Science, technology and society in contemporary Japan. Cambridge University Press.

Mani, Sunil, 2002. Government, innovation and Technology Policy: an international comparative analysis. Edward Elgar.

Penely, Constance. 1997. NASA/Trek: popular science and sex in America. Verso.

Samuels, Richard J. 1994. "Rich Nation, Strong Army". Cornell University Press.

加藤弘一 著「電腦社会の日本語」文春新書, 2000

中山茂 他 著「通史 日本の科学技術」ガクヨウ書房, 1995

Evaluation:

Each student is provided with a website. Students follow policy developments in a field of science and technology of interest to them, and posts their findings frequently to their website. Points are awarded for class attendance and for website entries.

Inquiries:

Jonathan_lewis@mac.com

http://homepage.mac.com/jonathan_lewis/ja/teaching/Keio/index.html

アジアの政治、宗教、文化

(2単位) (秋 月4)

POLITICAL CULTURES OF SOUTHEAST ASIA: POLITICS, RELIGION, AND
CULTURE

(2 Credits) (Fall Mon 4)

秋尾沙戸子 国際センター講師(ジャーナリスト)

Satoko Akio Lecturer, International Center (Journalist)

Course Description:

This course surveys the values and the attitudes which supply the original assumptions and the patterns which determine the political behavior influenced by the conventional traditions in Southeast Asia. Unique topics such as the role of Islam, Buddhism, and patron-client relations should be focused on while discussing the political leadership. Video presentation of historical events will help to understand the background of this region. Course requirements are active participation in the classroom, oral presentation and term paper.

Text Book:

Funston, John, (ed), *Government and Politics in Southeast Asia*, Singapore, Institute of Southeast Asian Studies, 2001.

Class Schedule (Subject to change):

1. Prologue
2. Colonialism
3. Indonesia: Sukarno and Nationalism
4. Indonesia: Suharto and Megawati
5. The Philippines: America, Marcos and Catholic role
6. Singapore: Lee Kwan Yew and Chinese Networks
7. Malaysia: Mahathir and Plural Society
8. Thailand: Nation, Buddhism and Kingship
9. Myanmar: Ne Win and Aun Sun Suu Kyi
10. Vietnam: Ho Chi Minh and Communism
11. Islam in Southeast Asia
12. Current Situation in Southeast Asia: Impact of Islamic Revivalism
- Note: Term paper due: List of topics to be distributed later.
13. ASEAN, U.S. and Japan

Message to those taking this course:

Students are expected to understand Southeast Asia through the leader's biography, where Japan occupied during WW II and where students might pay a visit as businessmen for near future.

Evaluation:

Term paper 50% overall class participation 20% oral presentation 20% mapping test 10%

アメリカ研究: アフリカ系アメリカ人の視点からみたアメリカ史

(2単位) (秋 月4)

AMERICAN STUDIES: HISTORY OF THE UNITED STATES FROM AN
AFRICAN-AMERICAN PERSPECTIVE

(2 Credits) (Fall Mon 4)

奥田暁代 法学部助教授

Akiyo Okuda Associate Professor, Faculty of Law

Course Description:

The objective of this course is to promote the student's understanding of American history and culture by

exploring the diverse experiences of black people in the United States. Emphasis will be placed on contemporary public issues as well as on the historical events. By means of discussion, lectures, videos, reading, writing, and class presentation, this course will provide new insights and perspectives into American history and culture.

Recommended Readings:

John Hope Franklin: From Slavery to Freedom

Class Schedule (Subject to change):

Introduction

Class 1 African Americans
Movie: *Time to Kill* (1996)

Slavery

Class 2 History: The Middle Passage
Movie: *Amistad* (1998)
Class 3 History: Slave Culture and Insurrections
Movie: *Gone with the Wind* (1939)
Class 4 Contemporary Issue: Reparation Movement
Student Presentations

Reconstruction

Class 5 History: Civil War and the Emancipation
Movie: *Glory* (1989)
Class 6 History: The Rise of Ku Klux Klan
Movie: *The Birth of a Nation* (1915)
Class 7 Contemporary Issue: Racist Symbols
Student Presentations

Civil Rights

Class 8 History: Segregation in the South
Movie: *Souder* (1972)
Class 9 History: Civil Rights Movement
Movie: *Long Walk Home* (1990)
Class 10 Contemporary Issue: Affirmative Action
Student Presentations

Backlash

Class 11 History: Post-Civil Rights Era
Movie: *Hoop Dreams* (1994)
Class 12 Contemporary Issue: Hate Crimes
Movie: *Blood in the Face* (1991)
Class 13 Contemporary Issue: "Two Nations"
Student Presentations

Evaluation:

Class attendance is required and discussion is expected. There are four requirements for the course: attendance, assignments, class presentation, and final paper. Evaluation will be based on all four requirements.

Attendance and Participation --- 40%
Assignments --- 20%
Presentation --- 20%
Final Paper --- 20%

地球環境問題と企業・政府・消費者	(2単位) (秋 月4)
GLOBAL ENVIRONMENTAL ISSUES AND ACTORS	(2 Credits) (Fall Mon 4)
山口光恒 経済学部教授	
Mitsutsune Yamaguchi Professor, Faculty of Economics	

Course Description:

This course is offered in English.

By attending this course, you will understand what's happening on global environment and how important they are to our economy, health and future generations. I will focus on the actors, such as firms, governments and consumers and explain their roles. Then move on to selected issues; First, climate change (including international as well as domestic policies and measures), second, waste minimization focusing on EPR (Extended Producer Responsibility), and, if time allows, compatibility of free trade and environment.

1. Nature of global environmental problems
2. Global environmental issues and firms
3. SO Environment Management and Firm
4. Government activity (1) - Cost benefit analysis and value of the environment
5. Government activity (2) - Policies and measures
6. Role of consumers and NGO's
7. Climate change (1) -IPCC report and Framework Convention on Climate Change
8. Climate change (2) -Kyoto Protocol and US withdrawal
9. Climate change (3) -Domestic measures
10. Waste problems, Extended Producer Responsibility
11. Waste Problems, EPR -Japanese situation
12. Free trade and the environmental protection

Text books:

F.Cairncross, "Costing the Earth", Harvard Business School Press, 1991
山口光恒「地球環境問題と企業」岩波書店 2000 年

Message to those taking this course:

Students must have a strong command of the English Language.

Evaluation:

Report and in class participation.

金融特論	(2単位) (秋 火2)
ADVANCED STUDY OF FINANCE: CORPORATE GOVERNANCE	(2 Credits) (Fall Tue 2)
深尾光洋 商学部教授	
Mitsuhiro Fukao Professor, Faculty of Business and Commerce	

Course Description:

The governance structure of limited liability companies that stipulates the relationship among the management, stockholders, creditors, employees, suppliers and customers is important in determining the performance of the economy. Although the OECD countries are generally characterized as market economies, there are considerable differences among these countries in the organizational structure of the economy.

One of the major aims of this course is to understand the institutional differences in corporate-governance structures of companies in major industrial countries including the United States, Japan, Germany, France, and the United Kingdom. The differences in the corporate-governance structure have a number of implications for the performance of companies. For example, the cost of capital and the effective use of human resources would be affected by this structure.

In recent years, the deepening international integration of economic activities has heightened awareness of cross-country differences in corporate-governance structure and putting a strong pressure for convergence in

some aspects of corporate governance systems. The course will also survey these trends.

1. General Concept
Fukao, Mitsuhiro, *Financial Integration, Corporate Governance, and the Performance of multinational Companies*, Brookings, 1995.
2. Hostile Takeovers
Scheifer, Andrei and Lawrence H. Summers, "Breach of Trust in Hostile Takeovers", in *corporate Takeovers: Causes and Consequences*, edited by Alan J. Auerbach, University of Chicago Press, 1988.
3. Elements of Governance
Kaplan, Steven N., "Top Executive Rewards and Firm Performance: A Comparison of Japan and the United States," *JPE*, Vol. 102, No.3, June 1994
Franks, Julian R., "Lessons from a comparison of US and UK Insolvency Codes," *Oxford Review of Economic Policy*, Vol.8, No.3, June 1994
Bank of Japan, "The Japanese Employment System," *Bank of Japan Quarterly Bulletin*, May 1994.
Black, Bernard, "Creating Strong Stock Market by Protecting Outside Shareholders," remarks at OECD/KDI conference on Corporate Governance in Asia: A comparative Perspective, Seoul, March 3-5, 1999.
Newbury, Robert W., Rachel Leahey, Annick Siegl and Stacey Burke, *Board Practices 2000*, IRRc, 2000.
William C. Powers, Jr. Raymond S. Troubh, and Herbert S. Winokur, Jr., "Report of Investigation by the special investigative committee of the board of directors of Enron corp.," February, 2002.
4. Financial System
Fukao, Mitsuhiro, "Japanese Financial Instability and Weakness in the Corporate Governance Structure," *Seoul Journal of Economics*, Vol.11, No.4, 1998.
Fukao, Mitsuhiro, "Barriers to Financial Restructuring: Japanese Banking and Life-Insurance Industries," paper for a NBER conference on Structural Impediments to Growth in Japan" on Mrch 18-19, 2002

Text:

Fukao, Mitsuhiro, *Financial Integration, Corporate Governance, and the Performance of Multinational Companies*, Brookings, 1995.

異文化研究:国際化と異文化理解プロセス	(2単位) (秋 火4)
INTERNATIONALISM AND CULTURAL LEARNING: HUMAN RELATIONS IN THE NEW GLOBAL COMMUNITY	(2 Credits) (Fall Tue 4)
ショールズ, ジョセフ 国際センター講師(立教大学助教授)	
Joseph Shaules Lecturer, International Center (Associate Professor, Rikkyo University)	

Course Description:

Traveling, living abroad and dealing with people from other cultures sometimes leads to understanding, tolerance and rich human relations. At other times, it increases stereotypes, creates conflict, causes culture shock and even identity crises. In this course, we will study this process of cultural learning. We will look at the stages that sojourners (travelers, expatriates etc.) go through when adapting to new environments, including how one's view of the world, values, and even identity can change. We will try to understand what it means to be "international" or "bi-cultural". The emphasis will be on the personal cultural learning experience, rather than geopolitical issues. There will strong emphasis on student discussion, student presentations, and students' intercultural experiences.

Text Books:

Handouts to be supplied by the teacher.

Recommended Readings:

Different Realities – Adventures in intercultural communication, by Shaules & Abe, published by Nan'un-do
Identity, by Shaules, Tsujioka & Iida, published by Oxford University Press

Class Schedule (Subject to change):

1. Class introduction
2. The nature of intercultural contact – Deep and shallow cultural learning
3. Visible and invisible culture – the cultural onion
4. Student presentations
5. The goals of cultural learning – sympathy, empathy & constructions of reality
6. The “Deep difference” model of intercultural development - the three reactions
7. The roots of prejudice – Intercultural resistance
8. Student presentations
9. Towards ethnorelativism – Intercultural acceptance
10. Biculturalism and beyond – Intercultural adaptation
11. Community and the “multi-cultural man”
12. Student presentations
13. final class

Message to those taking this Course:

This class is especially recommended for students with interest in (or experience of) living abroad. Students will share their personal point of view, and are expected to share experiences and ideas during discussion and presentations. This class is open to all students, regardless of their previous level of intercultural experience.

カナダという国とカナダの国際的な役割	(2単位) (秋 火5)
CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE	(2 Credits) (Fall Tue 5)
イエローリーズ, ジェームズ 国際センター講師(カナダ日本連盟日本代表)	
James Yellowlees Lecturer, International Center (Director-Japan, Canadian Education Alliance)	

Course Description:

The course will focus on introducing the history, economy and social and political systems of Canada. Students will then examine contemporary Canada and its role in the international community. We will make use of videos and computer assisted media.

Message to Students:

Canada is a very interesting nation that has a lot of potential. If you are interested in learning more about Canada please consider taking this course.

Evaluation:

A five-page written Report on one aspect of Canadian Politics, Economy, Society or Culture.

比較映画論:映画における過去観の諸文化比較	(2単位) (秋 水2)
VISIONS OF THE PAST: CROSS-CULTURAL COMPARISON OF HISTORICAL FILM	(2 Credits) (Fall Wed 2)
エインジ, マイケル W. 経済学部助教授	
Michael W. Ainge Associate Professor, Faculty of Economics	

Course Description:

Historical Drama is a well-established film genre in most nations. While the majority of historical films ostensibly try to “re-create” past events, and present a “window on the past”, others depict the past in such a way as to comment on the nature of presenting history on film. In this course, we will examine historical films from around the world—Asia, Africa, Europe, Latin America and North America—with an eye on how they treat their historical subjects and on which attendant historiographical issues they raise. We will learn to recognize the basic issues and problems of presenting history on film (as compared to history recorded in books and manuscripts, for example), and this will allow us to discuss and compare how filmmakers in different cultures have responded to those problems.

First, we will define the two dominant types of historical film, the drama and documentary, analyzing their

conventions, as well as assessing their limitations. Then, we will proceed to survey some alternative approaches to representing the past on film. All along, we will try to uncover the "hidden" ideological and interpretive assumptions in the films. We will have to consider the relationship between fact and film, and the questions of accuracy, completeness, complexity, argument. Finally, students will be expected to view a film independently, and to write a paper analyzing that particular film in light of the questions and theories discussed in the class.

Students will be required to watch the assigned films on video before class, as homework, and to prepare questions for discussion in English in class. Assigned films will be available with English and/or Japanese subtitles. Evaluation will be based on: class participation(40%), and understanding of the course material as demonstrated in a term paper(60%).

A partial list of films on the course syllabus:

CEDDO (SENEGAL, 1978)

FRIDA, NATURALEZA VIVA (Mexico, 1984)

HEARTS AND MINDS (U.S.A., 1975)

JFK (U.S.A., 1991)

THE MARRIAGE OF MARIA BRAUN (W. GERMANY, 1979)

QUILOMBO (BRAZIL, 1984)

REDS (U.S.A., 1981)

SANS SOLEIL (FRANCE, 1982)

TANGO (SPAIN/ARGENTINA, 1998)

WALKER (U.S.A., 1987)

Additionally, written material for background reading and historical analysis will be available, for a small fee. The class will be conducted as a lecture-discussion, with frequent student presentations.

国際経済		(2単位) (秋 木5)
International Economy		(2 Credits) (Fall Thu 5)
小島明	商学研究科教授	
Akira Kojima	Professor, Graduate Scholl of Business and Commerce	

Course Description:

The class covers various international economic policy issues including trade, Investment (foreign direct investment), foreign exchange policy, WTO process, FTAs(Free Trade Agreements), regional integration, competitiveness issue, economic development strategy and so on.

Students will be put in the very front line of policy debate of international economy. Real voices of policy makers, business leaders and scholars will often be given to the students through recorded tapes and videos. As I have good many chances to participate to many important international policy debates, the student can be given the chance of sharing such experiences of mine. Practical, as well as theoretical approach will be introduced.

Texts:

“Globalization and its Discontent”, Joseph E. Stiglitz, Norton, 2002

METI “White Paper on International Trade 2002” (This document can be accessed through METI website, both in Japanese and English.)

Recommended Readings:

Various analytical reports and documents of IMF, World Bank and other institutions are recommended as required.

アフリカン イシューズ: アフリカにおける近代と危機の意味	(2単位) (秋 木5)
AFRICAN ISSUES: THE MEANING OF MODERNITY AND CRISES IN AFRICA	(2 Credits) (Fall Thu 5)
近藤英俊	国際センター講師(関西外国語大学助教授)
Hidetoshi Kondo	Lecturer, International Center (Associate Professor, Kansai Gaidai University)

Course Description:

Children, who are emaciated with protruding bellies and fly-infested faces, are crying for food, or worse, already motionless in their mothers' arms. For many, such a shocking scene is typically associated with Africa. This popular imagery has its origin in mass media that are often sensationalistic as to African coverage. The truth is that Africa is the continent of wonderfully rich and diverse cultures, where people live their vibrant everyday life. Yet, from this, it does not immediately follow that Africa is a trouble-free region. Just as Japan and other industrial countries have many social problems, Africa does have critical issues to be pursued.

This course is intended to explore some of the major problems that Africa is currently facing. This year we will focus on the issues of medicine and illness in contemporary Africa. Using wide range of academic disciplines, we will explore the social and cultural aspects of medicine and illness in Africa. Thus, the topics we deal with include: (1) complexity and flow of medical cultures, (2) social relations and power in medicine, (3) capitalism, the state and medicine, (4) development and decline of bio-medicine, (5) traditional medicine and professionalisation, (6) religion as medicine, (7) cultural understandings and social consequences of AIDS pandemic.

The course comprises lectures and class works. For class works, students are required to read and summarise a part of books or articles (minimum 30 pages per week) before attending the class. In the class, students will discuss their readings in a small group and then present it in front of all the rest. This is by no means an easy course! Assessment is based on active participation in class works and an essay (3000 words) submitted at the end of the term.

プロジェクト科目・欧州統合	(2単位) (秋 木5)
GRADUATE SEMINAR ON EUROPEAN INTEGRATION	(2 Credits) (Fall Thu 5)
田中俊郎	ジャン＝モネ チェア教授
Toshiro Tanaka	Professor, Jean Monnet Chair
細谷雄一	法学部専任講師
Yuichi Hosoya	Lecturer, Faculty of Law
庄司克宏	法学部非常勤講師
Shoji Katsuhiko	Part-time Lecturer, Faculty of Law

Course Description:

The European Union strives to establish a new order in Europe. While the EU attempts to deepen its construction through the Maastricht Treaty, the Amsterdam Treaty, the Nice Treaty and the Draft Treaty establishing a Constitution for Europe, it will enlarge its scope South and East, from 15 to 25 member states by May 1 2004.

This year, the seminar will focus on the enlargement and the deepening of the EU, trying to shed more lights on the historical development, to analyze its problems and outline future perspectives on the subject.

Course Schedule (Subject to Change):

1. Official Language: English
2. Presentation by students and discussion to follow.
3. Special guests will be invited from the European Commission, Embassies of the member states and Acceding countries in Japan, and researchers including professor from "Science Po" in Paris will be invited.

Evaluation:

Each student will be expected to give oral presentations and join in discussion during the semester. Each student is also expected to submit a term paper by the end of the semester (Length: 15 double-spaced typewritten pages including footnotes.)

Inquiries:

Call extension 22006 for appointment.

アジア諸国におけるビジネスマネジメント	(2単位) (秋 金3)
BUSINESS MANAGEMENT IN ASIAN COUNTRIES	(2 Credits) (Fall Fri 3)
トビン, ロバート I.	商学部教授
Robert Tobin I.	Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course focuses on strengthening your understanding of the major issues and challenges involved in the leadership of businesses in Asia. There will be a special focus on businesses and the styles of management of firms headquartered in Asia outside of Japan.

Students will explore traditional and emerging issues for Asia's business and political leaders and their organizations. In addition students will enhance their communication and leadership skills on group projects with other students.

Among the topics will be the unique political, economic, social and cultural influences on Asian management, issues related to corporate governance and ownership, entrepreneurship and strategy.

The course will be conducted seminar-style with presentations and discussions based on assigned readings, case studies, video segments, open-space activities, projects, experiential class activities, and research assignments.

Text Book:

Asian Management Systems, Min Chen.

Additional assigned articles and supplementary readings

Recommended Readings:

Students are encouraged to read related materials in The Wall Street Journal, Business Week, and The Economist and to watch related television broadcasts.

Class Schedule (Subject to change):

Introduction
How to Succeed in Asian Markets
Asian Market Leaders
Development of Hybrid Management Styles
Successful Asian Businesses
Local Company and Country Trends
Country Information Presentations
Strategy-Country and Pan-Asia Strategy
Case Studies: Challenges of Joint Ventures and Blending Styles
Country Profiles: Group Presentations
Political and Economic Risks in Asia
CHINA - Chinese Management Systems, Changes and Opportunities
Overseas Chinese Business
Challenges of Family Businesses
Business in Frontier Markets
The Re-positioning of Korean companies
Success in Japan, Singapore, Thailand, Vietnam, Korea
Company Presentations: Asia's Most Successful Companies

Additional information about this course available at www.tobinkeio.com

Message to those taking this Course:

A challenging, innovative course that examines the business approaches of countries and companies that are usually not included in traditional management and strategy classes. Students call this an eye-opening course. Be prepared for a challenging, rigorous course. This course attracts a large number of Keio's top

students from every faculty and exchange students from around the world. No background in business is required. There is substantial opportunity for student interaction and collaboration.

Evaluation:

Evaluation based on successful completion of assignments and projects, participation and on-time attendance, and an examination. In the event of unavoidable absence, please contact another student for assignments and be prepared for the next class. All assignments must be typed and no late papers are accepted.

Inquiries:

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

Website: <http://www.tobinkeio.com>

国際開発協力論	(2単位) (秋 金4)
INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION	(2 Credits) (Fall Fri 4)
後藤一美	法学部非常勤講師 (法政大学教授)
Kazumi Goto	Part-time Lecturer, Faculty of Law (Professor, Hosei University)

Course Description:

The twenty-first century is an era of global governance. The realm of contemporary international relations has seen the commencement of new political attempts to gradually reform existing systems in complex governance with different players and multi-tiered networks for the creation of a convivial global society, in which the common values of peace, prosperity and stability are pluralistically shared, overcoming the risks of asymmetry and tit-for-tat sequences. In this new political initiative towards an unknown world, there are some critical challenges, including the pursuit of public goals in the international community and of effective measures to reach them. In the new world of international development cooperation, aid donors and aid recipients have different dreams yet lie in the same bed with a dynamic and tense relationship. By reviewing frontline efforts in international development cooperation with a view towards sustainable growth and poverty reduction from the perspective of cooperation policies, this course is intended to provide some basic foundations and applications for the management of international development cooperation with students that are interested in the main issues of poverty and development in the developing regions, and that wish to be involved in the world of international development cooperation in the future. Several guest speakers shall be invited from international aid agencies.

Text Book:

Textbook is not used in particular. Resume and list of reading materials will be available during the course and via e-mail.

Recommended Readings:

Some recommended readings are as follows:

Finn Tarp, *Foreign Aid and Development: Lessons Learned and Directions for the Future*, Routledge, 2000.

John Degenbol-Martinussen and Poul Engberg-Pedersen, *Aid: Understanding International Development Cooperation*, Zed Books, 2003.

唐木圀和・後藤一美・金子芳樹・山本信人 (編)『現代アジアの統治と共生』慶應義塾大学出版会、2002年。

青木健・馬田啓一 (編)『政策提言／日本の対アジア経済政策』日本評論社、2004年。

後藤一美 (監修)『国際協力用語集』(第3版)、国際開発ジャーナル社、2004年。

Class Schedule (Subject to change):

Session 1	Orientation
Session 2-3	Introduction to international development cooperation
Session 4-6	Current topics (Part 1)
Session 7-9	Current topics (Part 2)
Session 10-12	Current topics (Part 3)
Session 13	Prospects of international development cooperation

Message to Those Taking This Course:

Active participation in class discussions is required.

Evaluation:

Some short essays are requested to be submitted during the course. Evaluation will be made, based on the final report (five pages of A4 size) submitted at the end of the course, with the following criteria: originality; logic; and persuasiveness.

Inquiries:

Should you have any inquiries, feel free to contact with the following address:
<k-goto@i.hosei.ac.jp>

EU・ジャパン・エコノミック・リレーションズ	(2単位) (秋 土2)
EU – JAPAN ECONOMIC RELATIONS	(2 Credits) (Fall Sat 2)
嘉治佐保子	経済学部教授
Sahoko Kaji	Professor, Faculty of Economics

Course Description:

This course is offered in English. The text used in this course is Julie Gilson, Japan and the European Union, Macmillan Press (in the UK), St Martin's Press (in the USA), 2000. The contents of the book are as follows:

- Chapter 1 Introduction: Assessing Bilateral Relations
- Chapter 2 Developing Cooperation, 1950s – 80s
- Chapter 3 Japan and its Changing Views of Japan
- Chapter 4 European Integration and Changing Views of Europe
- Chapter 5 The 1990s and a New Era in Japan-EU Relations
- Chapter 6 Cooperation in Regional Forums
- Chapter 7 Addressing Global Agendas
- Chapter 8 Conclusions: A Partnership for the Twenty-first Century

Lectures will be based mostly on chapters of this text. Emphasis will be on the economic side of EU-Japan relations, rather than the political or historical. The plan is to use the first lecture for introduction. During the following weeks, one to two lecture-hours will be spent discussing each of the chapters 1 through 8.

The topic to be discussed in the following week will be announced at the end of each lecture. Students must submit a report on the Topic each week. They should thus familiarize themselves with the topic before coming to class. Several copies of the text will be on reserve at the library.

Evaluation is by class participation and an essay at the end of the term. For lighter reading on Japan, students may turn to Kaji, Hama and Rice, The Xenophobe's Guide to the Japanese, Oval Books, 1999, £3.99. Reading and/or purchasing of this latter book are not necessary.

Evaluation:

Report and class participation.

異文化コミュニケーション1－日本のコミュニケーションパターンから見た場合－
 INTERCULTURAL COMMUNICATION 1: SEEN FROM JAPANESE
 COMMUNICATION PATTERNS

(2単位) (春 月5)
 (2 Credits) (Spring Mon 5)

手塚千鶴子 国際センター助教授
 Chizuko Tezuka Associate Professor, International Center

Course Description:

This course has three interrelated purposes. The first is to help students learn some essential elements of Japanese psychology and culture, and their implications for communication patterns of Japanese people both among themselves and in intercultural settings. The second is to help students to examine both difficulties/challenges and excitements/joys of intercultural communication by learning key concepts and issues of intercultural communication. The third is to facilitate both Japanese and international students' on-going intercultural communication both by increasing self-awareness of how their respective cultures affect their communication patterns and by arranging them to learn to work together successfully on group projects which will serve as testing grounds for their intercultural communication.

Text Books:

No designated textbook and handouts will be distributed.

Recommended Readings:

Japanese culture and behavior: selected readings by Takie Lebra & William Lebra
Japanese patterns of behavior by Takie Sugiyama Leba
Dependency and Japanese socialization by Frank A. Johnson
Conflict in Japan edited by Ellis Krauss, Thomas Rohlen, and Patricia G. Steinhoff
An introduction to intercultural communication by John C. Condon & Fathi Yousef
Intercultural communication :a reader (6th edition) by L.A.Samovar & R.E.Peter

Class Schedule (Subject to change):

1. Orientation and quiz on the impact of globalization on Japan
2. Conformity pressure vs. individualism in Japanese culture: a case study of Toko Shinoda, a female artist
3. What puzzles you about Japanese culture and society ? and Orientation to Group Projects
4. Understanding Japanese culture through examining mother-child relationship pictures and How to have good intercultural communication in class
5. Culture as mental software, functions of culture, and culture and communication
6. Comparing 'Peanuts' and 'Doraemon' to understand *Amae* psychology: prototype and functions of *Amae*, and culture specificity and universality of *Amae*
7. How *Amae* psychology and an emphasis on *Wa* gets translated into Japanese communication patterns: *Sasshi*, *Enryo* and *Honne* vs. *Tatemaie*
8. How to overcome difficulties in intercultural communication: attribution, empathy and ethnocentrism
9. Preparation for Group Project
10. The Concept of *Sunao* and its implications for Japanese communication patterns: conflict avoidance, readiness to compliance ?, and open-mind
11. Comparing concepts of self between individualistic cultures and collectivistic cultures and its implications for intercultural communication between the two
12. Group project presentation 1
13. Group project presentation 2 and wrap-up

Message to Those Taking This Course:

Students who take this course are strongly encouraged to do risk-taking by sharing your opinions and feelings. Thus contributing to class by active participation in pair-work, group work and class discussion is a must, as the instructor believes that students learn a great deal from their classmates. As group projects, a major source for students' satisfaction, take so much time and energy in and outside of class, students' commitment is essential here. And your input to make this class better and interesting is always welcome by the instructor.

Evaluation:

Overall grades will be based on attendance, essays, participation in class, group project presentation, and

final individual project paper based on group project.

Inquiries:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp.

日本の金融ビッグバン	(2単位) (春 火3)
FINANCIAL DEREGULATION (BIG BANG) IN JAPAN	(2 Credits) (Spring Tue 3)
ハリス, グレアム O.B.E. 商学部非常勤講師	
Graham Harris O.B.E. Part-time Lecturer, Faculty of Business and Commerce	

Course Description:

In this class we will study the role of foreign and Japanese financial institutions in Japan including banks, securities and insurance companies. We will evaluate the Big Bang changes and ascertain whether or not they are achieving their purpose.

Text Book:

Current materials will be used.

Class Schedule (Subject to change):

Big Bang deregulatory changes, together with the general turmoil in the financial markets are creating new opportunities for both foreign and Japanese institutions. Existing companies are having to modify their strategies and new financial companies are being established – many basing their business model on the Internet.

We will examine these opportunities, separate the real from the imaginary and discuss the currents and future effect that foreign financial institutions are having on the Japanese financial scene.

We will also include topics such as the Japanese Post Office; accountancy changes leading to more corporate disclosure and transparency; and the government/FSA involvement in the continuing deregulation process.

Evaluation:

Students will be evaluated on the basis of attendance, class participation, essays, and oral presentation.

英国と米国のマスコミに描かれた日本	(2単位) (春 火3)
JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION	(2 Credits) (Spring Tue 3)
キンモンス, アール H. 国際センター講師(大正大学教授)	
Earl H. Kinmonth Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)	

Course Description:

This course examines foreign (primarily Anglo-American) views of Japan from the earliest awareness of Japan until the present. For Japanese, the course serves as an introduction to the many ways Japan has been and is seen by foreign observers. For non-Japanese, the course serves to introduce students to the limits and peculiarities of scholarly and journalistic writing on Japan. For both, the course is intended to give students an awareness of the degree to which not just journalists but also allegedly objective scholarly observers are in fact heavily influenced by the historical and political circumstances in which they write.

Recommended Readings:

Appropriate readings will be suggested in conjunction with the lectures.

Class Schedule (Subject to change):

1. Introduction to the course - "Whose images of which Japan?"
2. European knowledge of Japan before the coming of Perry
3. The Meiji Restoration and the Meiji Renovation as seen by foreign observers
4. The avid students become the Yellow Peril

5. Taisho Democracy and interwar Japan as seen by foreigners
6. Shame and constipation - Anglo-American anthropologists psyche out the Japanese enemy during the Pacific War
7. New Dealers in the American Occupation - progressive misunderstanding of the causes of militarism
8. Cold War politics and post-war American studies of Japan
9. The many and varied explanations for Japanese economic and technological success
10. Rote memory or creative teaching - the variegated image of Japanese education
11. Erotic geisha or smothering mother - the variegated image of Japanese women
12. Waiting for convergence, planning for containment - rational choice versus revisionism in the American view of Japan's "bubble economy"
13. "Comfort Women" and "The Rape of Nanking" - American self-righteousness confronts Japanese evasiveness
14. Taking Japan Seriously? The who, the why, and how of foreign reporting on Japan
15. From super state to superannuated state - American images of "post bubble Japan"

Message to Those Taking This Course:

The final examination will be based on the lectures. Because no textbook is used, attendance is particularly important.

Evaluation:

Students will be expected to write one short paper on some aspect the foreign image of Japan or the Japanese image of a foreign country. There will be a final examination for the course based on the lectures. The final examination will be given during the scheduled examination period. The course grade will be computed as attendance and participation (20%), report (40%), and final examination (40%).

Inquiries:

Questions during or after lecture are welcome. Questions may be submitted in English or Japanese by email to ehk@gol.com. Special consultation before or after lecture can be provided upon request.

多民族社会としての日本

(2単位) (春 火4)

MULTIETHNIC JAPAN

(2 Credits) (Spring Tue 4)

柏崎千佳子

経済学部助教授

Chikako Kashiwazaki

Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

This course introduces students to 'multiethnic Japan'. Although Japanese society is often portrayed as ethnically homogeneous, its members include diverse groups of people such as the Ainu, Okinawans, *zainichi* Koreans, and various 'newcomer' foreign residents. In this course, students will learn about minority groups in Japan and their relations with the majority 'Japanese' population. The goal of this course is to acquire basic knowledge and analytic tools to discuss issues concerning ethnic relations in Japan and elsewhere.

Texts:

Reading materials consist of excerpts from a variety of sources and will be provided by the instructor.

Class Schedule (Subject to change):

1. Introduction
2. Is Japan ethnically/culturally homogeneous?
3. Theories of ethnic relations
4. Zainichi Koreans: past and present
5. Zainichi Koreans: identity formation
6. Nikkei-Brazilians
7. Visa overstayers
8. "Foreign brides"
9. People from buraku
10. The Ainu
11. Okinawans
12. Presentations on the final project
13. Summary -- Rethinking Japanese society

Message to Those Taking This Course:

The class is conducted entirely in English. Much of class activity is devoted to oral presentations and discussion. Students are expected to read the assigned materials beforehand and to participate actively in the class.

Evaluation:

Evaluation will be based on participation in classroom discussion (30%), presentations (20%), and writing assignments including a short essay and a term paper (50%).

日本企業の経営戦略と管理手法	(2単位) (春 火4)
CORPORATE STRATEGIES, MANAGEMENT SYSTEMS AND PRACTICES IN JAPAN: Understanding Key Success Factors for Developing and Implementing Corporate Strategies	(2 Credits) (Spring Tue 4)
稲葉エツ 国際センター講師(財団法人貿易研修センター人材育成部長)	
Etsu Inaba Lecturer, International Center (Director, Human Resource Development Department, Institute for International Studies and Training)	

Course Description:

Objectives:

1. This course tries to identify key success factors of linking corporate strategies with the management systems and practices. Using case studies and discussion, we will look at the micro level management strategies and practices.
2. The course also tries to develop analytical and experiential learning skills as well as discussion/presentation skills in students.

Under the increasingly global economy, companies are constantly reviewing their strategies and management practices to meet the new challenges. It is recognized that the competitiveness of corporations includes their ability to modify and change, as the environment changes, their management systems and practices. The course offers the opportunity to understand the linkage between corporate strategies and the process of developing management practices. In-depth understanding of selected corporations in Japan as "best practice" will be pursued through case studies, company visits and student's own research. Basic frameworks will be provided during the course. Each student is expected to develop individual list of key success factors of implementing strategies through management practices, based on the case studies used during the course.

Classes are conducted in English. Discussions and information sharing will also take place through e-mails. Both undergraduate and graduate level students are welcome.

Recommended Readings:

Will be advised at the beginning of the course.

Class Schedule (Subject to change):

1. Course Orientation (1 session)
2. Discussion of Strategy development framework (1 session)
3. Discussion of cases (Major Japanese companies) (4 sessions)
4. Discussion of cases (Medium scale and entrepreneur cases) (2 sessions)
5. Students research presentations (4 sessions)
6. Company visit (2 sessions)

To develop these skills and enhance understanding, students are required to read and analyze assigned case studies and do some further fieldwork.

Evaluation:

Performance will be evaluated on the basis of:

1) Participation in class discussion, 2) field work report and presentations, and 3) a final report. Fieldwork can take either group visit to companies and/or research on a company with student's own initiative.

Inquiries:

Questions and discussions can take place through e-mails as well as in the classroom.

浮世と道行き	(2単位) (春 水3)
JOURNEY THROUGH THE FLOATING WORLD	(2 Credits) (Spring Wed 3)
アーマー, アンドルー 文学部教授	
Armour Andrew Professor, Faculty of Letters	

Course Description:

This course focuses on the pre-modern Japanese literature of the Edo period (1600-1867). Marking a contrast with both the war tales of the samurai and the contemplative works of the solitary priests, much of the literature of this period reflects the concerns and tastes of the common townspeople. It was their prosperity and vitality that spurred the growth of printed literature and popular drama, encouraging men like Saikaku, Bashô, Chikamatsu and Akinari. As well as the “floating world” of prose fiction, we shall be covering such topics as haiku poetry and love suicides in the puppet theatre.

Texts:

Students will be presented with materials in class or via the class website (www.armour.cc/ukiyo.htm).

Recommended Readings:

A list of reference works and useful links are available on-line.

Class Schedule (Subject to change):

A detailed list of the works covered in this course is available on the website.

On completion of this lecture course, students should:

1. Be familiar with the major works of poetry, prose and drama in the period covered;
2. Comprehend the major literary currents in the period covered and be able to identify the importance of the major works in the development of these currents;
3. Be familiar with the major figures in Japanese literary history (including commentators and critics) and their achievements;
4. Understand the cultural background (including religious aspects) of the works covered and, where necessary, the political events that form a backdrop to the literature;
5. Be familiar with the reception of Japanese literature in the West.

In the last few weeks of the course, those students requiring a grade will have an opportunity to report on a reading and research project of their own choosing.

Message to Those Taking This Course:

The course assumes that the student has a working knowledge of English. Prior knowledge of Japanese literature is not required, though it is desirable. Naturally some familiarity with the Japanese language, spoken and written, is a plus.

Evaluation:

Grading is primarily based on the student’s research project, presented to the class (using PowerPoint) according to a published schedule; a Q&A session will follow each presentation and a student’s responses are taken into consideration in the grading process. Overseas students who want their credits to be transferred to their home university are advised to present their research results in the form of an academic paper, complete with notes and bibliography. Naturally, regular attendance is important in order to receive a passing grade; the International Center requires that a record be kept.

日本の経営	(2単位) (春 水3)
JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS	(2 Credits) (Spring Wed 3)
梅津光弘 商学部専任講師	
Mitsuhiro Umezu Lecturer, Faculty of Business and Commerce	

Course Description:

Goal:

In this course, we will analyse contemporary Japanese society and business from an ethical perspective.

Through lecture and case discussion, I would like to find a balancing point of culturally contextualized management and globally acceptable norms for future international business. Also, I would like to discuss the strong points of Japanese Style Management which could be transferable to other cultures, and the weak points which would be universally unacceptable.

Method:

First, I will highlight the historical and theoretical aspects fundamental to analyzing Japanese society and business from an ethical perspective. Then I will assign you to read short cases which describe recent incidents that have caused public controversy both in Japan and elsewhere.

Texts:

Reischauer, E.O. The Japanese Today: Change and Continuity. The Belknap Press of Harvard University Press, 1988.
Handouts

Recommended Readings:

TBA

Class Schedule (Subject to change):

1. Introduction: Geography, Climate and Demography of Japan
2. Historical Orientation of Japan.
3. Interpretation of Contemporary Japanese Society 1
4. Interpretations of Contemporary Japanese Society 2
5. Interpretations of Contemporary Japanese Society 3
6. Midterm Exam.
7. Government and Business Interface
8. Japanese Corporate Governance
9. Ethical Issues in Japanese Workplace 1
10. Ethical Issues in Japanese Workplace 2
11. Japanese Business in Transition 1: Community
12. Japanese Business in Transition 2: Environment
13. Final Exam.

Message to Those Taking This Course:

This is a course for international students who want to learn about the fundamentals of Japanese society and business. It is necessary for you to have advanced-level English discussion skills. Through this discussion, I hope you will deepen your understanding of Japanese society and business, and develop cultural insights that help in dealing with practical issues in an international setting.

Evaluation:

Mid-Term Examination (TBA) 30%
 Final Exam/ Project (TBA) 40%
 Class Participation 20%
 Home work 10%

美術を「よむ」ー日本美術史入門	(2単位) (春 水4)
INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN	(2) (Spring Wed 4)
河合正朝	文学部教授
Kawai Masatomo	Professor, Faculty of Law
ルーマニエール, ニコル	国際センター講師(セインズベリー日本藝術研究所所長)
Nicole Rousmaniere	Lecturer, International Center (Director, The Sainsbury Institute for Study of Japanese Arts and Cultures)
カーペンター, ジョン	国際センター講師(ロンドン大学東洋アフリカ学院助教授)
John Carpenter	Lecturer, International Center (Assistant Professor, SOAS, University of London)

Course Description:

Through an examination of selected topics ranging from prehistory through to the 19th century, this

introductory course aims to familiarize students with concepts and processes at work in Japanese art history. The course will provide a basic introduction to Japanese artistic formats, such as screen painting, calligraphy and ceramics, and to genres such as Zen painting, rinpa and literati styles. Primary emphasis is placed on understanding the work of art itself and its context.

Requirements:

Two short written assignments (4-5 double spaced A4 pages)
Active participation in class discussions and on field trips. Attendance and participation will be reflected in the final grade for the course.

Field Trips:

One field trip to Tokyo National Museum (Ueno Park) will be taken during the course in conjunction with a paper assignment.

Lecture Topics:

Japanese Prehistory
Todaiji and the Shosoin
Courtly Literature and Kana Calligraphy
Zen Painting and Calligraphy
Japanese Ceramics
Japanese trade and relations with China and Europe
Rinpa Painting and Calligraphy
Literati Painting and Calligraphy
Japanese Ceramics
Kabuki and 17th Century Genre Painting
Kazari, Japanese Design and Decoration
Ukiyo-e and Surimono
Collecting Japan in 19th-century America and Britain

Texts:

There is no single textbook for the course. Instead, a list of suggested books will be distributed and photocopies of selected sections will be available.

Castile, Rand (ed), The Burghley House Porcelains. New York: Japan Society, 1986.
Clunas, Craig, "Oriental Antiquities/ Far Eastern Art," *Positions: East Asian Cultures Critique* vol. 2, no.2 (Fall 1994), pp.318-354.
Nishi, Kazuo and Kazuo Hozumi, What is Japanese Architecture? (Translated by H. Mack Horton) Tokyo: Kodansha International.
Fontein, Jan and Money Hickman, Zen Painting and Calligraphy. Boston: Museum of Fine Arts, 1970.
Guth, Christine, Art of Edo Japan: The Artist and The City 1615-1868. New York: H.N. Abrams, 1996.
Impey, Oliver and John Ayers and J.V.C. Mallet (ed), Porcelain for Palaces. London: The Oriental Ceramic Society, 1990.
Mason, Penelope, History of Japanese Art. New York: H.N. Abrams, 1993.
Mikami Tsugio. Japanese Ceramics. New York: Heibonsha International, 1977.
Nishi, Kazuo and Kazuo Hozumi, What is Japanese Architecture? (Translated by H. Mack Horton) Tokyo: Kodansha International, 1985.
Pearson, Richard, Ancient Japan. Washington, DC: Smithsonian Institution.
Rousmaniere, Nicole (ed), Kazari, Decoration and Display in Japan 15th – 19th Centuries. London: British Museum Press, 2003.
Singer, Robert, Edo, Arts of Japan. Washington D.C., National Gallery of Art, 1998.
Wilson, Wilson, Inside Japanese Ceramics. Tokyo and New York: Weatherhill, 1995.

Also See:

Chanoyu Quarterly (Urasenke Foundation)
The Kodansha Encyclopedia of Japan (9 vols.), New York: Kodansha International, 1983
The Shibata Collection Catalogues (6 vols) published by The Kyushu Ceramic Museum, 1995 onwards.

ジャパニーズ・エコノミー

(2単位) (春 木5)

JAPANESE ECONOMY

(2 Credits) (Spring Thu 5)

小島明

商学研究科教授

Akira Kojima

Professor, Graduate School of Business and Commerce

Course Description:

Japan's Economic Performance and policy debate in post war period up to now is covered with global economy perspective. Issues such as management practices, financial big-bang, foreign direct investment (FDI), bad loan problems, exchange rate, system reforms are all discussed with preferably active participation of students. Students can have real exposure to the most current policy debate amongst special through Video and Tapes etc.

Recommended Readings:

Japan's Policy Trap – Dollars, Deflation and the Crisis of Japanese Finance, by Akio Mikuni and R. Taggart Murphy. (Brookings Institution Press, 2002)

Balance Sheet Recession – Japan's struggle with uncharted economics and its global implications, by Richard C, Koo, 2003 John Wiley & Sons

Message to Those Taking This Course:

Active participation by students strongly desired.

Evaluation:

Report and in-class exam.

日本の政治と外交

(2単位) (春 木5)

JAPANESE POLITICS AND DIPLOMACY

(2 Credits) (Spring Thu 5)

添谷芳秀

法学部教授

Yoshihide Soeya

Professor, Faculty of Law

Course Description:

This course aims to evaluate the evolution of Japanese politics and diplomacy since the end of the World War II. It will deal with several key issues and questions relating to the emergence, evolution, and demise of the so-called 1955 regime of Japanese domestic politics, as well as the so-called Yoshida "doctrine" in its foreign policy.

Texts:

Reading assignments, show in the syllabus to be distributed in the first class, will be available from the University Co-op.

Class Schedule (Subject to change):

Course syllabus will be distributed in the first class. The course will address the following areas and issues:

1. Politics and Diplomacy under the 1955 Regime
2. Politics and Diplomacy in an Era of High Growth
3. Japan's Response to Détente
4. Politics and Diplomacy under the New Cold War
5. The End of the Cold War and the Demise of the 1955 Regime
6. Political and Diplomatic Challenges in the Post-Cold War Era
7. Changes in the 1990s
8. Politics and Diplomacy after the 9.11

Evaluation:

Attendance, Participation, and Term-paper

エコノミー・オブ・ジャパン

(2単位) (春 土2)

ECONOMY OF JAPAN

(2 Credits) (Spring Sat 2)

嘉治佐保子 経済学部教授

Sahoko Kaji Professor, Faculty of Economics

Course Description:

This course is offered in English.

The text book is Takatoshi Ito, The Japanese Economy, MIT Press, 1992.

Lectures will be based on chapters of this text.

The book's contents are as follows:

Part I Background

Chapter 1 An Introduction to the Japanese economy

Chapter 2 Historical background of the Japanese economy

Part II Economic Analysis

Chapter 3 Economic growth

Chapter 4 Business cycles and economic policies

Chapter 5 Financial markets and monetary policy

Chapter 6 Public finance and fiscal policies

Chapter 7 Industrial structure and policy

Chapter 8 Labour market

Chapter 9 Saving the cost of capital

Chapter 10 International trade

Chapter 11 International finance

Part III Contemporary Topics

Chapter 12 US – Japan economic conflicts

Chapter 13 The distribution system

Chapter 14 Asset prices; land and equities

Students must submit a report on the chapter to be discussed each week. They should thus familiarize themselves with the topic before coming to class. Several copies of the text will be on reserve at the library.

Recommended Readings:

For lighter reading on Japan, students may turn to Kaji, Hama and Rice, The Xenophobe's Guide to the Japanese, Oval Books, 1999, £3.99. Reading and/or purchase of this latter book is not necessary.

Evaluation:

Class participation and an essay at the end of term

近代日本の対外交流史

(2単位) (秋 月5)

MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS

(2 Credits) (Fall Mon 5)

BETWEEN JAPAN AND THE WORLD

太田昭子 法学部教授

Akiko Ohta Professor, Faculty of Law

Course Description:

The course aims to provide an introductory and comprehensive view of the history of diplomatic and cultural relations between Japan and the World in the latter half of the nineteenth century and early twentieth century. A basic knowledge of Japanese history is desirable, but no previous knowledge of this particular subject will be assumed. A small amount of reading will be expected each week.

Texts:

No specific textbook will be used.

Recommended Readings:

The reading list will be given at the beginning of the term.

Class Schedule (Subject to change):

1. Japan and the World before the Opening of Japan (2 lectures) : General introduction and the reappraisal of the Seclusion Policy
 2. The Opening of Japan and international society in the 1850s and 1860s
 3. The First Treaty with the West and the subsequent treaties(2 lectures) : the analysis of the U.S.-Japanese Treaty of Peace and Amity will be included
 4. Japanese Visits Abroad (2 lectures) : the evaluation of the cultural and diplomatic significance of the Japanese visits abroad (official missions / official students / stowaways and castaways
 5. Japanese perception of the West, changing attitudes and feelings in the 1860s (1 lecture)
 6. Western perception of Japan in the 1850s and 1860s (1 lecture)
 7. The significance of the Iwakura Mission (1~2 lectures)
 8. Development of Japanese Nationalism in the Meiji Era (2 lectures) : comparative analysis of several primary sources
- ☆ Optional excursion to the Yokohama Archives of History may be included in the programme.

Evaluation:

Students are expected to make a short report on a research project of their own choosing and hand in a term paper of about 2,000 words (about five pages, A4, double space) by the end of the term, and take the final examination.

Volunteers for a mini-presentation (about 10-15 minutes) on the topics related to the lecture are most welcome. (Details will be explained in class.)

異文化コミュニケーション2ー異文化接触における日本人のアイデンティティー	(2単位) (秋 月5)
INTERCULTURAL COMMUNICATION 2: IDENTITY OF JAPANESE SOJOURNERS	(2 Credits) (Fall Mon 5)
手塚千鶴子	国際センター助教授
Chizuko Tezuka	Associate Professor, International Center

Course Description:

The first purpose is to help students learn how Japanese people have been experiencing exciting as well as confusing encounters with cultures different from their own and how such cross cultural encounters in and outside of Japan have been affecting their sense of identity and communication styles as an individual (and as people) from the times of Japan's First Opening to the world in the late Edo Period up to the present from the three perspectives: history, cultural adjustment, and intercultural communication, utilizing case studies. The second purpose is to help both Japanese and international students who are brought together to Mita campus by the globalization and internationalization to make best use of this class to communicate effectively through discussion and other student-centered activities.

Texts:

There is no designated textbook. Handouts will be distributed.

Recommended Readings:

- Tsuda Umeko and Women's Education in Japan* by Barbara Ross, Yale Univ Press, 1992.
The White Plum: a biography of Ume Tsuda by Yoshiko Furuki, Weatherhiesel, 1991.
Nitobe Inazo: Japan's bridge across the Pacific by John F. Howes, Westview Press, 1995.
Foreign Studies (translated from Japanese by Mark Williams) by Shusaku Endo, Charles E. Tuttle, 1989.
Intercultural Communication: reader 5th ed., Larry Samovar and Richard E Porter, Wadsworth Publishing Company, 1989.
Japanese Culture and Behavior (revised edition) ed.by Takie Sugiyama Lebra and William Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1986.
Japanese Patterns of behavior ed by Takie Sugiyama Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1976.
Exploring Japaneseness: on Japanese Enactments of Culture and Consciousness ed by Ray T. Donahue, Ablex Publishing Company, 2002.
Japan Encounters The Barbarian: Japanese travelers in America and Europe

Class Schedule (Subject to change):

1. Orientation to the course
2. A brief historical review of Japan's encounter with the outside world as an island nation up to the late

Edo Period

3. Japan's attitude towards the West after the First Opening of Japan with an emphasis on absorbing the Western civilization
4. Japan's endeavor to modernize herself in comparison with Korea and China
5. A case study of Umeko Tsuda 1: a successful sojourn in America
6. A case study of Umeko Tsuda 2: many years of struggle adjusting back to Japan
7. Cross cultural adjustment1: culture as mental softwear, stages of cross cultural adjustment, and facilitating factors of cross cultural adjustment
8. A case study of Paris Syndrome or Double Suicide in Los Angeles: overadjustment and challenges for Japanese sojourners
9. A case study of a Malaysian woman married to a Japanese: cultural identity
10. Identity: ego identity, personal identity, and social identity, process of identity formation, and issues of identity fluctuation in cross cultural adjustment
11. A case of Jiro, a Japanese returnee who spent 6 years in U.S.A.: formulation and transformation of cultural identity and adjustment issue back in Japan
12. A case study of Masao Miyamoto adjusting back to Japan in the Showa Period in comparison with Umeko Tsuda in the Meiji Period
13. Challenge for Japanese and other sojourners: empathy, tolerance towards cultural differences and intercultural identity

Messages to Those Taking This Course:

Those students who are willing to participate actively in class are most welcome. Students are strongly encouraged to engage actively in pair work, a small group discussion and class discussion in addition to listening to mini-lectures. Thus what you can learn from this class largely depends on how much you can contribute to this class while the instructor's responsibility is that of a facilitator. And your input to make this class better and interesting is always welcome by the instructor.

Evaluation:

Overall grad will be based on attendance, homework, essays, participation in class, and final term paper.

Inquiries:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp

日本の文学

(2単位) (秋 水3)

JAPANESE LITERATURE

(2 Credits) (Fall Wed 3)

アーマー, アンドルー

文学部教授

Andrew Armour

Professor, Faculty of Letters

Course Description:

This course is intended to cover the history of Japanese literature from earliest times up to the modern era. Starting with the writing system, we will trace the conspicuous developments in poetry, prose and drama through the Nara, Heian, Kamakura, Muromachi and Edo periods. Included are such works as the *Manyôshû*, *Genji monogatari*, *Heike monogatari*, *Oku-no-hosomichi* and *Sonezaki shinjû*.

Texts:

Students will be presented with materials in class or via the class website (www.armour.cc/jlit.htm).

Recommended Readings:

A list of reference works and useful links are available on-line.

Class Schedule (Subject to change):

A detailed list of the works covered in this course is available on the website.

On completion of this lecture course, students should:

1. Understand how the Japanese writing system developed, how it came to be used to compose works of literature, the problems it poses, and how the modern reader can decipher a manuscript such as that of *Genji monogatari*;
2. Be familiar with the major works of poetry, prose and drama in the period covered;

3. Comprehend the major literary currents in the period covered and be able to identify the importance of the major works in the development of these currents;
4. Be familiar with the major figures in Japanese literary history (including commentators and critics) and their achievements;
5. Understand the cultural background (including religious aspects) of the works covered and, where necessary, the political events that form a backdrop to the literature;
6. Be familiar with the reception of Japanese literature in the West.

In the last few weeks of the course, those students requiring a grade will have an opportunity to report on a reading and research project of their own choosing.

Messages to Those Taking This Course:

The course assumes that the student has a working knowledge of English. Prior knowledge of Japanese literature is not required, though it is desirable. Naturally some familiarity with the Japanese language, spoken and written, is a plus.

Evaluation:

Grading is primarily based on the student's research project, presented to the class (using PowerPoint) according to a published schedule; a Q&A session will follow each presentation and a student's responses are taken into consideration in the grading process. Overseas students who want their credits to be transferred to their home university are advised to present their research results in the form of an academic paper, complete with notes and bibliography. Naturally, regular attendance is important in order to receive a passing grade; the International Center requires that a record be kept.

20世紀日本の文学に与えたヨーロッパ文学の影響

(2単位) (秋 水4)

THE IMPACT OF WESTERN LITERATURE ON JAPANESE

(2 Credits) (Fall Wed 4)

TWENTIETH-CENTURY FICTION

レイサイド, ジェイムス 法学部教授

James M. Raeside Professor, Faculty of Law

Course Description:

This course of lectures is intended to give a selective account of the way that Western literature was received in Japan during the 20th century, and the different ways that Japanese novelists engaged with the genres and techniques of foreign predecessors and contemporaries.

Consideration will be limited to Japanese novelists, though poets will also figure amongst the Western writers. The lectures will follow a basically chronological order, beginning with the Natsume Soseki and ending with Murakami Haruki. Students interested in this course should try to read at least some of the following (names appear without macrons).

Natsume Soseki 夏目漱石 『草枕』

English Translation A Three-Cornered World/ Unhuman Tour

Nagai Kafu 永井荷風 『墨東奇談』

English Translation: A strange Tale from East of the River

Akutagawa Ryunosuke 芥川龍之介 「蜘蛛の糸」、「地獄変」、「河童」

English Translation "The Spider's Thread"; "The Hell Screen" Kappa

Tanizaki Junichiro 谷崎潤一郎 『痴人の愛』『夢喰う虫』

English Translation Naomi; Some Prefer Nettles

Mishima Yukio 三島由紀夫 『愛の渇き』『憂国』

English Translation: Thirst for Love; "Patriotism"

Endo Shusaku 遠藤周作 『沈黙』

English Translation Silence

Noma Hiroshi 野間宏 『わが塔はそこに立つ』

(There Stands my Pagoda)

Oe Kenzaburo 大江健三郎 『新しい人よ眼ざめよ』

English Translation Rouse Up O Young Men of the New Age!

Murakami Haruki. 『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』

English Translation Hard-boiled Wonderland

General surveys of Japanese literature such as those by Donald Keene and Shuichi Kato will also provide good background information.

日本の経済システムにおける政府の役割－規制と介入の特殊性を中心に－	(2単位) (秋 木4)
THE ROLE OF GOVERNMENT IN THE JAPANESE ECONOMIC SYSTEM: A	(2 Credits) (Fall Thu 4)
Critical Look at the Unique Features of Japanese Regulations and Government Involvement	
伊藤規子 商学部助教授	
Noriko Ito Associate Professor, Faculty of Business and Commerce	

Course Description:

This course aims to help the student to understand the Japanese style of economic regulation and how and why the central/local government's involvement in many areas of the economy is distinctive to that of other industrial nations. The lectures will (A) cover the contents of the text book, '*Arthritic Japan*' which is useful in explaining the postwar Japanese economic system and the problems the Japanese have been facing during the last decade, (B) briefly explain general concepts and approaches in theories of industrial organization, public choice and regulatory economics and (C) survey some distinctively Japanese approaches to developing infrastructure and regulating industries.

Texts:

Edward, J. Lincoln, *Arthritic Japan: the slow pace of economic reform*, Brookings, 2001.

Recommended Readings:

Additional materials will be provided during some sessions if necessary.

Class Schedule (Subject to change):

- Session 1 guidance and introduction
- Session 2-3 the Japanese postwar economic system
- Session 4-5 framework of government intervention and involvement in the economy
- Session 6-8 brief guidance to related theories of industrial organization and public choice
- Session 9-10 Japanese society, its traditions, structure and implications for the economic system
- Session 11-13 problems (in topics) with regard to current systemic economic reform

Message to Those Taking This Course:

The students who will attend this course do not need to have more than a basic knowledge of economics, but they are expected to have a general interest in the Japanese economy in all its aspects. Quite often the lecturer will give them copies of journal articles (such as those from the Japan Times). We will discuss these during the sessions. Sometimes the lecturer will ask the students to submit specific essays based on some of these articles.

Evaluation:

Evaluation will be carried out by (A) essays which will be submitted after the course ends and (B) essays submitted during some sessions based on articles provided.

Inquiries:

The lecturer's contact address will be notified at the beginning of the first session.

科学技術文化特論	(2単位) (秋 金2)
SCIENCE, TECHNOLOGY AND CULTURE	(2 Credits) (Fall Fri 2)
ドゥウルフ, チャールズ 理工学部教授	
Charles De Wolf Professor, Faculty of Science and Technology	

Course Description:

Japan is often viewed, by Japanese and non-Japanese alike, from seemingly polar opposite perspectives: on the one hand, as a non-Western country that, more thoroughly and successfully than any other, has

adopted the life-style of the “global” West; on the other, as, certainly among the advanced industrial democracies, the most insular and self-absorbed, obsessed with its own ethnic-national identity and holding “foreigners” at arm’s length. How is it possible, for example, that a country at the pinnacle of technological achievement could produce politicians who speak of skis produced in foreign countries as unusable on Japanese snow? How is it that the residents of the “high-tech” Japanese metropolis, the largest urban complex in the world, can wax enthusiastic about a freely elected governor who describes non-Yamato residents as “criminals” waiting to attack pure-blooded Japanese in the event of a major earthquake? In this course, we shall examine this seeming paradox from various perspectives: historical, social, linguistic, and religious. A related sub-theme will be the question of how culture and science, in the broadest senses of the terms, are interrelated.

Texts:

Materials to be distributed by instructor

Recommended Readings:

To be announced

Class Schedule (Subject to change)

1. The concept of science: words in different languages for 'science' and their meanings.
2. 'scientific', 'non-scientific', 'unscientific': Where do we draw the line?
3. What is meant by 'the scientific method'? Is linguistics, for example, a science? Pre-modern vs. modern Japanese linguistics as a case in point
4. Science and 'Weltanschauung': How philosophically/religiously 'neutral' is science?
5. Science and culture: Can modern science be regarded as an 'Occidental' invention?
6. The History of Science in Japan I: pre-16th century
7. The History of Science in Japan II: rangaku
8. The History of Science in Japan III: science in the Meiji Era
9. The theory of evolution in historical and cultural perspective, with particular emphasis on Japan
10. Ambivalent views of technology in historical and cultural context
11. Science and current issues I: Global warming
12. Science and current issues II: Cloning
13. Science and current issues III: Population control
14. Science and current issues IV: Globalization
15. Science and current issues V: Technology and human rights

Evaluation:

Attendance and participation are most important. Final reports are also required.

芸術と戦争：日本の戦時体制と作家、詩人、評論家

(2単位) (秋 金3)

THE ART OF WAR: JAPANESE WRITERS, FILMMAKERS, POETS, AND CRITICS

(2 Credits) (Fall Fri 3)

UNDER THE WARTIME STATE

ドーシー, ジェームス 国際センター講師(ダートマス大学助教授)

James Dorsey Lecturer, International Center (Associate Professor, Dartmouth University)

Course Description:

The course will examine a variety of Japanese literary and critical texts from the 1930s and 1940s, with a focus on those that deal directly or peripherally with the war efforts in China and the Pacific. Students will gain an understanding of the workings and relationship of nationalism, colonialism, censorship, propaganda, publishing practices, interpretive strategies, and the literary imagination.

Texts:

John W. Dower, War Without Mercy: Race & Power in the Pacific War (New York: Pantheon Books, 1986), 2000 円.

Kawabata Yasunari, Snow Country, trans by Edward Seidensticker (New York: Vintage, 1996), 2000 円.

Ishikawa Tatsuzô, Soldiers Alive, trans by Zeljko Cipris (Honolulu: University of Hawai'i Press, 2003), 2500 円.

All other readings will be made available in copy form.

Class Schedule (Subject to change):

1. COURSE INTRODUCTION
(Course mechanics, syllabus, expectations, introductions)
2. THE LIBERAL ROOTS OF THE RADICAL RIGHT (1920s)
(Kobayashi Takiji, Nakano Shigeharu, marxism, proletarian literature, *tenkō*/conversion)
3. "HOME IS WHERE THE HEART IS" (1930s)
(Kawabata Yasunari, Kobayashi Hideo, cultural identity, rural roots/*furusato*, purity)
4. THE LITERARY GENIUS, PROPAGANDA EXPERT OR AVERAGE FIGHTING MAN?
(Hino Ashihei, hero prototypes, authenticity, interpretation)
5. WRITERS AND THE STATE TANGO
(Ishikawa Tatsuzō, censorship, publishing practices, war correspondents)
6. INSIDE-OUT AND OUTSIDE-IN
(colonialism, imperialism, *naichi*/the center, *gaichi*/the periphery)
7. PURE AND SIMPLE?
(propaganda in the U.S. and Japan)
8. "THINGS JAPANESE"
(Hagiwara Sakutarō, Sakaguchi Ango, cultural identity, an imaginary Japan)
9. RECYCLED HEROES
(the 47 rōnin, Miyamoto Musashi, Yoshikawa Eiji, nationalism, hero myths)
10. THE ATTACK ON PEARL HARBOR (2 sessions)
(fascism, hero myths, nationalism)
 10. 1 Film (*Kaigun*/The Navy, 1942)
 10. 2 Literature (Sakaguchi Ango, "Pearls")
11. CHANGELESS CHANGE: POSTWAR JAPAN
(Sakaguchi Ango, nationalism, cultural identity, colonialism)
12. WHERE ARE WE TODAY?
(summary, review)

Message to Those Taking the Course:

War, suicide bombers, propaganda, surprise attacks, nationalism, the West vs. the non-West. These are all very much a part of our world today, and they were very much a part of it in the 1930s and 1940s. All students willing to explore and discuss these issues in the context of Japan's modern history are welcome. A field trip to the Yasukuni Shrine and museum will be part of the course.

Evaluation:

- Class participation: 35%
Two response papers (2 pgs each): 25%
One final paper (8 pages): 40%

日本経済の展望

(2単位) (秋 金4)

ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN

(2 Credits) (Fall Fri 4)

市川博也

国際センター講師(上智大学教授)

Hiroya Ichikawa

Lecturer, International Center (Professor, Sophia University)

Course Description:

An advanced applied course of economics concerning the contemporary Japanese economy. The course will examine the roots of the instability of the present financial system and critically examine the Japan Model, which once was used to explain the success of the Japanese economy in the postwar period. This examination includes discussion of the legacy of wartime control and debates over the East Asia Miracle. Problems related to the aging population, social security, the burden of government debt, competition policy, deregulation (including the financial big bang), corporate governance, government-business relations, trade disputes, foreign direct investment, ODA policy, environmental issues, and the role of Japan in the world will be discussed. Students are required to read economic and financial news every day for class discussion.

Text Book:

Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy" University of Tokyo Press, 1995

Class Schedule (Subject to change):

1. Introduction
Identify major economic problems facing Japanese economy.
2. Discuss Paul Krugman "The Myth of Asia's Miracle" Foreign Affairs, November/December 1994.
3. Discuss Takahusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy," chapter 2. "Reform and Reconstruction" University of Tokyo Press. 1995.
4. Discuss chapter 3 "Rapid Growth" in Takahusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy"
5. Discuss "The Mechanism and Policies of Growth"
See Nakamura chapter 4.
6. Discuss the dual structure: Labor, Small Business, and Agriculture" Richard Katz, "Japanese Phoenix-the long road to economic Revival", M.E. Sharp. 2003.
chapter 3 "Overcoming the dual economy – backward sectors are the key to Japan's revival".
chapter 4 "Overcoming Anorexia – the labours Sisyphus-"
See Nakamura chapter 5.
7. Discuss "The End of Rapid Growth" See Nakamura. Chapter 6.
8. Discuss Japanese Economy and International Environment
Richard Katz, chapter 9 "Globalization -the Linchpin of Reform-"
chapter 11 "Foreign Direct Investment -A Sea Change-".
See Nakamura chapter 7.
9. Discuss "The Collapse of the Bubble Economy" Thomas F. Cargill, Michael M. Hutchinson, Takatoshi Ito, "The political Economy of Japanese monetary Policy,"
chapter 5 "The Bubble Economy and its Collapse"
chapter 6 "Asset-Price Deflation: Nonperforming Loans, Usen Companies, and Regulatory Inertia."
The MIT Press. 1997
Richard Katz, chapter 12. "Financial integration – The Iceberg Cracks-".
See also Nakamura chapter 8.
10. Restoring Japan's Economic Growth
chapter 1 "Diagnosis: Macroeconomic Mistakes, Not Structural Stagnation"
chapter 2 "Fiscal Policy Works When it is tried".
chapter 3 "The Short and Long of Fiscal Policy" in Adam S. Posen, Restoring Japan's Economic Growth, Institute for International Economics, 1998.
Richard Katz, chapter 6 "Fiscal dilemmas," chapter 7 "Monetary magic bullets are blanks", chapter 8 "Japan cannot export its way out".
Richard Katz, chapter 13 "What is structural reform?" chapter 14 "Financial reform" chapter 15 "Corporate Reform-No competitiveness without more competition".
11. Discuss Financial and International Risks and Inflation Target.
Chapter 4. "Mounting Downside Risks: Financial and International"
Chapter 6. Recognizing a mistake, not blaming a model" in Adam S Posen.
12. Can Japan Compete?
Chapter 2. "Challenging the Japanese Government Model"
Chapter 3. " Rethinking Japanese Management",
Chapter 5. " How Japan can Move Forward: The Agenda for Government"
Chapter 6. "Transforming the Japanese Company" Michael E. Porter, Hirotaka Takeuchi & Mariko Sakakibara, "Can Japan Compete?" Macmillan Press Ltd. 2000
Richard Katz, chapter 16 "Competition policy – Not enough competition, even less policy".
13. Deregulation and state enterprises, Tax reform Richard Katz, chapter 18 "deregulation and state enterprises – The Moment is Clear, the destination is not."
Chapter 19. "Tax Reform – Don't Exacerbate Anorexia".

Message to Those Taking This Course:

Basic knowledge of Microeconomics & Macroeconomics prerequisite.
High proficiency in English required: TOEFL (PB)550+ (CB)213+

Evaluation:

Class Participation (Active Discussion) + Essay + Term Examination

NPO/NGO 実践講座－日本のケース	(2単位) (秋 金4)
REALITY OF NPO/NGO IN THE CASE OF JAPAN	(2 Credits) (Fall Fri 4)
石井宏明 国際センター講師(ピース ウィンズ ジャパン 渉外)	
Hiroaki Ishii Lecturer, International Center (External Relations, Peace Winds Japan)	

Course Description:

Recently NGOs and their activities have become more and more publicized in Japan, since the Hanshin-Awaji Earthquake occurred. Ordinary people who did not have access to NGOs may have a big question, such as “Why does this happen and why is NGO work so important in the Japanese context?” This course will define the development of Japanese NPO/NGOs and their activities, responding to such questions, and examine the role of NGOs, especially in the field of international cooperation.

Through introducing the “live” activities of various kinds of NGOs, this course will show the real pictures of Japan-based NGOs as well as the environment surrounding them. Students could also learn strength and weakness of NGOs, particularly in the Japanese context, and the relations with other agencies such as the government, military forces, UN, and business sectors.

Guest speakers from NGOs and other players related to NGO’s activities would be invited to address in the course. Handouts will be periodically provided during the class session, and the lecturer will introduce some relevant reading materials.

Students should be able at the end of the course to:

1. Understand the definition and the diversity of NGOs and their activities, particularly in humanitarian assistance.
2. Develop a basic knowledge of NGO activities, including implementation of project implementation, advocacy, administration activity, public relations, and so on, through lecture, guest speech.
3. Acquire practical methodology throughout the group activity in terms of how an NGO can be organized and develop its capacity.

Class Schedule (Subject to change):

In the first half of the course will consist of mainly lectures and discussions facilitated by either lecturer or guest speakers, and in the latter half, the main activity will be a group activity to practice to design and found a new NGO. Preferably, each group will consist of 4-5 students working together to choose a specific area of NGO activity and plan to found, and then examine how it works. The lecturer will assist to provide a basic knowledge and skills to organize an NGO.

Last 1-2 classes (depending on the number of students) will be a group presentation based on the group activities, which every students can be an examiner as well as an examinee.

Message to Those Taking This Course:

This class is suitable to the students who want to learn the ongoing change of the Japanese NGOs, particularly International Cooperation NGOs, which the lecturer belongs to. Not much background information on NPO/NGOs or comparative analysis to other countries ones. Do not expect too much academically from this class.

Evaluation:

Class participation	20%
Group Activity	50%
Final Report (group based)	30%

日本の宗教: 救済の探求	(2単位) (秋 金4)
RELIGIONS IN JAPAN: IN SEARCH OF SALVATION	(2 Credits) (Fall Fri 4)
ナコルチェフスキー, アンドリイ	文学部助教授
Andrei Nakortchevski	Associate Professor, Faculty of Letters

Course Description:

In this course I would like to introduce main religious teachings existed in Japan from old times and up to our days. For the reason the name of the course is specified purposely as “Religions in Japan” and not as

“Japanese Religions.” Otherwise we have to limit our discourse to the only genuine Japanese religion – Shinto and maybe some eclectic so called “new religions”, and forget about Buddhism or Christianity.

Each of these religions will be presented in three aspects: dogmatic (the only exception will be done for Christianity and I will accent the peculiarity of a perception of this religion in Japan), historical and cultural. Dogmatic aspect means an introduction to the core postulates and their transformation over time. Historical aspect allows us to trace a destiny of a religious teaching in Japanese history, and cultural aspect implies a study of influences to and interactions with other spheres of cultural activities – art, literature, science, etc.

Besides the above mentioned aspects, the fourth theme, namely religion’s promise to solve the individual’s existential and social problems, will be constantly touched on in this course. From these theme derives the subtitle – “In Search of Salvation.” Especially this aspect becomes important when we deliberate “new religions”, including the notorious Aum Shinrikyo in particular.

About half of the lectures will be devoted to Buddhism as the most philosophically profound and variable teaching, but I would like to introduce not only institutionalized religion as Buddhism, Shinto, Christianity, as well as Taoism and Confucianism to some extension, but also the most interesting so called folk religions, for example, tradition of *shugendou* (mountain asceticism), different variants of shamanic practices, etc.

他大学大学院との相互科目履修に関する協定

慶應義塾大学大学院文学研究科修士課程および学習院大学大学院人文科学研究科博士前期課程における相互科目履修に関する協定書

昭和48年12月1日締結
平成14年11月1日改正

記

第1条 両研究科の学生は、昭和49年4月より、相互に相手側研究科設置科目を修士課程または博士前期課程在学中に計8単位を限度として履修することができる。

第2条 第1条に該当する学生は大学院交流学生と称する。

第3条 第1条に規定する履修科目については、受入側研究科はその学則にもとづいて成績を評価し、単位を認定して相手側研究科に通知する。相手側研究科は修士課程または博士前期課程の単位としてこれを認めるものとする。

第4条 相手側研究科の設置科目を履修する学生は自己の属する研究科指導教員の承認を受け、かつ相手側研究科の担当教員の許可をうけなければならない。ただし、担当教員は学生数その他の都合からこれを許可しないことがある。

第5条 本制度の運用について協議の必要を生じた時は、直ちに両研究科間で協議し、常に円滑な運用と将来の発展に努力するものとする。

第6条 本制度は昭和47年度および48年度を試行期間として、昭和47年4月より実施してきたものであるが、昭和49年4月より正規に発足させるものである。

第7条 本制度に関する内規は別に定める。

附 則

この協定は昭和48年12月1日から施行する。

附 則 (平成14年11月1日)

この協定は平成15年4月1日から施行する。

以 上

慶應義塾大学大学院文学研究科および早稲田大学大学院文学研究科の修士課程における相互科目履修に関する協定書

昭和48年12月1日締結
平成14年11月1日改正

記

第1条 両研究科の学生は、昭和49年4月より、相互に相手側研究科設置科目を修士課程在学中に計8単位を限度として履修することができる。

第2条 第1条に該当する学生は大学院交流学生と称する。

第3条 第1条に規定する履修科目については、受入側研究科はその学則にもとづいて成績を評価し、単位を認定して相手側研究科に通知する。相手側研究科は修士課程の単位としてこれを認めるものとする。

第4条 相手側研究科の設置科目を履修する学生は自己の属する研究科指導教員の承認を受け、かつ相手側研究科の担当教

員の許可をうけなければならない。ただし、担当教員は学生数その他の都合からこれを許可しないことがある。

第5条 本制度の運用について協議の必要を生じた時は、直ちに両研究科間で協議し、常に円滑な運用と将来の発展に努力するものとする。

第6条 本制度は昭和47年度および48年度を試行期間として、昭和47年4月より実施してきたものであるが、昭和49年4月より正規に発足させるものである。

第7条 本制度に関する内規は別に定める。

附 則

この協定は昭和48年12月1日から施行する。

附 則 (平成14年11月1日)

この協定は平成15年4月1日から施行する。

以 上

(単位互換協定)

慶應義塾大学大学院文学研究科と早稲田大学大学院教育学研究科の学生交流に関する協定書

慶應義塾大学大学院文学研究科と早稲田大学大学院教育学研究科は、教育の一層の充実を目指して、両大学大学院研究科の学生が受入大学大学院研究科の授業科目を履修することについて協定を締結する。

(受 入)

第1条 両大学大学院研究科は、受入大学大学院研究科の授業科目の履修および単位の修得を希望する学生を、相互に受け入れることができる。

2 学生を受け入れるための手続は、別に定める。

(受入学生の身分)

第2条 両大学大学院研究科は、前条によって受け入れる学生を交流学生と称する。

(学生数)

第3条 当該年度の交流学生数は、原則として両大学大学院研究科双方同数とする。

(履修期間)

第4条 交流学生の履修期間は、当該学生の履修科目の設置期間とする。

(履修科目の範囲および単位数)

第5条 交流学生が履修できる授業科目および単位数は、別に定める。

(履修方法・単位の授与・成績評価等)

第6条 交流学生の履修方法、単位の授与および成績評価等については、受入大学の大学院研究科の定めるところによる。

2 交流学生が修得した単位の認定に関わる事項は、当該学生の所属する大学の大学院研究科が定めるところによる。

(学費等)

第7条 交流学生の学費等は、相互に徴収しないものとする。

(覚 書)

第8条 本協定書の実施に必要な事項について定めるために、覚書を締結する。

(その他)

第9条 本協定書は、双方の署名によって発効し、2003年4月1日より実施する。ただし、発効日より3年を経過した後に見直しを行う。

2002年12月1日

慶應義塾大学大学院文学研究科と早稲田大学大学院教育学研究科の学生交流に関する覚書

慶應義塾大学大学院文学研究科と早稲田大学大学院教育学研究科は、「慶應義塾大学大学院文学研究科と早稲田大学大学院教育学研究科の学生交流に関する協定書」(2002年12月1日付)に基づき本覚書を締結する。

1. 対象者

両大学大学院研究科に在学する修士課程正規学生を対象とする。

2. 申請および承認手続

交流学生として科目の履修を希望する学生は、所定の申請手続をとり、所属大学大学院研究科の指導教員の承認を受け、受入大学の大学院研究科の履修希望科目担当教員の許可を得るものとする。

3. 履修可能科目および単位数

(1) 交流学生が履修できる授業科目は、学生を受け入れる大学の大学院研究科が定め、それぞれ相手大学の大学院研究科へ通知する。

(2) 交流学生が履修できる単位数の上限は、在学中8単位とする。

4. 施設利用の便宜

交流学生が履修上必要な施設・設備の利用については、便宜を供与する。

5. 学費等

協定第7条の学費の内訳は、授業料・施設費・演習料・実験実習費等とする。

6. その他

本覚書に定めるもののほか、本協定の実施に関し必要な事項は、両大学大学院研究科の協議によって定める。

2002年12月1日

慶應義塾大学大学院文学研究科 哲学専攻(哲学・倫理学分野)および上智大学大学院哲学研究科における大学院特別聴講生制度に関する協定

平成13年度新生より哲学専攻が哲学・倫理学専攻に改組されました。

1. 慶應義塾大学大学院文学研究科 哲学専攻(哲学・倫理学分野)および上智大学大学院哲学研究科に在籍する学生が、研究上の必要により相手側研究科設置の授業科目の履修を希望する場合、所属研究科の定める範囲内で履修することができる。

2. 第1項に該当する学生は大学院特別聴講生と称する。

3. 定められた手続きを経て、相手側研究科生の履修申込みを受けたときは、当該研究科は正規の授業に支障のないかぎり、履修を許可する。

4. 履修が許可された科目については、受入側研究科は相手側

研究科の学則に基づいて、成績を評価し、単位を認定して相手側研究科に通知する。相手側研究科は修士課程の単位としてこれを認めるものとする。但し、後期博士課程の学生については、聴講のみとし、単位・成績の認定は行わないこととする。

5. 本制度に関する諸手続は別に定める。

6. 本制度に関する内規は別に定める。

7. 本制度の実施に関する変更は両研究科間の協議により行うものとする。

附 則

本制度は1995年4月1日より施行する。

大学院特別聴講生制度に関する諸手続について

1. 大学院特別聴講生届(所属大学の学事担当部署にあり)に必要事項を記入して、指導教員の承認をうける。次に相手校に赴き、講義担当者の当該授業に出席して承認を受けた後、相手校学事担当部署へ提出すること。

2. 履修が許可された場合、指定の期間内に各学事担当部署窓口にて特別聴講生届用紙本人控と引換えに特別聴講生証を交付する。

3. 相手校の授業科目の履修を希望する場合は、履修決定以前の聴講の段階でも必ず講義担当者の許可を得ること。

4. 万一、履修を途中でやめるようなときは、速やかに講義担当者、相手校学事担当部署および所属大学の学事担当部署に連絡すること。

5. 相手校の授業に関する連絡事項は、所属大学に掲示するので充分注意すること。

関係規程抜粋

文学研究科在籍者に特に関わりの深い規程について抜粋してありますので、履修要項と合わせて参照して下さい。なお、大学院学則については、入学時に配付する慶應義塾大学大学院学則を参照して下さい。

- 1 学 位
- 1 - 1 学位規程 (抜粋)
- 1 - 2 学位の授与に関する内規
- 2 奨 学 金
- 2 - 1 大学院奨学規程
- 2 - 2 小泉信三記念大学院特別奨学金規程
- 2 - 3 小泉信三記念大学院特別奨学金規程細則
- 3 授業料減免
- 3 - 1 授業料等減免規程
- 3 - 2 留学期間中の学費の取り扱いに関する規程
- 4 そ の 他
- 4 - 1 大学院在学期間延長者取扱い内規
- 4 - 2 大学院在学期間延長者並びに年度途中の修了者に対する在学料
その他の学費に関する取扱い内規

学位請求論文製本表紙見本

1 学 位

1 - 1 学位規程 (抜粋)

昭和31年2月17日制定
平成13年12月7日改正

第1条 (目的) 本規程は、慶應義塾大学学部学則及び大学院学則に規定するもののほか、慶應義塾大学が授与する学位について必要な事項を定めることを目的とする。

第2条 (学位) 本大学において授与する学位は次の通りとする。

1 学 士

文 学 部

人文社会学科

哲学専攻	学士 (哲学)
倫理学専攻	学士 (哲学)
美学美術史学専攻	学士 (美学)
日本史学専攻	学士 (史学)
東洋史学専攻	学士 (史学)
西洋史学専攻	学士 (史学)
民族学考古学専攻	学士 (史学)
国文学専攻	学士 (文学)
中国文学専攻	学士 (文学)
英米文学専攻	学士 (文学)
独文学専攻	学士 (文学)
仏文学専攻	学士 (文学)
図書館・情報学専攻	学士 (図書館・情報学)
社会学専攻	学士 (人間関係学)
心理学専攻	学士 (人間関係学)
教育学専攻	学士 (人間関係学)
人間科学専攻	学士 (人間関係学)

経済学部

学士 (経済学)

法 学 部

学士 (法学)

商 学 部

学士 (商学)

医 学 部

学士 (医学)

理工学部

機械工学科	学士 (工学)
電子工学科	学士 (工学)
応用化学科	学士 (工学)
物理情報工学科	学士 (工学)
管理工学科	学士 (工学)
数理科学科	
数学専攻	学士 (理学)
統計学専攻	学士 (工学)
物理学科	学士 (理学)
化学科	学士 (理学)
システムデザイン工学科	学士 (工学)
情報工学科	学士 (工学)
生命情報科	学士 (理学) 又は 学士 (工学)

総合政策学部 学士 (総合政策学)

環境情報学部 学士 (環境情報学)

看護医療学部 学士 (看護学)

2 修 士

文学研究科

哲学・倫理学専攻 修士 (哲学)

美学美術史学専攻	修士 (美学)
史学専攻	修士 (史学)
国文学専攻	修士 (文学)
中国文学専攻	修士 (文学)
英米文学専攻	修士 (文学)
独文学専攻	修士 (文学)
仏文学専攻	修士 (文学)
図書館・情報学専攻	修士 (図書館・情報学)
経済学研究科	修士 (経済学)
法学研究科	修士 (法学)
社会学研究科	
社会学専攻	修士 (社会学)
心理学専攻	修士 (心理学)
教育学専攻	修士 (教育学)
商学研究科	修士 (商学)
医学研究科	
医科学専攻	修士 (医科学)
理工学研究科	
基礎理工学専攻	修士 (理学) 又は 修士 (工学)
総合デザイン工学専攻	修士 (理学) 又は 修士 (工学)
開放環境科学専攻	修士 (工学)
経営管理研究科	修士 (経営学)
政策・メディア研究科	
政策・メディア専攻	修士 (政策・メディア)

3 博 士

文学研究科

哲学・倫理学専攻	博士 (哲学)
美学美術史学専攻	博士 (美学)
史学専攻	博士 (史学)
国文学専攻	博士 (文学)
中国文学専攻	博士 (文学)
英米文学専攻	博士 (文学)
独文学専攻	博士 (文学)
仏文学専攻	博士 (文学)
図書館・情報学専攻	博士 (図書館・情報学)
経済学研究科	博士 (経済学)
法学研究科	博士 (法学)
社会学研究科	
社会学専攻	博士 (社会学)
心理学専攻	博士 (心理学)
教育学専攻	博士 (教育学)
商学研究科	博士 (商学)
医学研究科	博士 (医学)
理工学研究科	
基礎理工学専攻	博士 (理学) 又は 博士 (工学)
総合デザイン工学専攻	博士 (理学) 又は 博士 (工学)
開放環境科学専攻	博士 (工学)
経営管理研究科	博士 (経営学)
政策・メディア研究科	
政策・メディア専攻	博士 (政策・メディア)

前項第3号に定めるほか博士 (学術) の学位を授与することができる。

第5条に定める者には、学位論文を提出した研究科に応じ第1項第3号の学位を授与する。

第2条の2(学士学位の授与要件) 学士の学位は、大学を卒業した者に与えられる。

第3条(修士学位の授与要件) 修士の学位は、大学院前期博士課程を修了した者に与えられる。

第4条(課程による博士学位の授与要件) 博士の学位は、大学院博士課程を修了した者に与えられる。

第5条(論文による博士学位の授与要件) 博士の学位は、研究科委員会の承認を得て学位論文を提出して論文の審査に合格し、かつ大学院博士課程の修了者と同等以上の学識があることを確認(以下「学識の確認」という)された者に与えられる。

第6条(学識の確認の特例) 大学院博士課程における教育課程を終え、学位論文を提出しないで退学した者のうち、退学の日から起算して研究科委員会が定める年限以内に論文による博士学位を申請した者については、研究科委員会が適当と認めた場合、学識の確認の一部若しくはすべてを行わないことができる。

学位論文以外の業績及び経歴の審査によって、研究科委員会が学識の確認の一部若しくはすべてを行う必要がないと認めた場合には、当該審査をもって学識の確認の一部若しくはすべてに代えることができる。

第7条(課程による学位の申請) 第3条の規定に基づき修士学位を申請する者は、学位論文3部を指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。

第4条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部及び所定の書類を添え、指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。

第8条(論文による学位の申請) 第5条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部及び所定の書類を添え、その申請する学位の種類を指定して、学長に提出しなければならない。

第9条(審査料) 第5条の規定に基づき博士学位を申請する者に対する審査料は、次の通りとする。

- 1 本大学大学院博士課程の教育課程を終え学位論文を提出しないで退学した者 50,000円
 - 2 本大学学士又は修士の学位を与えられた者で前号の定め以外の者 70,000円
 - 3 第1号・第2号のいずれにも該当しない者 100,000円
 - 4 本塾専任教職員である者 20,000円
- (医学研究科については40,000円)

第10条(審査並びに期間) 修士及び博士の学位論文の審査並びにこれに関連する試験等の合否は、当該研究科委員会が判定する。

博士の学位論文の審査並びにこれに関連する試験及び学識の確認等は、論文受理後1年以内に終了するものとする。

第11条(審査委員会) 研究科委員会は、学位論文の審査並びにこれに関連する試験等を行うために、関係指導教授及び関連科目担当教授2名以上から成る審査委員会(主査及び副査)を設置しこれに当たらせる。ただし、必要がある場合は助教又は専任講師・講師(非常勤)等を特に審査委員会に加えることができる。

第12条(審査結果の報告・判定方法) 審査委員会は、論文審査の要旨並びに試験の成績等を記録して研究科委員会に報告し、かつ、その意見を開陳する。

研究科委員会は、委員の3分の2以上の出席により成立し、その3分の2以上の賛同をもって学位論文の審査並びに試験の合否を決定する。

前項の議決は、無記名投票をもって行う。

第13条(学位授与) 研究科委員会において学位論文の審査並びに試験に合格した者に対し、学長は当該研究科委員会の報告に基づき学位を授与する。

第14条(学位論文要旨の公表) 本大学は博士の学位を授与したとき、当該博士の学位を授与した日から3月以内にその論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を公表する。

第15条(学位論文の公表) 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位の授与を受けた日から1年以内にその論文を印刷公表し「慶應義塾大学審査学位論文」と明記するものとする。ただし、学位の授与を受ける前にすでに印刷公表したときはこの限りではない。

第16条(学位の表示) 学位の授与を受けた者が学位の名称を用いるときは、学位の後にこれを授与した本大学名を「(慶應義塾大学)」と付記するものとする。

第17条(学位の取消) 不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき、又は学位を得た者がその名誉を汚辱する行為があったときは、当該研究科委員会及び大学院委員会の議を経てその学位を取消するものとする。

第18条(学位記及び書類) 学位記及び学位授与申請関係書類の様式は、別表の通りとする。

第19条(規程の改廃) この規程の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。ただし、第2条第1項第1号及び第2条の2については大学評議会の議を経てこれを行う。

附 則

この規程は平成14年4月1日から施行する。

[以下省略]

1 - 2 学位の授与に関する内規

昭和59年3月16日制定

平成12年5月16日改正

第1条 慶應義塾大学学位規程第13条(学位授与)に関する取扱いは、この内規の定めるところによる。

第2条 論文博士の学位授与及び博士課程単位修得退学者で再入学しない者に対する課程博士の学位授与に関しては、次の通り行うものとする。

1 学位授与日は、研究科委員会の議決日とする。

2 研究科委員会が学位論文審査合格を議決した日以降、「学位取得証明書」を発行できるものとする。

3 学位の授与手続きは、次の通りとする。

イ 研究科委員会の合否判定議決に基づき、研究科委員長はその結果を速やかに学長に報告する。

ロ 学長は、研究科委員長の報告に基づき合格者に学位を授与する。

4 学位記は、学位授与式において授与する。

第3条 修士の学位授与及び博士課程に在学している者に対する課程博士の学位授与に関しては、前第2条第3号と同様の手続きを経て当該年度末(3月23日)をもって学位を授与する。

前項の規定にかかわらず、修士課程においてあらかじめ研究科委員会の承認を得て、学位論文を提出締切期日までに提出せず次年度も引き続き在学している者が、研究科委員会の特に認められた期日までに学位論文を提出し課程修了を認定された場合には、春学期末日をもって学位を授与することができる。

第1項の規定にかかわらず、後期博士課程（医学研究科にあつては博士課程）に在学する者で、大学院学則第109条第3項のただし書（医学研究科については同条第4項のただし書）の適用を受け、春学期末日をもって課程修了を認定された場合には、当該春学期末日をもって学位を授与することができる。

前項の規定にかかわらず後期博士課程（医学研究科にあつては博士課程）に在学する者で、大学院学則第109条第3項のただし書（医学研究科については同条第4項のただし書）の適用を受け、在学する年度途中において特に課程修了を認定された場合には、認定された日をもって学位を授与することができる。

第1項の規定にかかわらず、「大学院在学期間延長者取扱い内規」により在学する者が、春学期末日をもって課程修了を認定された場合には、当該第1学期末日をもって学位を授与することができる。

前項の規定にかかわらず、「大学院在学期間延長者取扱い内規」により在学する者が、在学する年度途中において、特に課程修了を認定された場合には、認定された日をもって学位を授与することができる。

学位記は、学位授与式において授与する。

第4条 学長は、学位を授与した者の氏名その他必要事項を取りまとめて、年2回大学院委員会の各委員に報告しなければならない。

第5条 この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

附 則（平成8年3月8日）

第1条 この内規は、平成12年4月1日から実施する。

第2条 この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

2 奨学金

2 - 1 大学院奨学規程

平成2年4月13日制定

平成10年4月21日改正

第1章 総 則

第1条（根拠） 慶應義塾大学は、大学院学則第16節奨学制度に基づき、貸費及び給費の奨学制度を置く。

第2条（奨学金の種類・金額） 奨学金の種類は、次の通りとする。

1 貸費奨学金（無利子） 修士課程（前期博士課程）学生対象（但し、外国人留学生を除く。）

2 給費奨学金 後期博士課程（以下「博士課程」という。）学生、医学研究科博士課程学生、私費外国人留学生対象
前項に定める奨学金の年額は、次の通りとする。

1 文、経済、法、社会、商学研究科 400,000円

2 医学、経営管理研究科 600,000円

3 理工学、政策・メディア研究科 500,000円

第2章 貸 費 生

第3条（資格） 貸費生の資格は、大学院修士課程の学生（但し、外国人留学生を除く。）とし、次の条件を備えていなければならない。

1 研究の意欲を持ち、経済的に修学が困難であること。

2 学業成績・人物共に優秀で健康であること。

3 原則として、修士課程1年生であること。

第4条（期間） 貸費の期間は、大学院学則に定める修士課程標準修業年限の2か年とする。但し、修士課程2年生が貸費生に採用された場合は、1か年とする。

第5条（申請） 貸費を受けようとする者は、所定の申請書に学業成績証明書、健康診断書及び連帯保証人等の所得証明書を添えて、学生総合センターに申請するものとする。

第6条（選考） 貸費生は、第3条の条件により選考する。

第7条（決定） 前条による選考は、別に定める大学院奨学委員会（以下「委員会」という。）において行い、塾長がこれを決定する。

第8条（家計急変者に対する救済措置等） 天災その他の災害及び家計支持者の死亡、失職等のため家計が急激に変化し、学費の納入が困難になった者等若干名については、第3条第3号の規定にかかわらず、貸費生として追加採用することができる。

第9条（誓約書） 貸費生として決定された者は、所定の誓約書を連帯保証人と連署の上、学生総合センターに提出しなければならない。

第10条（身分等変更の届出） 貸費生は、次の各号に該当する場合は、直ちに学生総合センターに届け出なければならない。但し、本人の病氣・死亡などの場合は、連帯保証人が代わって届け出なければならない。

1 休学、留学、就学、退学

2 本人及び連帯保証人の氏名、住所、その他重要事項の変更

第11条（貸与の休止） 委員会は、貸費生が休学・留学した場合、その間貸費生の資格を休止することができる。

第12条（貸与の復活） 前条の規定により貸費生の資格を休止された者が、休止の理由となったものが消滅した場合、委員会は、申請により貸与を復活することができる。但し、休止された時から3か年を経過したときは、この限りではない。

第13条（失格） 委員会が次の各号により不適格と認めた場合、貸費生はその資格を失う。

1 大学院学則に基づく退学、停学の場合

2 申請書及び提出書類の記載内容に虚偽があった場合

3 正当な理由がなく第10条に定める届け出を怠った場合

4 その他貸費生として不適当と認められた場合

第14条（貸与の辞退） 貸費生は、いつでも貸与を辞退することができる。この場合には、連帯保証人と連署の届出書を、学生総合センターに提出しなければならない。

第15条（貸与金借用証書の提出） 貸費生が次の各号に該当する場合は、貸与金借用証書に貸与金返還総額等を記載し、連帯保証人及び保証人と連署の上、学生総合センターに提出しなければならない。連帯保証人及び保証人の使用する印鑑については、印鑑証明を必要とする。

1 貸与期間が満了した場合

2 貸与を期間中に辞退した場合

3 第13条による失格の場合

第16条（貸与金の返還） 貸与金の返還は、原則として貸与が終了した年の12月から毎年1回の年賦とし、貸与年数の4倍の年数以内に全額を返還するものとする。但し、貸与金はいつでも繰り上げ返還することができる。

第13条による失格者については、貸与金の全額を直ちに返還しなければならない。

第17条（返還猶予） 貸費生であった者が次の各号に該当

する場合には、委員会は、本人の申請により貸与金の返還を猶予することができる。

- 1 災害又は疾病により返済が困難となった場合
- 2 貸与期間終了後、引き続き修士課程に在学している場合
- 3 修士課程修了後、博士課程進学を目指している場合

前項の規定にかかわらず、委員会は、その理由が相当であると認めるときは、申請により貸与金の返還を猶予することができる。

返還猶予期間は1か年とするが、返還猶予の理由が存続する場合は、第1項第3号に基づく場合を除いて、申請により1年ごとに延長することができる。但し、原則として3か年を超えて延長することはできない。

第18条（返還免除） 貸費生であった者が次の各号に該当する場合には、委員会は、本人又は連帯保証人の申請により、貸与金の全部又は一部の返還を免除することができる。

- 1 博士課程に進学し、学位を取得した場合、あるいは博士課程に3か年以上在学して所定の単位を取得し退学した場合。但し、博士課程を途中で退学した者については免除を認めない。
- 2 貸与金返還完了前に死亡した場合。この場合には、連帯保証人又は相続人は、死亡時から6か月以内に、貸与金返還免除申請書を、死亡診断書又は戸籍抄本を添えて、学生総合センターに提出しなければならない。

前項の規定にかかわらず、委員会は、その理由が相当であると認めるときは、申請により貸与金の全部又は一部の返還を免除することができる。

第3章 給費生

第19条（資格） 給費生の資格は、大学院博士課程学生及び私費外国人留学生とし、次の条件を備えていなければならない。

- 1 研究の意欲を持ち、経済的に修学が困難であること。
- 2 学業成績・人物共に優秀で健康であること。

第20条（期間） 給費の期間は、1か年とする。引き続き給費を希望する場合、再申請は妨げないが、3か年（医学研究科は4か年）を超えて給費を受けることはできない。

第21条（申請） 給費を受けようとする者は、所定の申請書に、学業成績証明書、健康診断書及び連帯保証人等の所得証明書を添えて、学生総合センターに申請するものとする。

第22条（選考） 給費生は、第19条の条件により選考する。

第23条（決定） 前条による選考は、委員会において行い、塾長がこれを決定する。

第24条（身分等変更の届出） 給費生は、次の各号に該当する場合は、直ちに学生総合センターに届け出なければならない。但し、本人の病気・死亡などの場合は、連帯保証人が代わって届け出なければならない。

- 1 休学、留学、退学
- 2 本人及び連帯保証人の氏名、住所、その他重要事項の変更

第25条（失格） 委員会が次の各号により不適格と認めた場合、給費生はその資格を失う。

- 1 大学院学則に基づく休学、退学、停学の場合
- 2 申請書及び提出書類の記載内容に虚偽があった場合
- 3 正当な理由がなく第24条に定める届け出を怠った場合
- 4 その他給費生として不適当と認められた場合

第26条（返還） 給費生が前条の規定により給費生としての資格を失った場合は、既にその年度に給付された金額の全部又は一部を返還しなければならない。委員会は、この場合の返還方法を、審査の上定める。

前項の規定にかかわらず、次の各号に該当する場合は、委員会は、申請により既に給付された奨学金の全部又は一部の返還を免除することができる。

- 1 死亡した場合
- 2 第25条第1号の規定により、給費生として資格を失った場合

第27条（事務） 本制度の運営事務は、学生総合センターの所管とする。

第28条（規定の改廃） この規程の改廃は、委員会の議を経て、塾長がこれを行う。

附 則（平成10年4月21日）

この規程は、平成10年4月1日から施行する。

平成3年3月31日以前の課程入学者については、旧・慶應義塾大学大学院奨学規程を適用する。

平成10年4月1日以後の修士課程（前期博士課程）第1学年入学者については、本規程第3条から第18条を適用しない。

平成10年4月1日以後の修士課程（前期博士課程）入学者を、本規程第2条第1項第2号及び第19条の対象に加えるものとする。

2 - 2 小泉信三記念大学院特別奨学金規程

昭和52年4月12日制定

昭和54年7月27日改正

第1条 小泉信三記念奨学金規程第2条第1号に基づき、研究者の養成を目的として大学院に特別奨学金による奨学研究生を置く。

第2条 奨学研究生は、学部第4学年に在学し大学院への進学を志願する学生、または大学院に在学する学生の中から、これを選考する。

第3条 奨学研究生の選考は、各研究科委員会の推薦により、小泉基金運営委員会の議を経て学長がこれを決定する。

第4条 奨学研究生には特別奨学金として、月額30,000円を給付し、その期間は1年とする。ただし、審査の上、この期間を更新することができる。

第5条 この特別奨学金規程に関する事務は、研究助成室が担当する。

第6条 この規程に関する細則は別に定める。

附 則

この規程は、昭和52年4月1日から施行する。

現行小泉信三記念大学院特別奨学金規程は旧・小泉信三記念大学院特別奨学金規程とする。

附 則（昭和54年7月27日）

この規程は、昭和54年9月1日から施行する。

2 - 3 小泉信三記念大学院特別奨学金規程施行細則

昭和52年4月12日制定

昭和54年7月27日改正

第1条 小泉基金運営委員会委員長は、毎年奨学研究生を公募する。

第2条 奨学研究生は、大学院に在学し、次に掲げる各号の条

件を備えていなければならない。

- 1 学業成績・人物共に優秀であること
- 2 将来、研究者たり得る資質ありと認められること
- 3 健康であること

第3条 奨学研究生を志望する者は、次の書類を整えて、保証人連署の上、研究助成室に提出しなければならない。

- 1 願書
- 2 履歴書
- 3 成績証明書 大学学部1年から申請時までの成績証明書
- 4 健康診断書

第4条 各研究科委員会は、奨学研究生を志望した者について審議し、順位を付して小泉基金運営委員会に推薦しなければならない。

第5条 奨学研究生は、次の理由により身分に変更を生じた場合は、保証人連署の上、直ちに学長に届け出なければならない。

- 1 休学・復学・退学
- 2 本人及び保証人の身分・住所その他重要事項の変更。ただし、本人が病氣・死亡等の場合は、保証人が代って届け出なければならない。

第6条 小泉基金運営委員会が、次の理由により不適格と認められた場合は、奨学研究生としての資格を失うものとし、すでに支給した奨学金の全部もしくは一部を返還させることがある。

- 1 この奨学金設定の趣旨に反し、かつ塾生としての本分にもとる行為があった場合
- 2 提出書類に虚偽の記載をした場合
- 3 正当な理由なく第5条に定める届け出を怠った場合

第7条 奨学研究生が退学した場合は、給付を打ち切るものとする。

付 則

この細則は、昭和52年4月1日から施行する。

現行小泉信三記念大学院特別奨学金規程施行細則は旧・小泉信三記念大学院特別奨学金規程施行細則とする。

附 則（昭和54年7月27日）

この細則は、昭和54年9月1日から施行する。

3 授業料減免

3 - 1 授業料等減免規程

平成元年7月18日制定

平成11年11月26日改正

平成12年4月1日施行

第1条（目的） 慶應義塾大学は、疾病・傷害によって授業を長期にわたり休学している学部学生並びに大学院生で、経済上授業料等（大学院にあっては在学料等、以下授業料等という）の納入が著しく困難な学生に対し、審査のうえ、一定の期間授業料等を減免することが出来る。

第2条（対象） 減免を受けようとする者は、1年以上の長期にわたり入院又は通院している者並びに自宅療養をしている者で、休学の2年目以降の者でなければならない。

母国において兵役に就くために休学する者。この場合に限り1年目から減免する。

第3条（申請） 前条に該当する者が減免を申請する場合は、所定の申請書に休学許可書、診断書並びに家計支持者の所得

を証明する書類を添えて、学生総合センター長に提出しなければならない。

第4条（減免額） 減免を認められた者の減免額は、文科系学部・同大学院研究科については授業料等の半額、医学部・同大学院研究科、理工学部・同大学院研究科、総合政策学部、環境情報学部及び大学院政策メディア研究科については授業料等の半額及び実験実習費の半額とする。なお、総合政策学部、環境情報学部、大学院政策・メディア研究科及び法学部政治学科9月入学者は、休学期間が6か月毎のため減免額も半年分の半額とする。

正課又は課外活動中の事故による傷害で休学している場合、その事由を斟酌し、減免額を全額とすることができる。

第5条（審査） 第1条による審査は、大学学部生については大学奨学委員会、大学院生については大学院奨学委員会が行い、塾長が決定する。

第6条（減免の取消し） 休学者が虚偽の申請その他不正の方法で減免を受けた場合には、減免の措置を取り消すとともに、既に減免を受けた授業料等の全部又は一部を納入させることが出来る。

第7条（就学の届出） 休学者が就学した時は、速やかに書面をもってその旨学生総合センター長に届け出なければならない。

第8条（規程の改廃） この規程の改廃は、大学奨学委員会並びに大学院奨学委員会の議を経て、塾長が決定する。

第9条（所管） この規程の運営事務は、学生総合センターの所管とする。

附 則（平成11年11月26日）

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

3 - 2 留学期間中の学費の取り扱いに関する規程

平成元年5月23日制定

平成2年4月1日施行

第1条 慶應義塾大学学部学則第153条及び慶應義塾大学大学院学則第124条により外国の大学に留学する学生（以下留学生という）の学費に関する取り扱いは、この規程の定めるところによる。

第2条 留学期間中の学費の取り扱いは、次の通りとする。

1 留学の始まる日（以下留学開始日という）の属する年度の学費は納入するものとする。但し、留学の奨励を図るため、別に定めるところにより、留学に要する経費の一部を補助することがある。

2 留学の延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して1年6か月以上2年以内の場合は、留学開始日から1年を経過した日の属する年度の授業料（在学料）及び実験実習費の半額を免除する。

3 留学の再延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して2年6か月以上3年以内の場合は、留学開始日から2年を経過した日の属する年度の授業料（在学料）及び実験実習費の半額を免除する。

第3条 留学生が留学の許可を取り消された場合は、その間に免除した学費の一部又は全額を納入させることがある。

第4条 この規程の適用に当たり疑義を生じた場合は、その都度塾長が決定する。

第5条 この規程の改廃は、塾長がこれを決定する。

附 則（平成元年5月23日）

この規程は、平成2年4月1日から施行する。

この規程の制定により、昭和56年5月12日制定、同年4月1日施行の留学期間中の学費の取り扱いに関する規程は、これを旧・留学期間中の学費の取り扱いに関する規程とする。この規程は、留学開始日が平成2年4月1日以降の者に適用する。

この規程の施行前、既に留学を許可され留学している者の学費については、旧・留学期間中の学費の取り扱いに関する規程を適用する。

4 その他

4 - 1 大学院在学期間延長者取扱い内規

昭和59年3月16日制定

第1条 本塾大学大学院後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）において、当該課程修了要件のうち学位論文の審査並びに最終試験を除き所定の教育課程を終えた後、引続き博士学位取得のため在学する者の取扱いは、この内規の定めるところによる。

第2条 在学期間延長を希望する者は、指導教授の許可を得て研究科委員会に「在学期間延長許可願」を提出し、承認を得なければならない。

第3条 研究科委員会は、研究継続の必要性等在学を延長する十分な理由があると認め、かつ教育並びに研究に支障のない場合、大学院学則第128条に定める在学最長年限を超えない範囲で引続き1年間（4月1日～翌年3月31日）の在学を許可できるものとする。

第4条 在学期間延長者が延長期間終了後も引続き在学を希望するときには、新たに「在学期間延長許可願」を提出し、研究科委員会の承認を得なければならない。

第5条 学則定員その他の理由から延長が認められない場合は、大学院学則第153条に定める研究生として受け入れることができる。

付 則

第1条 この内規は、昭和59年4月1日から施行する。

第2条 この内規は、昭和58年度以降に医学研究科博士課程に入学した者並びに昭和60年度以降に後期博士課程に入学又は進学した者に適用する。

第3条 付則第2条の規定にかかわらず、博士課程所定単位修得退学者に対して課程による学位論文提出年限を「博士学位に関する内規」に沿って定めている研究科に在学する者については、昭和59年4月1日からこの内規を適用することができる。

第4条 この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

4 - 2 大学院在学期間延長者並びに年度途中の修了者に対する在学料その他の学費に関する取扱い内規

昭和59年3月30日制定

平成8年3月8日改正

第1条 本塾大学大学院において「学位の授与に関する内規」第3条第2項若しくは第3項により第1学期末日をもって課程修了する者の学費は、次の通りとする。

1 在学料（毎年）

大学院学則第131条に定める金額の2分の1に相当する額

2 施設設備費（毎年）

大学院学則第131条に定める金額

3 実験実習費（毎年）

大学院学則第132条に定める金額

第2条 本塾大学大学院後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）において「大学院在学期間延長者取扱い内規」による在学期間延長者の学費は、次の通りとする。

1 在学料（毎年）

大学院学則第131条に定める金額の4分の3

2 施設設備費（毎年）

免除

3 実験実習費（毎年）

大学院学則第132条に定める金額

在学期間延長者が「学位の授与に関する内規」第3条第4項および第5項により年度途中の日をもって課程修了する場合の在学料は、その課程修了の日が第1学期末日までの者に限り前項に定める金額の2分の1に相当する額。

第3条 「大学院在学期間延長者取扱い内規」第5条による研究生は、大学院学則第153条第2項に定める登録料を免除し、初年度に限り選考料を徴収しない。

附 則

第1条 この内規は、平成8年4月1日から施行する。

第2条 この内規の修士課程に係る本則第1条については、昭和59年4月1日から適用する。

第3条 この内規の後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）に係る本則第2条及び第3条については、昭和58年度以降に医学研究科博士課程に入学した者並びに昭和60年度以降に後期博士課程に入学又は進学した者に適用する。

前項の規定にかかわらず、博士課程所定単位修得退学者に対して課程による学位論文提出期限を「博士学位に関する内規」に沿って定めている研究科に在学する者については、昭和59年4月1日からこの内規を適用することができる。

第4条 この内規の改廃は、塾長が決定する。

学位請求論文製本表紙見本

(1) 表紙

論文 平成 年度 (2 0)
論 題
慶應義塾大学大学院 研究科
氏 名

(2) 背表紙

	} 1.0 cm
2 0	
	} 1.0 cm
論 文	
	} 1.0 cm
論 題	
氏 名	} 5.0 ~ 6.0 cm